

岡田忠郷

河村秀舍
柘植英貞

附記
大岡忠相
列諸侯

東京市史稿

末高忠右衛門拜領屋敷
小石川御殿地四百六拾七坪

山中藤石衛門拜領屋敷
内藤宿新屋敷千八拾坪

大岡主殿拜領屋敷
赤坂明神坂下三百五拾坪

拓植吉五郎拜領屋敷
四谷内藤宿新屋敷三百六拾坪

河村靱負拜領屋敷
半込土手四番町七百貳拾坪

右願之通屋鋪相對替被仰付い例之通可被致い。

〔附記〕 大岡忠相列諸侯

朔日 十月〇寛延元年閏

四千石御加増部合萬石之高
被仰付委者番兼可相勤旨。

閏十月朔日 年〇寛延元年閏。寺社奉行大岡越前守忠相四千石の加秩ありて實祿一萬石とかり、奏者番を兼しめらる。

忠相 初忠義。求馬。市十郎。忠右衛門。能登守。越前守。從五位下。

略。上。元文元年八月十二日寺社奉行とかり、を評定所の事はこれまでのごとく勤むべきむね仰をかうぶる。この日上野國邑樂下野國都賀安蘇梁田四郡のうちにして、二千石を加へたまひ、官俸をそへられて万石以上の格とかり、十二月二十八日こ

れよりのち雁間の末席に候し、歳首を賀するのときも、其席に列し拜謁すべきむね仰をかうぶる。略。中。寛延元年閏十月朔日奏者番とかり、寺社奉行故のごとし。このときさきにたまはる官俸をあらため、三河國寶飯渥美額田三郡のうちにをいて四千八十石を加賜せられ、すべて一万石を領し、同國西大平に居所をいとむ。

寛政重修諸家譜

屋鋪受授

屋鋪受授事
蹟

田沼意次
舟越左門
伊丹勝房

松平忠恒

閏十月朔日壬午 八〇寛延元年(紀元二四〇)屋鋪入替有り。外ニ屋鋪受授若干

是月 四〇寛延元年(紀元二四〇) 月 以テ爲サル。〇寛延録。寛政呈譜。屋鋪

屋鋪受授 屋鋪受授ノ寛延元年閏十月分ヲ合記ス。内、田沼意次松平忠恒ノ屋鋪受領ハ、寛

政呈譜之ヲ是年十月ノ事トス。孰カ是ナルヲ知ラズ。今姑ク寛延録ニ從フ。

朔日 十月〇寛延元年閏

舟越左衛門屋敷ニ

伊丹覺左衛門屋敷ニ

田沼主殿頭屋敷ニ

右之通屋敷入替り被仰付い。

四日 十月〇寛延元年閏

加納大和守屋敷ニ

般 昌 期

松平 宮内少輔 恒 忠

三二七

三二六

御細工頭 岡田 利左衛門 仁

大御番有馬備後守 忠 郷 殿 仁

西丸小十人右馬兵衛組 殿 仁

山中 藤右衛門 仁

小普請組松下 兵衛 支 配 仁

河村 靱 負 仁

同竹中周防守 支 配 仁

柘植 吉 五 郎 仁

寺社奉行 大岡 越前守 忠 相

寛延録

惇信院殿御實紀

松平宮内少輔屋敷に

右之通屋敷入替被仰付也。

田沼主殿頭意次幼名龍助。

同日○寛延元年十月朔日。小川町舟越左衛門屋鋪拜領仕是迄之屋鋪可差上旨於土圭間本多伊豫守

○忠 申渡也。

忠恒從五位下。松平攝津守。幼名定太郎。后大藏少輔を改又宮内少輔を改其後攝津守を相改申也。

同月○寛延元年十月。四日吳服橋内加納大和守屋敷家作共被下之外櫻田屋敷家作とも可差上

旨被仰付也。

圖略○

小川町 坂部彌右衛門○明屋敷 坪數九百五拾坪。内、建家長屋土藏共四百坪程

東 道。柳世庄左衛門。北西 知久權九郎。

南 三十五間。四尺五寸。北西 三十五間。

清水御門外坂部彌右衛門屋敷就御用家作共差上、小川町稻垣越中守殿上ケ屋敷爲代地

家作共拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右繪圖之面、御定枕之通、並建家立具疊長屋土

藏石植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申也。爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月朔日

御小性組花房近江守組頭坂部彌右衛門内

伊部 多 宮印

内田 助左衛門印

加藤備後守渡之。

小川町稻垣越中守上ケ屋敷建家立具疊石植木目錄

一門扉 但、鉋、釘、共、 五枚。

一戸 但、半戸共、 貳百三十六本。

一障子 但、半障子共、 八十七本。

一襖 但、小襖共、 五拾壹本。

一疊 但、半疊共、 貳百四十壹疊。

一梯子 大小、 貳挺。

一石手水鉢 大小、 壹ツ。

一庭石 大小、 品々。

一植木 大小、 品々。

右之通相改、相違無御座請取申也。以上、

辰○寛延元年。閏十月朔日

坂部彌右衛門内

伊部 多 宮

内田 助左衛門

圖略○

千駄木下横町 永島平次郎屋鋪 坪數百拾四坪。

東北 井口久兵衛。西南 遠山半十郎。

殷昌期

東北 西南 十八間 貳尺五寸。
東南 西北 六間 壹尺五寸。

千駄木下横町宮川專助上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月三日

御留守居青山備前守同心

永島平次郎印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

上野彌太夫安川善太夫服部七右衛門。吾孫子助五郎。

左六郎

圖略○

巢鴨 左六郎左次郎兩人屋敷 坪數百四拾坪。

東南 西南 御徒上ヶ地。西北 黑鉄之者。
御徒上ヶ地。

東南 西北 十四間。
西南 東北 十四間。

巢鴨板橋通り御徒引替上ヶ地之内、今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月三日

大御所様附御風呂屋六尺

左六郎印

左次郎印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

圖略○

野村傳左

小石川 野村傳左衛門屋敷 坪數百七拾四坪。

東南 西南 横山半左衛門。西北 栗山政右衛門。
東北 平田與左衛門、鈴木權兵衛。

東南 西北 七間四尺、ナダレ。西南 拾八間。
東北 七間四尺、ナダレ。西南 十壹間。

小石川新鷹匠町大瀧傳四郎殿上ヶ地、今度願之通野村傳左衛門屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月四日

田安大番竹本茂兵衛與野村傳左衛門内

粕谷友右衛門印

水谷信濃守渡之。

圖略○

小澤惣右

小石川 小澤惣右衛門屋敷 坪數百八坪。

東南 西南 茂木久左衛門。西北 多羅尾彌七。
東北 宮下源次郎、長田德右衛門、上田吉平。

東南 西南 六間。
東北 西南 十八間。

小石川小原町恩田吉之助上ヶ地、今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月四日

御書物同心

小澤惣右衛門印

加藤備後守内役人關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付

般昌期

立合無之。
右立合相改渡之。

圖略○

右村上三郎

牛込御徒町 村上三郎右衛門屋鋪 坪數貳百坪。

東 御徒。西 御徒。北 預地。

南 貳十間三尺餘。西 貳十間三尺。

牛込御徒町火除ヶ場明地之内今度願之通村上三郎右衛門屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月六日

表御右筆村上三郎右衛門内
佐藤文治印

水谷佐渡守渡之。

鈴木嘉橋。

上野彌太夫。中村半治。清水藤藏。

圖略○

牛込御徒町 村上三郎右衛門預ヶ地 坪數五拾坪。

東 御徒。西 御徒。北 預地。

南 九間三尺。西 十間。

牛込御徒町火除ヶ場明地之内村上三郎右衛門拜領屋敷裏割殘今度御預地被仰付御預

之被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座預り申為後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月六日

表御右筆村上三郎右衛門内
佐藤文治印

水谷信濃守内役人鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改預之。鈴木嘉橋。

上野彌太夫。中村半治。清水藤藏。

圖略○

牛込御徒町 川崎平右衛門^孝屋鋪 坪數貳百坪。

東 御徒。西 御徒。北 預地。

南 十壹間。西 十壹間。北 十壹間。

牛込御徒町火除ヶ場明地之内今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數坪數右

御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月六日

支配勘定格
川崎平右衛門印

水谷信濃守内役人鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

上野彌太夫。中村半治。清水藤藏。

圖略○

本所南割下水 青木甚五兵衛屋敷 坪數百七拾五坪。

般昌期

川崎定孝

青木甚五兵衛

東北 河原鍋之丞。西南 杉浦惣十郎。
西北 道。東南 酒井内藏助。

本所南割下水早川伊兵衛殿上ヶ地、今度願之通青木甚五兵衛屋敷拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月七日

新御番加藤左兵衛組青木甚五兵衛内
木村谷左衛門印

水谷信濃守渡之。

上野彌大夫清水藤藏。

圖略○

築地鐵炮洲 舟越左衛門屋敷 坪數貳千坪。内、建家長屋土藏共三百八十坪

東 松平大炊頭。西 道。
南 (川)。北 日向半兵衛。
東北 四十七間四尺九寸。
西北 四十七間五尺。

小川町船越左衛門屋鋪就御用家作共差上、爲代地築地鐵炮洲伊丹覺左衛門殿屋敷家作共拜領任、尤長屋南之方梁間貳間之桁行三拾間之長屋、當時普請之付取壞し置、木材木門扉共、其儘之多拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具、疊長屋土藏共御帳面と以相改、相違無御座、受取申、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月九日

寄合船越左衛門内
今井齋宮
國富 薮

加藤備後守渡之。

築地鐵炮洲伊丹覺左衛門上ヶ屋敷建家立具疊目錄

- 一門 扉 俱、錠有。共。 五枚。
- 一戸 俱、半戸共。 百五拾本。
- 一障子 俱、半障子共。 百三十六本。
- 一襖 俱、小襖共。 九拾本。
- 一、疊 俱、半疊共。 貳百八十三疊。
- 一、梯子 貳挺。

右之通相違無御座請取申以上。

辰○寛延 閏十月五日

船越左衛門内
今井齋宮
國富 薮

圖略○

馬場瀧右

牛込御徒町 馬場瀧右衛門屋敷 坪數貳百坪。

東 倉地仁左衛門。西 明地。
東北 道。西南 馬場瀧右衛門永預ヶ地。
東南 西北 十七間三尺九寸。
西南 西北 十壹間貳尺。

牛込御徒町火除ヶ場明地之内、今度願之通馬場瀧右衛門屋鋪拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

殷 昌 期

寛延元戊辰年閏十月九日

水谷信濃守渡之。
鈴木嘉橋。

中村半治。安川善太夫。清水藤藏。

三三六
大御所様御敷番之頭馬場瀧右衛門内
郡司儀兵衛印

圖略○

牛込御徒町 馬場瀧右衛門永御預ケ地 坪數六拾坪。

東北 倉地仁左衛門。同人永御預地。西南 割残り明地。
東南 馬場瀧右衛門。西北 南藏院。

東 南 十壹間 二尺。西南 二尺餘。十一間 三尺。

牛込御徒町火除ケ場明地之内、今度馬場瀧右衛門倉地仁左衛門拜領仕、屋鋪裏之方な
され之所、則兩人に永御預地ニ被仰付、御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之
通、相違無御座御預り申、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月九日

大御所様御敷番之頭馬場瀧右衛門内
郡司儀兵衛印
御庭之者支配倉地仁左衛門内
天笠要藏消印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改預之。

中村半治。安川善太夫。清水藤藏。

圖略○

倉地仁左

牛込御徒町 倉地仁左衛門屋鋪 坪數貳百坪。

東 南 御徒。西南 馬場瀧右衛門。西北 倉地仁左衛門。永御預ケ地。

東 北 十壹間 三尺。西南 九間 三尺。

牛込御徒町火除ケ場明地之内、今度願之通倉地仁左衛門屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間
數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月九日

御庭之者支配倉地仁左衛門内
天笠要藏印

水谷信濃守渡之。

鈴木嘉橋。

中村半治。安川善太夫。清水藤藏。

圖略○

麻布十番 田口五左衛門屋敷 坪數百七拾八坪。

東 南 根本善左衛門。西 道。北 馬場。

東 南 十九間 三尺。西 北 八間 四尺八寸。

淺草元三十三間堂跡拙者拜領屋敷差上、今度願之通麻布十番明地割残り之内、御渡
し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年閏十月十日

御徒日付
田口五左衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

殷昌期

右立合相改渡之。

根本善左

圖略○

麻布十番 根本善左衛門屋敷 坪數百七拾八坪。

東 道。村山彌五郎。北西 田口五左衛門。

南 九間三。尺七寸。北西 九間三。尺。

四谷内藤宿拙者拜領屋鋪差上。今度願之通麻布十番明地割殘之内之多御引替拜領仕、御渡し被成四方間數坪數。右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月十日

御徒目付 根本 善左衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。右立合相改渡之。

圖略○

三田 松本又四郎屋敷 坪數七拾坪。

東 道。青木勘藏。北西 割殘。野村忠助。

南 六間餘。北西 六間。間。貳尺。

三田板倉修理上ヶ地割殘之内。今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡し被成四方間數坪數。右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月十日

服部甚五兵衛組御掃除之者 松本 又四郎印

加藤備後守組關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。右立合相改渡之。

青木勘藏

圖略○

三田 青木勘藏屋敷 坪數七拾坪。

東 道。中道寺。北西 松本又四郎。笠井富次郎。

南 五十三間。北西 五十三間。三。尺六寸。

三田板倉修理上ヶ地割殘之内。今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成四方間數坪數。右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月十日

服部甚五兵衛組御掃除之者 青木 勘藏印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。右立合相改渡之。

圖略○

小川町 田沼主殿頭屋敷 坪數千五百五拾坪。内、建家長屋土藏、共六百七拾坪餘。

東 戸田彌十郎。北西 道。

南 石丸。大。河内數馬。北西 道。

本郷御弓町田沼主殿頭屋敷家作共差上、小川町船越左衛門殿上ヶ屋敷建家共御引替拜

領仕御渡し被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏共御帳面を以相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十月十一日

田沼主殿頭内
楠半七郎印

加藤備後守内山本七郎兵衛、關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用
ニ付立合無之。

右立合相改渡之。

小川町船越左衛門上ケ屋敷建家立具疊目錄

- 一、門扉 但、鏡鑰有。 五枚。
- 一、戸 但、牛戸とも。 四百拾貳本。
- 一、障子 但、半障子共。 貳百本。
- 一、襖 但、小襖共。 八十□本。
- 一、疊 但、半疊共。 七百五疊。
- 一、梯子 四拾挺。

一、貳間四方家來土藏貳ヶ所分
一、取崩置候竹木品々。

右之通相改、相違無御座請取申、以上。

辰元〇寬延 閏十月十一日

田沼主殿頭内
楠半七郎印

圖略〇(朱) 寬延二年四月十五日百々幸太夫組
照録之若四年分屋敷ニ減ス

四谷天龍寺前 根本善左衛門引替上地 坪數貳百三拾貳坪。

此繪圖證文東西ノ指針ナシ。四方間敷共省之。

四谷天龍寺前根本善左衛門殿上ケ地、伊東喜三郎御預ケ被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月十六日

御小性組松平信濃守組伊藤喜三郎内
井坂金平印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無之。

右立合相改預之。

圖略〇

本郷御弓町 伊丹覺左衛門屋敷

坪數七百三拾四坪 内、建家長屋土藏共
百五十六坪餘。

東 眞光寺。野田源五左衛門、吉永竹。西 道。矢場、ナダレ、大井半左衛門。

南 三十八間貳尺。北 四十間貳尺。西 貳十壹間貳尺。東 五寸。

築地鐵炮洲伊丹覺左衛門屋敷御用ニ付家作共差上、爲代地本郷御弓町田沼主殿頭上ケ屋敷家作共拜領仕、御渡し之四方間敷坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月十九日

密合伊丹覺左衛門内
伊藤惣右衛門印

般昌期

三四一

加藤備後守渡之。

本郷御弓町田沼主殿頭上ヶ屋敷建家立具疊植木石目錄

- 一門扉 但、么、鏡有。 五枚
- 一戸 但、半戸共。 百三十九本
- 一障子 但、半障子共。 六十五本
- 一襖 但、小襖共。 七十九本
- 一疊 但、半疊共。 貳百六十四疊

右之通相改相違無御座請取申上。以上。

辰○寬延 閏十月十九日

伊丹覺左衛門内 伊藤惣右衛門印

圖略○

小笠原政登

清水御門外 小笠原石見守○政添地 坪數五百坪。

東 土手(御堀)左衛門。北西 小笠原石見守。
南 中村五郎左衛門。北西 小笠原石見守。
東 三十八間五尺三寸。北西 四十間四尺五寸。
南 三十八間三尺。北西 四十間壹尺五寸。

清水御門外坂部彌口衛門殿上ヶ地、今度小笠原石見守添地拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申上。爲後日仍如件。

寬延元戊辰年閏十月廿三日

小笠原石見守内 田中藤右衛門印 藤村新兵衛印

加藤備後守渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年

閏十月朔日渡。稻垣越中守上ヶ屋敷

御小性組花房近江守組與頭 坂部彌右衛門

一、小川町九百五拾坪

但、清水御門外屋敷、就御用家作共差上爲代地被下。

閏十月三日渡。宮川事助上ヶ地

御留守居青山備前守組 永島平次郎

一、千駄木下横町百拾四坪

同日渡。御徒引替上地之内

大御所様御風呂屋六尺 左 六郎

一、巢鴨板橋通り百四拾坪

但、兩人屋敷大繩之、多渡。

左 次郎

閏十月四日渡。天龍傳四郎上ヶ地

田安大御番竹本茂兵衛組與頭 野村傳左衛門

一、小石川新應匠町百七拾四坪

同日渡。恩田吉之助上ヶ地

御書物同心 小澤惣右衛門

一、小石川小原町百八坪

閏十月六日渡。同斷(○火除地明地之内)

表御右筆 村上三郎右衛門

一、半込御徒町貳百坪

同日渡。同斷

支配勘定格 川崎平右衛門

一、同所貳百坪

但、外之同所地續之、八拾坪、同人拜借地之渡。

表御右筆 村上三郎右衛門

閏十月六日預。火除地明地之内割殘

新御番加藤左兵衛組預地 青木甚五兵衛

一、半込御徒町五拾坪

閏十月七日渡。早川伊兵衛上ヶ地

寄合 船越左衛門

一、本所南割下水百七拾五坪

閏十月九日渡。伊丹覺左衛門上ヶ屋敷

但、小川町屋敷御用之付差上爲代地、渡、建家立具疊長屋土藏共。

一、築地鐵炮洲貳千坪

閏十月九日渡。伊丹覺左衛門上ヶ屋敷

三四三

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

一、同所六拾坪

大御所様御敷番之頭

馬場 瀧右衛門

右 同 永預地人

御庭之番支配

倉地 仁左衛門

右 同 永預地人

御徒目付

田口 五左衛門

同 根本 善左衛門

同 根本 善左衛門

服部五兵衛組御掃除之番

松本 又四郎

同 青木 勘藏

○一本 田沼 主殿頭

伊丹 覺左衛門

寄合

但、鐵炮洲屋敷御用之付差上ハ爲代地渡建家建具疊長屋土藏植木石共。

一、清水御門外五百坪

屋鋪受授

十一月三日癸丑〇寛延元年(紀元二四〇八年)〇屋鋪受授アリ。外ニ是月元〇寛延元年(紀元二四〇八年)〇

月。一屋鋪ノ受授セラル、者若干。〇屋鋪渡預繪圖

屋鋪受授事

踏。一屋鋪受授 寛延元年十一月ヲ以テ爲サレタル屋鋪受授左ノ如シ。

圖〇(朱)寛延二年四月十八日御掃除之者

一、淺草元三十三間堂跡 田口五左衛門引替上ケ地 坪數百貳拾坪。

東 隆光寺。北 西 道。小野喜平次。

南 矢鳥平藏。北 西 十三間貳尺九寸。

東 十三間貳尺九寸餘。北 西 十三間貳尺九寸。

南 八間五尺。北 西 八間五尺八寸。

淺草元三十三間堂跡田口五左衛門引替上ケ地拙者之御預被成、四方間數坪數右御繪圖

面之通相違無御座御預り申ハ爲後日仍如件。

寛延元戊辰年十一月三日 西丸御徒目付 小野喜平次印

立合無之。

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付

本所吉田町 湯川源太夫上ケ地 坪數百拾坪。

東 番利兵衛。北 西 秋。月理右衛門。

殷 昌 期

圖〇(朱)文化三寅年八月十六日御

略。勘定石井源左衛門ニ渡。

東北 拾壹間。

本所吉田町湯川源太夫上ヶ地拙者に御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預申に爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月三日

御細工所勘定役 番 利 兵 衛 印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。

右立合相改渡之。

圖略○

四谷伊賀町 後藤七郎右衛門屋敷 坪數百六拾八坪。

東 道。伊賀者町屋。北 西 割殘り明地。平山直右衛門。

南 東 七間四尺。北 西 七間四尺三寸。北 西 十間四尺五寸餘。

四谷南伊賀町拙者拜領屋敷先年御用之付差上澁谷之系代地被下い處此度願之通元地に元坪之系御引替拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座請取申に爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 後藤七郎右衛門 印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

刑部嘉平 治

圖略○

四谷南伊賀町 刑部嘉平治屋鋪 坪數百五拾四坪。

東 道。竹田金八郎。北 西 飯田幸右衛門。須賀屋忠藏。

南 東 七間壹尺六寸。北 西 六間貳尺六寸。北 西 十間貳間三尺七寸。

四谷南伊賀町拙者屋敷先年御用之付差上澁谷之系代地被下い處此度願之通元地に元坪之系御引替拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座請取申に爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 刑部嘉平 治 印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

圖略○

四谷南伊賀町 椎名源之助屋敷 坪數百五拾貳坪。

東 須賀屋忠藏。明地。西 道。飯田幸右衛門。北 西 牧田幸太夫。

南 東 六間四尺五寸餘。北 西 六間四尺五寸。北 西 十間四尺。

四谷南伊賀町拙者拜領屋敷先年御用之付差上澁谷之系代地被下い處此度願之通元地に元坪之系御引替拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座受取申に爲後日仍如件。

殷 昌 期

椎名源之助

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 椎名源之助印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

平山直右

圖略○

四谷南伊賀町 平山直右衛門屋敷 坪數百五拾貳坪。

東 道。南 後藤七郎右衛門。北西 割残り明地。竹田金八郎。

四谷南伊賀町拙者拜領屋鋪先年御用之付差上、澁谷之系代地被下い處、此度願之通元地、元坪之系御引替拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 平山直右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

飯田幸右

圖略○

四谷南伊賀町 飯田幸右衛門屋敷 坪數百五拾壹坪。

東 刑部嘉平次。北西 推名源之助。南 割残り明地。北西 推名源之助。

四谷南伊賀町拙者拜領屋敷先年御用之付差上、澁谷之系代地被下い處、此度願之通元地、元坪之通御引替拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 飯田幸右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

須賀谷忠藏

圖略○

四谷南伊賀町 須賀谷忠藏屋敷 坪數百四拾七坪。

東 道。南 刑部嘉平治。北西 推名源之助。伊賀者町屋。

四谷南伊賀町拙者拜領屋鋪先年御用之付差上、本郷丸山之系代地被下い處、此度願之通元地、元坪之系御引替拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申い、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

明屋敷番伊賀者 須賀谷忠藏印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

圖略○ 殷昌期

牧田幸太

東京市史稿

四谷南伊賀町 牧田幸太夫屋敷 坪數百三拾四坪。

東 伊賀者町屋。北西 道。

南 六間。西 五間四尺四寸。北 西 貳十三間。四寸。

四谷南伊賀町拙者拜領屋敷先年御用之付差上澁谷之多代地被下之處此度願之通元地之元坪之御引替拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定枕之通相違無御座請取申之爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

御廣敷伊賀者 牧田幸太 夫印

加藤備後守内關音右衛門水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

竹田金八

四谷南伊賀町 竹田金八郎屋敷 坪數百四拾三坪。

東 道。北西 割残り明地。刑部嘉平治。

南 六間貳尺。北 西 六間貳尺五寸餘。北 西 貳拾貳間貳尺四寸。

四谷南伊賀町拙者拜領屋敷先年就御用差上小日向切支丹坂上之多代地被下之處此度願之通元地之元坪之御引替拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定枕之通相違無御座請取申之爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月十三日

小普請方伊賀者 竹田金八 郎印

加藤備後守内關音右衛門水谷信濃守内畠山奎平太。右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年

十一月三日渡。四谷南伊賀町百六拾八坪

明屋敷番伊賀者 須藤七郎右衛門

但右屋敷先年御用之付差上澁谷之多代地被下之處此度元地之元坪之御引替拜領之付渡。

十一月三日預。湯川源天ヶ地。一本所吉田町百拾坪

御細工所勘定役 番利兵衛 預地。

十一月十三日渡。同所伊賀町南百五拾四坪

同(○明屋敷番伊賀者) 刑部嘉平次

但右同斷。○右屋敷先年御用之付差上澁谷之多代地被下之處此度元地之元坪之御引替拜領之付渡。

同 椎名源之助

但右同斷。

十一月十三日渡。四谷南伊賀町百五拾貳坪

明屋敷番伊賀者 平山直右衛門

但右屋敷先年御用之付差上澁谷之多代地被下之處此度元地之元坪之御引替拜領之付渡。

同日渡。同所百五拾壹坪

同 飯田幸右衛門

但右同斷。

殷昌期

同日渡。同所百四拾七坪

但、右屋敷先年御用之付差上、本郷丸山之為代地被下い處、此度元地之元坪之為引替拜領之付渡。

同日渡。同所百三拾四坪

但、右屋敷先年御用之付差上、澁谷之為代地被下い處、此度元地之元坪之為引替拜領之付渡。

同日渡。同所百四拾三坪

但、右屋敷先年御用之付差上、小日向切支丹坂上之為代地被下い處、此度元地之元坪之為引替拜領之付渡。

十二月二日壬午

屋鋪受授有リ。

屋鋪受授

寬延元年十二月ニ於ケル屋鋪受授ヲ、左ニ擧ク。

圖略。文化十一年十一月二十八日御留守居。佐野豐前守與方小山小太郎引渡。

四谷裏番衆町 山田市郎左衛門上ケ地 坪數七拾坪。

東 道。川合甚左衛門。西 藤卷吉十郎。南 關根半左衛門。

東 七間四尺。西 七間五尺。南 九間壹尺。北 九間五尺。

四谷裏番衆町山田市郎左衛門上ケ地、拙者之御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相

須賀谷忠藏

御廣敷伊賀者 牧田幸太夫

小普請方伊賀者 竹田金八郎

屋敷書拔

紀元二四〇年

寬延元年

紀元二四〇年

壬午三月三

屋鋪受授有リ。

屋鋪受授事

有山平左

違無御座御預り申ひ、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十二月二日

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付立合無之。

圖略。

小日向切支丹坂 竹田金八郎上ケ地 坪數百貳拾五坪。預ケ上ケ地共。

東 道。關口次郎左衛門。西 齋藤八十郎。南 十壹間五尺五寸。北 十貳間八間五尺五寸。

東 十三間。西 八間五尺五寸。南 十壹間五尺五寸。北 十貳間八間五尺五寸。

小日向切支丹坂近所竹田金八郎上ケ地并預り上ケ地共、拙者之御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十二月四日

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。

右立合相改渡之。

圖略。

大窪新道 小林彦十郎上ケ地 坪數百拾貳坪餘。

東 尾張殿御屋敷。西 祖父江勘助。南 伊達庄兵衛。

殷昌期

上野十右

法心院深小遣之者 有山平左衛門清印

御先手一柳玄蕃頭組同心 上野十右衛門印

東西 十壹間四尺。
南北 九間四尺。

大窪新道小林彦十郎上ケ地、拙者ノ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預り申、爲後日仍如件。

祖父江勘助

西丸與火之番
祖父江勘助印

寬延元戊辰年十二月廿五日

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。

圖略○（朱寬延二丑年四月十五日飯野又右衛門印渡。

半込山伏町 木原忠助上ケ地 坪數貳百坪。

東 小野定七、村田兵左衛門。西 大和田理左衛門。
南 小川久兵衛、笹本半六。北 道。

東西 貳十間三尺六寸。北 九間五尺。
南 九間三尺六寸。

半込山伏町木原忠助上ケ地、拙者ノ御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預り申、爲後日仍如件。

村田兵左

小普請士屋兵部少輔組
村田兵左衛門印

寬延元戊辰年十二月廿五日

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。

本多忠統

圖略○

芝高輪 本多伊豫守統○忠下屋鋪 坪數三千七百七拾四坪。

東 高輪町屋。西 本多伊豫守抱屋鋪。
南 八幡、本多伊豫守抱屋敷。北 常光寺、町屋、道。

東 八十三間、三折廻し。西 七十八間。
南 四十九間、二十四間。北 三十三間、五間。

大崎村本多伊豫守拜領下屋鋪致抱地之芝高繩抱地之内下屋鋪御引替拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

本多伊豫守内
小川幸左衛門印

寬延元戊辰年十二月廿八日

水谷信濃守渡之。

右之大崎村本多伊豫守殿拜領下屋敷抱地之被成、今度芝高繩抱地之内ニ多三千七百七拾四坪御引替御渡被成、四方間數坪數境目等、相違無御座以上。

辰○寬延 十二月廿八日

船橋安右衛門手代
岡八右衛門印

——屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年

十二月二日預。山田市郎左衛門上ケ地
一、四谷裏番衆町七拾坪
十二月廿五日預。小林彦十郎上ケ地
一、大久保新道百貳拾貳坪餘
十二月廿八日預。自分抱屋敷之内
一、芝高繩三千七百七拾四坪

法心院様小遣之者
有山平左衛門
西丸與火之番
祖父江勘助
本多伊豫守

殷昌期

三五五

但、大崎村拜領下屋敷致抱地之抱地之内ニ多本文下屋敷引替拜領ニ付渡。

附記

屋鋪給附
安上村利

〔附記〕 屋鋪給附

利安初政次郎彌三郎
○上村

寛延元戊辰年月日不知、巢鴨白山屋敷差上、於駿河臺拜領仕、寶曆三癸酉年月日不知、神田佐柄木町倉橋監物屋敷を相對替被仰付い。

廿日庚子○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇庚子、三正綜覽。東叡山位牌所○市内下谷區。ヲ修理シテ成リ、是日○寛延元年紀元二四〇八年十二月廿日。及廿三日癸卯○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇癸卯、三正綜覽。掛員ヲ賞ス。○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇癸卯、三正綜覽。

御信院殿
實紀。

東叡山位牌所修理 左ノ如ク傳フ、

廿日○寛延元年十二月〇中略

時服十。

相模守○堀田正亮

右之上野三御位牌所御修覆御用相勤い之付被下之。

廿三日○寛延元年十二月〇中略

時服三。

小普請奉行 一色周防守○政

右之上野三御位牌所御普請御用相勤い之付被下旨、於芙蓉之間、老中列座、相模守○堀田正亮申渡ス。若年寄列座。
小普請方 内崎角兵衛 杉浦吉左衛門

東叡山位牌所修理事蹟

—屋敷書拔

—寛政呈譜

附記

屋鋪給附
安上村利

〔附記〕 屋鋪給附

利安初政次郎彌三郎
○上村

寛延元戊辰年月日不知、巢鴨白山屋敷差上、於駿河臺拜領仕、寶曆三癸酉年月日不知、神田佐柄木町倉橋監物屋敷を相對替被仰付い。

廿日庚子○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇庚子、三正綜覽。東叡山位牌所○市内下谷區。ヲ修理シテ成リ、是日○寛延元年紀元二四〇八年十二月廿日。及廿三日癸卯○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇癸卯、三正綜覽。掛員ヲ賞ス。○寛延元年紀元二四〇八年十二月〇癸卯、三正綜覽。

御信院殿
實紀。

東叡山位牌所修理 左ノ如ク傳フ、

廿日○寛延元年十二月〇中略

時服十。

相模守○堀田正亮

右之上野三御位牌所御修覆御用相勤い之付被下之。

廿三日○寛延元年十二月〇中略

時服三。

小普請奉行 一色周防守○政

右之上野三御位牌所御普請御用相勤い之付被下旨、於芙蓉之間、老中列座、相模守○堀田正亮申渡ス。若年寄列座。
小普請方 内崎角兵衛 杉浦吉左衛門

右同斷於御右筆部屋縁頼、同人申渡ス。若年寄衆侍座。

同七枚。

同改役 木室庄左衛門

右同斷之付於躑躅之間、若年寄衆出座、宮内少輔○松平忠恒申渡之。

同五枚。

目付役 中島兵右衛門

同三枚。

御徒假役 吉川三郎右衛門

同三枚。

大工棟梁 大谷出雲

同貳枚。

大工棟梁 高橋八平

右同斷被下旨、燒火之間、宮内少輔申渡ス。

—寛延録

廿日○寛延元年十二月。堀田相模守正亮時服十賜はり、東叡山の靈牌所修理惣督を賞せらる。

廿三日○寛延元年十二月〇中略。小普請奉行一色周防守政流、東叡山靈牌所の修理つかさどりしを賞せられ、時服たまはる。屬吏賜もの差あり。

—惇信院殿御實紀

正亮左源治相模守從五位下從四位下侍從。

寛延元年十二月二十日、東叡山三御位牌所修理のことを勤めしにより、時服十領を授けられ、○下

是年○寛延元年紀元二四〇八年。社寺地異動若干有り。○屋鋪渡預繪圖證文、屋敷書拔、御朱印帳、除地古跡、寺社帳、御朱印帳、拜領寺社帳、古跡寺社帳、拜領寺社帳。

社寺地異動 是年○寛延元年紀元二四〇八年。社寺地異動若干有り。○屋鋪渡預繪圖證文、屋敷書拔、御朱印帳、除地古跡、寺社帳、御朱印帳、拜領寺社帳、古跡寺社帳、拜領寺社帳。

社寺地異動 寛延元年中ニ於ケル社寺地異動ヲ擧グ。

般昌昌期

三五七

社寺地異動

社寺地異動

三崎稻荷社

添地ヲ給セラレ、神主ヘノ預地有リ。

圖略○

小川町 三崎稻荷添地。

東 稻荷社地、土手。道、辻番。北西 土手。稻荷神主和田淡路御預り地。
南 壹間貳尺、三間貳尺。北西 四間貳尺。
折廻し十三間三尺。

小川町稻荷小路土手上、三崎稻荷社地際ヲ裏折廻シ、今度願之通社地添地之拜領仕、御渡
し被成、四方面數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

和田淡路

寬延元戊辰年九月十一日

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山平太。

圖略○

小川町 稻荷神主和田淡路御預り地。

東 土手。西 土手。
南 稻荷社地。北 土手。
西北 十三間四尺。
東北 十三間三尺。

小川町稻荷小路土手上之古來有之、稻荷社地際ノ西北之方折廻シ土手上、右御繪圖
面之通、先達ヲ御預ケ地之御座、此度奉願右地所之内ニ有添地拜領仕、残り地之分、
前々之通御預ケ地之被仰付、御繪圖面之間數無相違御預申、然ル上、圍見透、様仕家
作一切不仕、商賣物等堅ク差置申間敷、尤近邊土手小破損等有之節、自分ノ修復可仕

旨、被仰渡、逸々奉畏、爲後日仍如件。

寬延元戊辰年九月十一日

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山平太。

小川町三崎稻荷神主
和田淡路

屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年
九月十一日、自預り地之内

一、小川町稻荷小路三拾六坪餘

三崎稻荷神主
和田淡路

但、土手三崎稻荷社地際ヲ裏折廻シ、社地爲添地渡。

同日預。

右 同人

但、前々ノ同人預り地、此度右地所之内ニ有、前文之通添地之相渡、殘本文之通猶又

相願。

屋敷書拔

氷川大明
神宮

氷川大明神宮 門道地所振替。

除 當地古跡年數不知

下藏谷村
氷川大明神宮所之代神
天台宗 寶泉寺

一、社内六千八百四拾坪。

除地社地六千八百四拾坪。

山王觀理院末
藏谷氷川明別當
天台宗 寶泉寺

内、五百貳拾貳坪。但、横六間、堅八拾

般 昌 期

三五九

右相願候之、唯今迄在來表門道横六間、竪八拾七間、此坪五百貳拾貳坪之所、除地之内之、免畑壹反七畝拾貳步之所へ、右門道殊之外、不勝手之付、此度西之方へ寄せ、寶泉寺持舟橋安右衛門御代官所御年貢畑地貳反七畝拾六步之内へ、門道元坪之通地面振替道附替申度旨申出候由、地面へ附候儀故、御代官舟橋安右衛門方へ申遣爲致吟味候處、寶泉寺免除地有來候門道五百貳拾貳坪と、同寺持之方下濫谷村御年貢畑貳反七畝拾六步之内へ、在來門道坪之通附替候儀、下濫谷村并下豐澤村名主百姓共被、遂吟味候處、門道附替候儀、免除地御年貢地共之同寺持畑之内故、御年貢相減じ候儀も無之、其外何之相障儀無之候、村方より證文差出候、尤安右衛門方も差支儀無之由、書付を以可申聞、猶又見分之者差遣、兩村共之被、相尋候處、何之障儀無之付、門道附替之儀、寶泉寺願之通被申付、寺社方帳面張紙仕由、寺社奉行連印之斷手紙を以て申越、地所振替之儀之付、場所致見分、所之名主共、遂吟味、願之趣相濟、儀も無御座段、一札差出、相違之儀無御座、依之延享五戊辰年五月十三日申上、御帳面張紙仕候。

——地子古跡寺社帳

稻荷社

稻荷社 貸地收還ス。

除地稻荷社地三百五十一坪五合。

京智積院末
市谷田町御教
新義書宗
藏

院

右社地之内空地之場所二十四坪、油屋又兵衛、同二十八坪、大野屋金左衛門隱居樂法と申者、延享二丑年、來ル亥年五〇寶曆迄、中年十年季之借置、金左衛門儀之致家作罷在候處、右

又兵衛不勝手之付、今以不致家作、右地面致返地候旨、教藏院相届出候間、願之通被申付、寺社方帳面張紙仕候由、小出伊勢守持〇英方、印形之斷手紙ヲ以申越候、依之延享五戊辰年四月廿一日申上、御帳面張紙仕候。

——除地古跡寺社帳

元加賀町
稻荷社

元加賀町稻荷社 起立ノ年代ヲ知ラズ、文政町方書上ニ、寛延元年二月ノ縁起有リタルコトヲ傳フ。姑ク此ニ附記ス。

深川元加賀町略〇中

一、稻荷社間口五尺、奥行九尺。

右町内家持太右衛門地面之有之、社之、神體秘封之由、箱有之、此度湯嶋妻戀稻荷社之有之、縁記之由之、寛延之年號有之、縁記差出、得共、前文中申上、通、元御築立之、松平加賀守様御屋敷有之、右跡元加賀新田と唱、元祿年中、發茅野之、始、櫻井屋治郎右衛門と申者、御買請仕、得共、年來水地之有之、享保之頃、始、材木屋共、木置場之仕、藪地之、有、文化十三年、遠州屋徳三郎所持之節、漸、切開キ、其後、持主度々、相替リ、當、太右衛門之、相成、儀之、有、何レ、發地面、限小社之、稻荷之、建置、得共、是、迄、町内之者、右、譯之、儀、相傳、不、申、義之、御座、依、併、此、度、申、立、候、事、故、右、縁、記、相、添、申、上、候。

深川元加賀町太右衛門持地之内。

寛延年中出乳母乳稻荷正一位之神官請、儀之節、元地面主より、稻荷之由來相認、妻戀御社、
殷 昌 期

に差出由右之書留當所之無之由處妻戀御社社役之方之書留有之由間右之文言其儘寫し左之申上由。

正一位出乳母乳稻荷大明神、古代者出地持神明宮、世良田親氏公以來開運守護之御神を御崇敬有之、御神號改り、當時正一位出乳母乳稻荷大明神祭神伊弉諾尊伊弉冊尊大日本女尊三坐奈良比春日大明神信州の御下向之時、天照太神宮御出陣之替りに、太神宮比愛し玉ふ御玉を乞受神靈として御出陣軍は勝利なし玉ひ、夫より尙亦東北國御征伐遊され降參之荒神達を、太神宮之神徳をまがに漸もそれの王化を背き由之付國府之臺乃邊に右の神靈を祭りて荒神達を拜せし免、天尊乃御徳を述おしる、此神靈を拜奉れり、諸願成就し安樂よ事茂諭玉ひしより、荒神の心和らき、王化は腹し國治りい節の神靈を付、國主下向之節、國府の産神として代々崇敬御座由處、天御中尊尊武甕槌命大己貴尊大日本盤余彦尊四座、千葉家謀反征伐之時、頼信と申大將御信心のよし御神の神記より、合祀被成由。

此義後一條院長元元年平忠常謀反、同四年源頼信御征伐之時之義之御座由。

鎌倉八幡宮勸請之節、神主は御宮之藁茅を多分獻し由之付、永く鎮守府の祈願被仰付、頼朝公も御信心被成、其頃奥州一圓を支配仕り大名之御子息葛西清武と申人、神主になり、御父の御免しをうけ、海邊に出張り土地は此方比支配なりとて、出地持神明宮と申由、其砌に社地も神領も手廣き事之御座由。

此義奥州安衡滅亡の後、葛西清重奥州之政事を聞い節之事。

鎌倉公方家京都と不和之節、鎌倉方は神主屬し、世良田親氏と申人をかくまひ置、京都の家を潰されい節、右親氏公竊之神體を持出し、落行い、本道の人の知らん事を恐れ、山道にて道を失ひい處、白狐二ツ先に立行を見るよ、女狐の乳を引ゑらし行を付、不思議儀も存跡を慕行きい所、藤澤の遊行寺に參り、白狐の行方を不知、此御寺に其御方之御由緒の寺之あり間、暫く身を寄せ、神號を敵方のまらさる様之迎、出乳母乳稻荷大明神と祭り、開運をいのり、信心怠ゑらに折節、有夜の夢に高貴比婦人の乳を顯し、吾は天照太神なり、此乳を呑い得、運をむらくゑしとて御招い間、側は立寄、吞居い内に、段々其御神の御貞大きくなると見る中よ、青空となり、今迄乳と覺い、全日輪よて、日輪より乳の垂るゝ事限りなくのみ盡にゑらに、その味美よしてゑとふるよそのなし、ふりゑりて我身を見れり、いゆしゑ自分比骸も大きくなり、大地へ足届きて立せりと覺て夢さ免、夫より旭の登るゑとくに運命をむらき大名よなりい之付、遠國なれとも元の邊に再建致し、御信心御座由内、世代替り、持資入道國府之臺城築之節、龜井戸に移シ奉りい處、其崇りよ哉入道殿の間もなくろひ、城も落、其後關東大亂と成、數ヶ度合戦よ又い破壊よなり、神主葛西加賀代之至て、職業も不立、無是非社地之古木を伐賣拂い事、氏子村氣受惡敷、彌相續成ゑ、其村里よも不居申い處、御府内開ける事になり、上方追々商人下り家居をむらくよ付、材木俄不足致し、高料之成い間、右加賀總州常

州邊之材木賣共之中繼之世話なといふし、神職拾材木町まで見世を初、手廣も商賣致し事なり、深川に引移り木場を開き、老年も成、又々元の神主も成、神職と材木屋と双方を家業不致し、只今の地所へ以前之出乳母乳稻荷大明神を移奉りし所、一代切よて材木屋も成り仕舞の間、只今此場所の安置仕ゆ由に御座ゆ。
右出乳母乳稻荷大明神と唱ゆに付、乳の出ぬ婦人歩行を運ひ祈りゆ得て乳汁出ゆに付、今以て所々より參詣仕義に御座ゆ。

異名子育稻荷様とも相唱、惣多小兒守護比御神之由申傳ゑに御座ゆ。
右親氏公藤澤の遊行寺に隠き居ゆ節、同寺の小僧衆道のかさかひ御座ゆ所、有る夜聲明杯のやうにふしを附云出しを初として、九夜十夜程も同し事を口をささゆ間、不思議と存、書留にも分りゆい間、上人に其由を申ゆ處、御覽ありて是に神託なり、其元は太神宮比御教なり始て神道の奥旨を知るとて、其譯を御教化ありしに付、藤澤を立退出世仕ゆ義に御座ゆ。右神託の寫し別番秘封之儘差上申ゆ以上。

寛延元辰年二月五日

文政町方書上

壽昌寺

壽昌寺 貸地繼續

年貢地境内六百九拾七坪。

外五百五拾坪合五拾除拾地見拾地。

京妙心寺末下大崎 禪宗 壽昌寺

右壽昌寺相願ゆに境内南之方隣松平陸奥守下屋敷境見拾地除地之内四百坪、去る未年

明王院

明王院 建物ノ模様替ヲ爲ス。

除地境内九千九百拾七坪

目黒龍泉寺末目黒 天台宗 明王院

内、三千三百六拾七坪 年貢地

右明王院願出ゆに、貧寺之を修復等難儀に付、唯今迄之五間之八間之客殿、六間之八間之庫裏、并に貳間之七間之長屋門、右三ヶ所、此度疊坪に仕、有來ゆ念佛堂庫裏共之居宅に仕、并三間四方之辨天堂を念佛堂之脇へ引直し、唯今迄西之方行當り之有ゆに、明キ九尺高サ八尺之冠木門、此度行人坂通り町屋並へ引出し、建直し、表門之仕度旨、願出ゆに付、見分之者指遣し、被遂吟味隣寺并に近所町人共へも被相尋ゆ處、願之通門明ヶ替之儀何之相障無御座ゆ旨、證文差出ゆに付、願之通被申付、寺社方帳面致張紙ゆ由、大岡越前守相。忠方より印形之斷手紙を以て申越ゆ。依之延享五戊辰年二月廿六日申上、御帳面張紙仕ゆ。

般昌期

三六五

善福寺

善福寺 地所貸續。

一向宗 善福寺

地子古跡寺社帳

右善福寺相願い、新堀端拜領地九百七坪餘之所、元文四未年、當辰年、迄拾年季町人共拾五人に貸置い處、年季明けの付、又々當年、來ル寅年、迄中年拾ケ年季貸續度旨願出の付、被差免、尤町屋ケ間鋪作事又借シ等不仕、紛敷者差置申間敷い、年季明けの、勿論、雖爲年季内、返地仕の、可相届旨證文被申付、寺社方帳面張紙仕由、大岡越前守、方、印形之斷手紙を以申越い、依之寬延元戊辰年十二月十六日申上、御帳面張紙仕。

本淨寺

本淨寺 地所貸續。

日蓮宗 本淨寺

拜領寺社帳

右本淨寺、元文三年願出、境内折廻し四拾五間之明地、當辰年、迄中年拾ケ年貸地願之通り被差免い、跡年季明けの付、又々寅年、迄中年拾ケ年貸續度旨願出、被差免、尤町屋ケ間鋪作事又借等不仕、紛敷者差置申間敷い、年季明けの、勿論、雖爲年季之内、返地之者可相届旨證文被申付、寺社帳面張紙仕由、大岡越前守、より印形之斷手紙を以て申越い、依之寬延元戊辰年十二月十六日申上、御帳面張紙仕。

宗參寺

宗參寺 地所貸續ヲ允許セラル。

境内七千三百貳拾九坪七合

曹洞宗 宗參寺

御朱印寺社帳

右宗參寺相願い、境内南之方町屋脇空地五拾四坪、町人善兵衛と申者へ、去る午年、より當辰年、迄中年拾年季之借置申度旨、去る巳年、相願い之付、願之通り被申付い、然る處年季明けの付、又々來巳年、より來る卯年、迄借續申度旨願出い、故見分之者差遣し、被差免い、處相違無之の付、願之通り被差免、町屋ケ間敷作事又貸等不致、寺と借地之境相立、寺内より通路無之様仕、年季明けは、勿論、年季之内、返地候い、早速可相届旨證文被申付、寺社方帳面張紙仕由、松平宮内少輔、方より印形之斷手紙を以て申越い、依之寬延元戊辰年五月二日申上、御帳面張紙仕候。

御朱印寺社帳

三光院

三光院 地所貸續。

境内千九百六拾壹坪

天台宗 三光院

右三光院相願い、境内之有來い南之方之、四拾坪之貸地、去る元文三年より當辰年、迄中年拾年季町人治郎兵衛へ貸地之仕度旨、牧野備後守、寺社勤役申願出、被差免い、然る處年季明けの付、唯今迄之通當辰年、より來る酉年、迄中年五ケ年季貸地仕度旨、并四拾坪之内、建家之外、貳間四方之塗家作事仕度旨願出の付、見分之者差遣、被差免い、障儀無之の付、願之通り五ケ年季貸續塗家共、被差免、尤町屋ケ間敷見世商等不仕、紛敷者差置申間敷由、年季明けの、可相届旨證文被申付、寺社方帳面張紙仕由、大岡越前守、方より印形之斷手紙を以て申越い、依之寬延元戊辰年九月二日

殷昌期

三六七

申上、御帳面張紙仕候。

古跡寺社帳

金剛寺

金剛寺 貸地。

境内六千四百四拾八坪

禪宗小日向

剛寺

右金剛寺相願候之、境内貸地之内三百坪、松平大藏少輔家來へ、同六拾坪町醫山田歳叔へ、元文三年より當辰年^{元〇寛延}迄拾ヶ年季貸置^{元〇寛延}の處、年季明^{元〇寛延}の^{元〇寛延}間、又^{元〇寛延}の當辰年^{元〇寛延}より來る寅年^{元〇寛延}迄、中年拾年季貸續^{元〇寛延}度由、并^{元〇寛延}之貳拾坪浪人菅沼平内、四拾四坪之^{元〇寛延}道心大圓へ、寛保元酉年より來る未年^{元〇寛延}迄、拾年季貸置^{元〇寛延}の處、此度兩人共^{元〇寛延}之返地仕、右之内大圓跡、八道心道性家作共、買取^{元〇寛延}當辰年^{元〇寛延}より來る寅年^{元〇寛延}迄、拾年季借地仕度旨、并^{元〇寛延}之六拾坪刑部卿殿御家來若月彌一郎へ、寛保三亥年より來る酉年^{元〇寛延}迄、拾年季貸置^{元〇寛延}此度返地仕^{元〇寛延}の處、奥坊主永田春貞へ、右家作共^{元〇寛延}之買取^{元〇寛延}當辰年^{元〇寛延}より寅年^{元〇寛延}迄、拾年季借地仕度旨、金剛寺願出^{元〇寛延}の^{元〇寛延}間、見分之者差遣^{元〇寛延}し、被^{元〇寛延}遂^{元〇寛延}吟味^{元〇寛延}隣寺所^{元〇寛延}之者へも、被^{元〇寛延}相尋^{元〇寛延}障儀無^{元〇寛延}之^{元〇寛延}之付、願^{元〇寛延}之通^{元〇寛延}被^{元〇寛延}申付^{元〇寛延}、尤^{元〇寛延}町家^{元〇寛延}ケ間敷^{元〇寛延}作事^{元〇寛延}又^{元〇寛延}借等^{元〇寛延}不^{元〇寛延}爲^{元〇寛延}致^{元〇寛延}、年季明^{元〇寛延}の^{元〇寛延}間、勿^{元〇寛延}論^{元〇寛延}、年季之内^{元〇寛延}之^{元〇寛延}も、返地仕^{元〇寛延}の^{元〇寛延}間、可^{元〇寛延}相^{元〇寛延}届^{元〇寛延}旨^{元〇寛延}、證^{元〇寛延}文^{元〇寛延}被^{元〇寛延}申付^{元〇寛延}、寺社方帳面張紙仕^{元〇寛延}の^{元〇寛延}由、大岡越前守^{元〇寛延}相^{元〇寛延}方より印形之斷手紙を以て申越^{元〇寛延}の^{元〇寛延}依^{元〇寛延}之^{元〇寛延}寛延元戊辰年十二月廿二日申上、御帳面張紙仕^{元〇寛延}の^{元〇寛延}。

古跡寺社帳

稱名寺

稱名寺 貸地ス。

境内表口四拾間裏行三拾七間

築地本願寺末
一向宗 稱名

寺

右稱名寺境内表門通り西南之隅、生垣より壹間引込、貳間四方、北之方へ壹間之九尺之底附、平屋造り屋根めげ瓦差置、寺内へ入口壹ヶ所、南之方之明り取三尺之口壹ヶ所、明^{元〇寛延}け、當辰年^{元〇寛延}より來る寅年^{元〇寛延}迄、中年拾年季貸家致^{元〇寛延}作事^{元〇寛延}了^{元〇寛延}山と申禪門差置申度旨、願出^{元〇寛延}の^{元〇寛延}付、見分之者差遣^{元〇寛延}、被^{元〇寛延}遂^{元〇寛延}吟味^{元〇寛延}の^{元〇寛延}處、障儀無^{元〇寛延}之^{元〇寛延}之付、願^{元〇寛延}之通^{元〇寛延}り差免^{元〇寛延}、町屋ケ間敷作事又貸等不^{元〇寛延}致^{元〇寛延}紛敷^{元〇寛延}もの差置申間敷由、年季明^{元〇寛延}の^{元〇寛延}間、可^{元〇寛延}相^{元〇寛延}届^{元〇寛延}旨^{元〇寛延}、證^{元〇寛延}文^{元〇寛延}被^{元〇寛延}申付^{元〇寛延}、寺社方帳面張紙仕^{元〇寛延}の^{元〇寛延}由、大岡越前守^{元〇寛延}相^{元〇寛延}方より印形之斷手紙を以て申越^{元〇寛延}の^{元〇寛延}依^{元〇寛延}之^{元〇寛延}寛延元戊辰年十月廿一日申上、御帳面張紙仕^{元〇寛延}の^{元〇寛延}。

古跡寺社帳

榮松院

榮松院 貸家ヲ設ク。

境内千貳百拾五坪

京智恩院末
淨土宗 榮

松院

内、年貢地百三拾五坪。
右榮松院願出^{元〇寛延}の^{元〇寛延}寺、修復助成并^{元〇寛延}之^{元〇寛延}境内廻り捨物倒者等爲^{元〇寛延}用心^{元〇寛延}、南^{元〇寛延}之^{元〇寛延}方表門より東^{元〇寛延}之^{元〇寛延}方へ、桁行拾三間壹尺、梁間貳間半、南へ壹間之底、北へ九尺之下屋附壹ヶ所、表門と裏門之間空地へ、桁行四間五尺、梁間貳間半、南へ壹間之底、北へ九尺之下家附壹ヶ所、裏門より西之方空地桁行三間貳尺、梁間貳間半、南へ九尺之下屋附壹ヶ所、都合三ヶ所、右之通家作いたし、表通り竹垣附之、三尺宛之入口都合四ヶ所、明^{元〇寛延}ヶ^{元〇寛延}當辰年^{元〇寛延}より來る寅年^{元〇寛延}迄、中年拾年季貸家仕度旨、願出^{元〇寛延}の^{元〇寛延}付、見分之者差遣^{元〇寛延}し、被^{元〇寛延}遂^{元〇寛延}吟味^{元〇寛延}隣寺并^{元〇寛延}之^{元〇寛延}近所町人共へも、被^{元〇寛延}相尋^{元〇寛延}の^{元〇寛延}處、障儀無^{元〇寛延}之^{元〇寛延}之付、願^{元〇寛延}之通^{元〇寛延}り指免^{元〇寛延}、尤^{元〇寛延}町屋^{元〇寛延}ケ間敷^{元〇寛延}見世商等不^{元〇寛延}爲^{元〇寛延}致^{元〇寛延}紛敷^{元〇寛延}もの指置申

間敷の年季明い、可相届旨、證文被申付、寺社方帳面張紙仕、由、松平宮内少輔〇忠方より印形之斷手紙を以て申越、依之寛延元戊辰年八月七日申上、御帳面張紙仕。

古跡寺社帳

自性院

自性院 貸家繼續

拜領地 境内九百三拾六坪

本所彌勒寺末
眞言宗 自性院

右自性院相願い、先年類焼いたし、貧寺故建立爲助成、境内表門より西之方へ有來い生垣より三尺引込、梁間貳間半前通り三尺之庇後通り九尺之下家附、桁行拾六間、西之方生垣より三尺引込、梁間貳間半前通り三尺之庇後通り九尺之下家附、桁行貳拾間、瓦屋根之いたし、入口南之方二三ヶ所、西之方之五ヶ所明ヶ、去る末年〇元文四年より當辰年〇寛延元年迄、拾年季借家之致し、度旨、去る未〇元文四年願出、其節願之通り被差免い、然る處年季明い之付、當辰年〇寛延元年より來る寅年〇寶曆八年迄、中年拾年季又々建置度い、右借家表門より西之方桁行拾六間之内、拾壹間、建後れ、西側通、桁行貳拾間之内、七間半、建後れい之付、是又勝手次第、建繼、當辰年〇寛延元年より來る寅年〇寶曆八年迄、中年拾年季借家いたし、度旨、願出い之付、見分之者差遣し、被、遂、吟、味、隣、寺へも相尋い、處、障、儀、無之之付、願之通り、貸續、并之建後れ、作事共被差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致紛敷もの差置申間敷、年季明い、可相届旨、證文被申付、寺社方帳面張紙仕、由、大岡越前守〇忠方より印形之斷手紙を以て申越、依之寛延元戊辰年十月十八日申上、御帳面張紙仕。

古跡寺社帳

正運寺

正運寺 稻荷社再建、其他ノ工事ス。

拜領地 境内五百坪

京本國寺末
日蓮宗 正運寺

右正運寺願出い、境内東北之方之有い、鎮守三崎稻荷之小宮及零落候然る處、前々有來い貳間四方之三尺之庇付けい、番神堂及大破い之付、近年疊置い處、此度右番神堂再建、稻荷之社之致し、度、由、并、參、詣、人、且、出、火、等、之、爲、め、稻、荷、社、之、前、表、垣、通、り、之、高、サ、九、尺、明、キ、七、尺、之、木、戸、門、壹、ヶ、所、新、規、之、明、申、度、旨、并、之、境、内、西、之、方、之、有、來、い、貳、間、半、之、三、間、半、之、土、藏、此、度、貳、間、之、三、間、之、縮、表、門、西、之、方、垣、並、之、引、直、し、相、建、申、度、旨、願、出、い、之、付、見、分、之、者、差、遣、し、遂、吟、味、隣、寺、并、之、近、所、町、人、共、へ、も、相、尋、い、處、障、儀、無、之、旨、證、文、差、出、い、之、付、願、之、通、り、申、付、寺、社、方、帳、面、致、張、紙、仕、由、大、岡、越、前、守〇忠方より印形之斷手紙を以て申越、依之延享五戊辰年二月十九日申上、御帳面張紙仕。

古跡寺社帳

東漸寺

東漸寺 貸家ヲ繼續ス。

拜領地 境内千四百坪

東叡山末
天台宗 東漸寺

右東漸寺相願い、境内北之方新道通り、構堀之橋貳ヶ所掛ヶ、堀際より三尺引込、梁間貳間半、表通り三尺之庇、裏之方壹間之下屋附ヶ、桁行三拾貳間半、表通り竹垣之仕、入口貳ヶ所明ヶ、并表門より北之方へ往還より三尺引込、梁間貳間半、表之方三尺庇、裏之方三尺庇、裏之方壹間之下屋附ヶ、桁行拾七間三尺、入口貳ヶ所明ヶ、表通り竹垣、丈夫之作事仕、去る

未年〇元文四年より當辰年〇寛延元年迄拾年季貸家仕度旨元文四年未年相願〇之付願〇之通り差免當暮年季明〇ケハ之付唯今迄之通來巳年〇より來る寅年〇迄又々拾年季貸續度旨相願〇之付見分之者差遣被遂吟味隣寺へも被相尋ハ處障儀無之之付願〇之通り拾ケ年季貸續被差免尤町屋ケ間敷見世商等不爲致紛敷もの差置申間敷ハ年季明ハ勿論年季之内〇も家作取崩ハ可相届旨證文被申付寺社方帳面張紙仕ハ由大岡越前守〇より印形之斷手紙を以て申越ハ依て寛延元戊辰年十二月十一日申上御帳面張紙仕ハ

清光院 橋其他ヲ作事ス。

同斷〇淺草 延命院

一、寺内表貳拾間裏へ四拾間。

延寶八申の年二月院號改申ハ由、
寺社奉行衆より斷有之ハ。

拜領地 境内間口貳拾間裏行四拾間。

變岩〇福寺末 淺草新寺町 清光院

右相願ハ境内南之方境より七尺置在之ハ表門明キ七尺高サ壹丈五寸兩開瓦屋根院木門左右控柱北之方〇三尺之溝り附有來之門北之方へ三間引寄せ相建且境内稻荷參詣口南之方境より七尺北之方へ寄せ明キ六尺高サ八尺五寸兩開木戸門新規〇明右門外境内地之内西之方下水際より貳尺置新規鳥居相建下水上有來之長八尺横三尺之石橋貳間半北へ引直し右跡へ長サ六尺横四尺之板橋新規之掛此度引直ハ表門外左門より南之方九尺板塀際へ寄せ無屋根二疋立外繫新規相建右作事〇いたし度旨願出ハ之付見分のもの差遣被遂吟味隣寺へも被相尋候處障儀無之旨證文差出ハ之付願〇之通り被申付寺社方帳面張紙仕ハ旨稻葉丹後守〇より印形之斷手紙を以て申越ハ依之寛延元戊辰年閏十月十八日申上御帳面張紙仕ハ

御朱印拜領地寺社帳

金龍寺

金龍寺 貸家ヲ設ク。

同斷〇淺草 龍寺

一、當地三拾四年。

一、寺内南北六拾貳間東西三拾九間半。

拜領地 境内貳千四百四拾九坪。

京妙心寺末 淺草 龍寺

右金龍寺相願ハ境内東南表通り折廻し往還ハ得共往來無數拾物倒者有之野非人等度々致止宿不用心其上觀音堂裏通御成之節ハ御道筋へも程近ハ之付用心旁火之元爲見廻り表門より北之方有來竹垣より三尺引込拾壹間之所梁間貳間半桁行拾壹間前通り三尺之庇後通り壹間之下屋附入口三ヶ所表門より南之方竹垣より三尺引込梁間貳

殷昌期

三七三

壽松院

大圓寺

間半桁行四拾壹間、庇下屋右同斷入口八ヶ所、同南側竹垣より三尺引込梁間、貳間半桁行七間、庇下屋右同斷入口三ヶ所、口拾四ヶ所、明屋根並瓦葺之いたし、當辰年元〇寛延より來る寅年八〇寶曆迄、中年拾年季貸家作事いたし、度旨願出い之付、見分之者差遣被遂吟味、隣寺并之近所町人共へも被相尋い處、相障儀無之旨、證文差出い之付、願之通り拾年季貸家被差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致紛敷もの差置申間敷、由年季明いハ可相届旨、證文被申付、寺社方帳面張紙仕い由、大岡越前守相〇忠方より印形之斷手紙を以て申越い、依之寛延元辰年十月廿一日申上、御帳面張紙仕い。

古跡寺社帳

壽松院 門前町屋及塔頭所在地へ掛ヶ百八十九坪之地、享保十七年五月收公、元文三年六月預地ト爲リシ者、延享五年四月十五日再興セラル。事下文壽松院門前ノ條ニ具記ス。

大圓寺 舊地ニ復ス。

寛延元辰年十月廿二日酒井雅樂頭殿に達進

大岡越前守伺之通り被仰付い旨被仰渡、奉畏い。

辰〇寛延元年十二月三日

能勢肥後守
東叡山末
淺草大圓寺

右相願い、淺草御藏前天王町之古跡拜領地五百三拾五坪有之、十王堂之儀、慶長十八年台徳院様被遊御建立、其以後大破或之類焼等之節、奉願御代々御金拜領再建仕來い之處、十七年以前享保十七年三月廿八日火災之節、寺院並門前町屋共類焼仕い之付、其砌

爲御用地拙寺地面被召上い。右類焼之節、十王堂藥師堂天王社之土藏造り故焼残りい間、其儘元地之被召置い。右三ヶ所堂敷三拾壹坪御座い并堂地差置い地面奉願五坪御用地之内拜借地之被仰付い。寺院并門前町屋之代地共之五百四坪、淺草堀田加賀守上ヶ地之内之被下置い。元地天王社之先年拜殿有之い處、類焼之付、毎年祭禮之外、日々之社用相止メ、難儀仕い之付、貳間半四方之拜殿地并社後植溜地共百拾壹坪五合五勺奉願、是又拜借地之被仰付い。然處四月元〇寛延元地之内八拾六坪御返被下い段、町奉行能勢肥後守申渡、地面傍示杭打請取之、難有奉存い。勿論代地之方之八拾六坪差上い。此上猶又奉願い、可罷成御儀之いハ、元坪天王町之自坊門前町屋共之御返被成下い様奉願い。元地境内、只今之有て天王町之方四間餘道の出張、見通し不宜い之付、天王町並之被仰付、切レ地出來、元地之内減少仕いハ、不苦い間、何分之御返被下い儀奉願い。尤先年被下置い淺草代地之方、不殘差上可申い。只今罷在い所、元地三社之拾餘町相隔、日々社用并之風雨等之節、別々難儀仕い願之通被仰付いハ、寺境門前町屋共之、隨分人念塗家土藏造り之家作可仕旨、相願之い。

右之通り相願い之付、町奉行に承合い處、大圓寺願之通り、自坊門前町屋共之元地之御返被下、代地場不殘差上い段、相障い儀無之由之御座い間、願之通り元地之御返、代地差上い様之可被仰付い哉、奉伺い。繪圖壹枚差上申い。

十月元〇寛延

殷昌期

寛延元辰年十月廿二日酒井雅樂頭殿の上ル。

淺草十王堂別當大圓寺元地願之儀吟味仕趣申上御書付

能勢肥後守	馬場讚岐守
加藤備後守	水谷信濃守
	東叡山 淺草山 大圓寺

右願い、淺草御藏前天王町之古跡拜領地五百三拾五坪有之、先年十王堂御建立被遊、其後破損類焼等之節、奉願御金拜領再建仕來い處、十七年以前享保十七年火災之節、寺院并門前町屋共類焼仕い、御用地之被召上い處、十王堂藥師堂天王社之藏造り之、焼残りい故、其儘元地之差置い付、右三ヶ所堂敷并之堂守差置い地面之、奉願拜借被仰付、寺院并門前町屋之堀田加賀守上ヶ地之内之、代地被下置い、元地天王町之拜殿有之、い處、焼失之付、祭禮社用相止、難儀仕い、付、貳間半四方之拜殿地并之社後植溜地共之、百壹坪五合五勺、奉願拜借被仰付い處、當四月元地之内八拾六坪被返下、代地之、八拾六坪差上申い、此上猶又奉願い、元坪天王町之自坊門前町屋共之、御返被成下い様之、奉願い、元地境内天王町之方四間餘道之出張り見通し不宜い間、天王町並之被仰付、切レ地出來仕、元地之内減少仕い、亦も不苦い、尤先年被下置い、代地不殘差上可申い、只今罷在い所、元地三社之十餘町相隔り、日々社用并風雨之節、別難儀仕い、願之通り被仰付い、寺院門前町屋共、隨分入念塗家土藏作り之、家作可仕旨、相願い、由、大岡越前守相、申上

い之付、吟味可仕旨、被仰渡い、付、吟味仕趣、左之申上い、右大圓寺元門前町屋地之内八拾六坪、藍作場之内之御座い、故、當四月元地、被返下、代地之内之、八拾六坪取上ヶ、買請地之申付い、大圓寺元地之儀、瓦町之天王町之間、狭り有之い、得共、大圓寺願之通り、自坊門前町屋共、元地之返下され、塗家土藏造り之、家作仕い、爲、火除相障不申、町方之、差障い、儀、無御座い、尤、只今迄、天王町之方之、四間餘出張り有之い、付、天王町並之被仰付い、い、元坪之内、減少之可仕い、得共、町並之、も宜可罷成い、大圓寺願之通り、元地之被返下、可然、奉存い、左い、代地之方之、先達之、通り、買請地之、可被仰付い、哉、先達之、御渡被遊い、書付、壹通繪圖壹枚返上仕い、以上。

能勢肥後守	馬場讚岐守
加藤備後守	水谷信濃守

古跡拜領地 惣坪數四百六拾六坪五合七勺。

東叡山末 淺草山 天台宗 大圓寺 享保撰要類集

内門前町屋小間拾五間三尺裏行四間。

右大圓寺相願い、元地天王町之古跡拜領地五百三拾五坪有之い處、拾八年已前火災之節、寺院并之門前町屋共之御用地之被召上、十王堂藥師堂天王社焼殘い、付、其儘被差置、寺院并之門前町屋共之、代地淺草堀田加賀守上ヶ地之内之、被下置い、然る所、去る辰、元〇寛延四月元地之内八拾六坪御返被下い段、町奉行より申渡、代地之方之、八拾六坪差

上。今度相願い、右代地の方より元地三社へ拾町餘隔り社用難儀之付、自坊門前町屋共之元地へ御返し被下し様相願い。當時元地境内天王町之四間餘道へ出張り見通し悪鋪い之付、天王町並之仕切れ地出来元地減い多も不苦、勿論代地の方ハ不殘可差上旨相願い之付、窺之上元地へ御返し被下、代地之方地面不殘町奉行所へ引渡相濟、元地右切れ地之方六拾八坪四合三勺相減じ、書面之通り惣坪數四百六拾六坪五合七勺之相成由、且元地表通り有來い門貳ヶ所、堀共之假作事下水際之有之いを、此度南の方ハ下水より壹間、北の方ハ同三尺引込、板堀之仕、貳ヶ所之門有來る場所見通之多、堀通へ引込、貳ヶ所共之門明壹丈兩開木戸門之建直し、北之方板堀三尺置門際三尺之所潜り附、南之方門際板堀壹間之跡表下水際迄壹間之壹間之床見世壹ヶ所、兩門之間板堀三間之内、下水際より内へ南の方之多壹間、北の方之多五尺之九尺之床見世壹ヶ所、類焼以前之通り差置度旨、并天王鳥居唯今迄境内社前之有之いを、門外下水際へ出し鳥居建直し度旨、相願い之付、見分之者差遣し、被遂吟味い處、相障儀無之之付、願之通被申付、寺社方帳面張紙由、寺社奉行連印之斷手紙を以申越い、私共場所見分仕い處、相違之儀無御座い、依之寛延二己巳年九月廿一日申上、御帳面張紙仕い。

——拜領地古跡寺社帳

觀音院

觀音院 貸家續續。

拜領地 境内八百五坪。

淺草東光院末
天台宗 觀音

院

右相願い、先年本堂致類焼い處、貧寺其上且方少々、建立相成兼い之付、爲建立助成、古來い境内東之方角より北へ間口五間同六間半之前町屋貳棟在之い、右町屋之續表門より東方町屋迄表通拾四間之所生垣之致、入口貳ヶ所明ヶ、梁間貳間半桁行拾四間前通り三尺之底後通壹間之鍔附、且又裏門より北之方表通拾貳間之所致生垣、入口貳ヶ所明ヶ、梁間貳間半桁行拾貳間前通り三尺之底後通り壹間之鍔附、右貳棟家作いたし、去年文○三、年より當辰年元○寛延迄拾年季借屋いたし度旨、午三○元文二月願出其節願之通被差免い、然る處年季明い之付、只今迄之通り當辰年元○寛延より來る寅年八○寶曆迄拾ヶ年季又々、建置度旨願出い之付、見分之者指遣被遂吟味、隣寺并近所町人共へ被相尋い處、障儀無之由、證文差出い之付、願之通り當辰之年元○寛延より來る寅年八○寶曆迄、貸續被指免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致紛敷もの差置申間敷い、年季明いハ、可相届旨被申渡、寺社方帳面致張紙い由、大岡越前守相○忠方より印形之斷手紙を以て申越い、依之延享五戊辰年四月四日申上、御帳面張紙仕い。

——御朱印拜領地寺社帳

法泉寺

法泉寺 貸家續續。

拜領地 境内千三百貳坪。

池上本門寺末
日蓮宗 法泉

寺

右相願い、先年類焼以後小屋懸同前之普請之段々及破損い得共、貧地其上且方少々、旁々修覆相成兼い之付、境内東之方生垣之内空地有之い裏門東の方へ、桁行拾三間梁間貳間半前通り三尺之底裏通り九尺之下屋附、且又裏門より南の方へ、生垣之内桁行拾貳

間梁間半前通り三尺之庇裏通り九尺之下家附、右貳棟共ニ火除宜様平瓦大壁にいたし、尤生垣之兩方之ゑ入口八ヶ所明ヶ致作事、去る午年三〇元文より當辰年八〇寶曆迄拾ヶ年季借屋之致し度旨、午三〇元文の六月願出、其節願之通被差免、然る處年季明い之付唯今迄之通當辰年元〇寛延より來る寅年八〇寶曆迄拾ヶ年季又々建置度旨願出、之付見分之者差遣被逐吟味隣寺并之近所町人共へを相尋い處障儀無之之付、願之通り貸續被差免、尤町屋ヶ間敷見世商等不爲致紛敷者差置申間敷、年季明いハ、可相届旨證文申付寺社方帳面張紙仕、由大岡越前守相〇忠方より印形之斷手紙を以て申越、依之延享五戊辰年七月九日申上、御帳面張紙仕。

御朱印拜領地寺社帳

市街地異動若干有リ。

〇文政町方書上、屋鋪渡預繪圖證、文、屋敷書拔、拜領地古跡寺社帳。

市街異動

寛延元年中ノ市街地異動若干有リ。

神田佐久間町壹丁目 火除地ヲ代地及拂地トス。文政町方書上ニ。

神田佐久間町壹丁目〇申

一、延享五辰年中前書享保之度火除地之内、麴町平河町壹丁目代地、神田御弓師屋敷同所山本町之相成、い残り地火除地、御拂地之相成、入札人御取調之上、同年五〇延享閏十月十八日能勢肥後守様御番所之ゑ、落札之者、い地所買請被仰付、前書山本町續南之方明地三ヶ所、同月年〇延享五廿八日地所御割渡被成下、此分町名神田柳屋敷之相唱、同町東之方町屋南之方麴町平河町壹丁目代地、續明地一ヶ所、同五〇延享十一月十四日地所御割渡被成下、

神田柳屋鋪町平川町壹丁目
麴町平河町壹丁目
川町壹丁目
下地續買

市街異動事
神田佐久間町壹丁目

此分麴町平河町壹丁目代地續買下地之相唱申い。

麴町平河町壹丁目代地

一、番町往古武州豊島郡矢部村之由、麴町平河町壹丁目之有之、い町屋之御座、い所、享保十ニ未年十二月中類焼致、い節、町内小間三拾八間半、其外武家方共山王火除地之被召上、元地之百六間半相殘、番町之分、翌十三申年〇享八月中、神田佐久間町續火除明地、七割増之代地、被下置、當時東西兩側、よて、小間九拾三間七寸三分之相成申、い右代地、地所、往古之峽田領、神田郷之由、尤兩側之内、西側之分、神田佐久間町二丁目、同所、松永町町屋之有之、い所、享保四寅年類焼之節、右町屋火除御用地之被召上、御明地之有之、東側之分、ハ、京極甲斐守様御屋鋪之有之、い所、同〇享五子年類焼之節、是又御用地之相成、い明地之御座、然所、寛延元辰年十月中、右西側町屋地、尻明地、表面口三拾六間裏行拾五間四尺、御拂地之相成、入札被仰付、當町内落札、よて、代金三百七拾壹兩三分、奉納、御買下ヶ仕、町内小間之相加、い都合小間百貳拾八間之相成、い。〇下

府内備考

神田柳屋鋪

一、右町内之儀、往古武州豊嶋郡峽田領之内、村名不相分、神田佐久間町壹丁目裏通、元來武家地又之寺地之由、申傳、い場所、神田相生町同所八軒町上野町代地、神田松永町之申町屋之相成、居、い所、享保四亥年中類焼後、河岸通火除地之相成、神田佐久間町一丁目跡、退代地被下置、又、い代地之内、表十間通、河岸通、割替之相成、右河岸通り町屋之代地、町屋之間

般昌期

火除明地之内追々所々代地等之相渡い。殘地西之方長東西三十四間半之内西之方長二十壹間裏行三間貳尺東之方拾三間半裏行十六間同所續長東西二十三間半西之方三間半裏行十六間東之方貳十間裏行三間半同所續長東西二十三間半之内西之方十九間五尺裏行四間三尺東之方三間四尺裏行十五間四尺之場所延享五辰年中御拂地之相成入札入御取調之上、同年^{○延享五年}閏十月十八日能勢肥後守様御番所に落札之者被召出地所買請被仰付同月^{○延享五年}閏十月。廿八日地所御割渡被下置町名之儀也、同年^{○延享五年}十一月廿五日神田柳屋敷と相唱申度旨町年寄奈良屋市右衛門方に相願い所同^{○延享五年}十二月三日同所之願之通被申付い然ル所寛政五丑年十月二十五日湯島無縁坂に火出之り町内類燒致河岸通火除地之相成同所佐久間町壹丁目町屋跡退之相成い之付町内御用地之被召上地形相直り線下ヶ代地被下置い旨、同年^{○寛政五年}十二月十七日池田筑後守様御番所之り被仰渡翌寅年^{○寛政六年}四月十三日地所御割渡被下置元地續神田山本町立跡并往還之内代地之被下置當時之地形之相成申い尤柳屋敷と相唱い譯ハ、向柳原の新規町屋敷之義之付右様相唱い様奉存い。

—文政町方書上

神田久永屋鋪

神田久永屋鋪 起立。

神田久永屋鋪

一、右町内之儀之、往古武州豐嶋郡峽田領之内村名不知其後神田佐久間町四丁目町屋之相成享保三戌年當時同町元地同裏町等唱い場所類燒致火除地之相成内神田に代地被

下置い之付相残りい間神田佐久間町四丁目殘地と相唱い所同^{○享保五年}三月廿七日中橋邊に火出之り類燒仕右町屋地尻之方御用地之相成其節同様被召上い御武家上ヶ地北之方之り代地被下置、河岸通裏行八間間九尺宛明爲藏地御割殘被下い處右代地之内南表之方差上上納地之奉願前書藏地後に引付い之付裏行同所二丁目三丁目同様之相成い得共右町々ヶを河岸之方に出張居裏通見通四間通明地之相成居い分東之方角六間之四間同貳軒目三間之四間同三軒目四間四方之地所、延享五辰年御拂地之相成入札之もの御取調之上、同年^{○延享五年}閏十月十八日能勢肥後守様御番所に落札人被召出買受被仰付、同月^{○延享五年}閏十月。廿八日地所御割渡被下置い町名之儀也、神田久永屋敷と相唱申度旨、同^{○延享五年}十一月廿三日奈良屋市右衛門方に相願い所、同^{○延享五年}十二月三日願之通被申付い尤町名之儀、何故右様相唱い哉相分兼い得共、久永相續可致様之祝シ、名付い儀と奉存い。

—文政町方書上

増上寺裏門前馬場後 紺屋干場ニ貸付ス。

圖略○

増上寺裏門前馬場後 紺屋干場三右衛門、重左衛門、三右衛門、仁左衛門、七郎兵衛。

東馬場地。西明地。藤掛、監物、池田伊織、森小三郎、蜷川八左衛門、本多近江守。

東七間。西百間餘。南百間餘。北西百間餘。

増上寺裏門前馬場後御明地之内私共染物干場御願申上い處願之通被爲仰付被下置右

股 昌 期

増上寺裏門前馬場後

御繪圖間數之通干場杭御打被下地所之内、常々心付掃除等入念、猥無之様任、別々御成之節、御目障無之様可仕旨、被仰渡奉畏、爲後日仍如件。

寛延元戊辰年十二月七日

芝口貳丁目仁兵衛店 門印
 同所三町目家主 門印
 重左衛門 門印
 同露月町藤右衛門店 門印
 三右衛門 門印
 同源助町彌兵衛店 門印
 仁左衛門 門印
 西久保天徳寺門前家主 門印
 七郎兵衛 門印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内鈴木嘉橋。右立合相改預之。

屋鋪渡預繪圖證文

寛延元戊辰年十二月七日。増上寺裏門前馬場後明地之内染物干場拜借地

西久保天徳寺門前町家主七郎兵衛 外四人

屋敷書拔

三田隨應寺門前

三田隨應寺門前町 支配ニ入ル。

隨應寺門前

略。上 寺社御奉行御支配之御座ハ處、延享五辰年五月中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役之節、町方御支配之被仰付ハ。

府内備考

麻布永坂光照寺門前

麻布永坂光照寺門前 町支配ニ入ル。

麻布永坂光照寺門前

一、右門前起立之儀、同寺寛永四卯年麻布永坂町坂上東側ニ起立任、同寺境内麻布町御年貢地三百貳十六坪之内、表之方十九坪貳合五勺之場所、門前町家同年ハ町家作被仰付、寺社御奉行御支配之由申傳之御座ハ、其後延享五辰年五月町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役中、町方御支配之被仰付ハ。

文政町方書上

麻布光專寺門前

麻布光專寺門前 町支配ト爲ル。

麻布光專寺門前

略。上 同年六〇寛永 十一月中ハ延寶六午年迄、追々門前家作取立、尤其頃之町屋坪數相知不申ハ、然ル所同年六〇延寶 正月中類焼任、右門前地之内表通り九拾四坪五合四勺之場所、御用地之差上、同年六〇延寶 同所六本木町續之系、元坪之通代地被下置、右代地割餘貳拾壹坪御預ケ地之相成、其後延享五辰年五月中町御奉行能勢肥後守様馬場讚岐守様御勤役之節、町方御支配相成、略。下

府内備考

麻布深廣寺門前

麻布深廣寺門前 町支配ニ入ル。

麻布深廣寺門前

略。上 同年六〇寛永 十一月中ハ延寶六午年迄、追々門前家作取立、尤其頃之町屋坪數相分不申ハ、然ル處同年六〇延寶 正月中類焼任、右門前地之内、表通り七拾九坪六合九勺之場所、御

赤坂田町
五丁目

用地之被召上、同年^{六〇延寶}同所六本木町續之、元坪之通代地被下置、右代地割餘貳拾三坪七合三勺同寺に御預ケ地之相成、其後延享五辰年五月中町御奉行能勢肥後守様馬場讃岐守様御勤役之砌、町方御支配之相成。^{略。〇下}
赤坂田町五丁目 町屋鋪拜領者有。
府内備考

一、町内起立之儀、同所田町壹丁目を委細申上候通之御座候、外拜領町屋敷貳ヶ所有之候儀之末之申上候。
一、町屋敷拜領人名面左之通、

表京間拾間裏幅同斷。裏行拾八間五尺宛。此坪百八拾七坪七合八。

御腰物奉行支配御研師
竹屋伊右衛門

四谷伊賀町

右之町内北之方角屋敷之、先年より同町之内町人市兵衛所持地面之有之候所、延享五辰年七月中元飯田町之御研師竹屋伊右衛門拜領町屋敷有之、右市兵衛地面と相對替御願濟之、前書町屋敷伊右衛門拜領仕、引續當伊右衛門拜領致、御研師相勤罷在、先規持主同様南傳馬町に御傳馬助役相勤來り申候。
四谷伊賀町 町屋鋪領受者有リ。
文政町方書上

表田舎間六間四尺八寸餘。裏幅同斷。裏行貳拾二間三尺。此坪數百五拾壹坪。裏

町屋鋪番伊賀者
飯田兵藏

右之寬延元辰年十一月中、先祖幸右衛門拜領仕、當時他住居之御座候。^{略。〇中}

表田舎間六間四尺五寸。裏幅同斷。裏行南之方二間四尺。北之方二間二尺。此坪數百五拾貳坪。

町屋敷番伊賀者
椎名倉次郎

右之寬延元辰年十一月中拜領仕、當時他住居之御座候。^{略。〇中}

表田舎間六間五尺四寸。裏幅同斷。裏行貳拾二間壹尺餘。此坪數百五拾貳坪餘。

町屋鋪番伊賀者
平山小三郎

右之寬延元辰年中拜領仕、當時他住居之御座候。^{略。〇中}

表田舎間七間貳尺四寸。裏幅六間貳尺六寸。裏行貳拾二間二尺四寸。此坪數貳百五拾貳坪餘。

町屋敷番伊賀者
刑部清次郎

右之寬延元辰年十一月十三日拜領、當時他住居御座候。
——文政町方書上

四谷南伊賀町

四谷南伊賀町 町屋鋪領受者有リ。
一、石切横町并天王横町通、

御勘定奉行支配湯谷所之番
根立長右衛門

町屋敷番伊賀者
椎名倉治郎

小普請石川民部組 山口 西治郎
 明屋敷番伊賀者 尾瀬 糸之進
 小普請神尾豐後守支配 齋藤 熊之助
 御作奉行支配御大工組頭 伊藤 源太夫
 同 平山 小三郎
 同 鶴見 惇助
 淺草御藥奉行松井吉之助支配 畑中 半之助
 御林奉行田島清三郎組御林手代 西村 伴之助
 明屋敷番伊賀者 飯田 兵藏
 小普請土屋殿守組 鈴木 鐵之助
 同 志賀與惣右衛門
 御掃除之番柳田政右衛門組 西山 半平
 明屋敷番伊賀者 刑部 清次郎
 御作奉行支配手代 大竹 城助
 御掃除之番末次左吉組 荒井 彌三郎
 二丸御留守居支配御小人 湯川 榮次郎
 御掃除之番中山五左衛門組 川嶋 直吉

右之通地主人數拾九人、屋鋪數拾七ヶ所之義也、近代迄明地之處、寛延元辰年、追々拜領仕其後、開町屋之相成、分之御座、い間、延享之度、町年寄方、差出、い沽券繪圖面之、右屋敷之分書出無之、
 市谷加賀屋鋪 火見櫓地所ヲ名主ニ預ケ、染物干場ヲ市ニ貸付ス。
 文政町方書上

市谷加賀屋鋪

市谷加賀屋鋪 火見櫓地所。
 東南 明地。西北 明地。
 東北 道。西南 明地。
 東南 四間三尺。
 西南 四間三尺。

圖略

市谷加賀屋鋪火除場明地之内近邊町中火之見櫓地所名主共、御預ケ被成、四方間數右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、御預リ申、爲後日仍如件。
 寛延元辰年閏十月五日
 市谷町組合總名代名主 五郎 左衛門
 加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内畠山平太。
 右立合相改渡之。

圖略

市谷加賀屋鋪 紺屋宇兵衛清兵衛孫兵衛染物干場。
 東南 明地。西北 道。
 東南 明地、町屋。西北 道。西北角 辻番。
 東南 十九間餘。西 折廻し、二十四間五尺。
 同 紺屋茂兵衛小兵衛染物干場。
 東南 佐野十太夫。西 藥王寺門前町屋。
 東南 明地、山中市郎右衛門。北 道。
 東南 十六間餘。西 十六間餘。
 東南 十六間。西 十四間。

市谷加賀屋敷御明地之内、銘々居宅際之、私共染物干場御願申上、い處、願之通被爲仰付、被下置、右繪圖面間數之通、干場杭御打被下、い地所之内、常々心を付掃除等仕、猥々無之様、可仕旨被仰渡、奉畏、爲後日仍如件。
 寛延元辰年十二月十八日

市谷柳町家主 宇兵衛 衛印
 同所甲良屋鋪家主 清兵衛 衛印

三九〇
同所七兵衛店 兵 衛印
同所藥王寺門前家主 兵 衛印
同所家主 小 兵 衛印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山奎平太。

——屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年
閏十月五日渡。火除明地之内
一、市谷加賀屋敷四間半四方

市谷町組合總名代名主
五郎左衛門
預地

但、近邊町中火之見櫓地所之預。

十二月十八日渡。
一、市谷加賀屋敷明地之内染物干場拜借地

小 兵 衛
外四人衛
——屋敷書拔

正智院門前

附近畑地ヲ町屋トス。

寬延元辰年十二月廿三日堀田相摸守殿宛。正智院門前畑地町屋願之儀吟味仕儀申上之書付

能勢肥後守
舟橋安右衛門御代官所小日向正智院門前百姓
市右衛門

右之者持畑三百六拾貳坪之所貳拾五年以前地守家作之儀相願、御免被仰付住居罷在、
處町屋續キ之場所之御座ハ間此度町屋御免地之相願申上。町屋之被仰付ハ、正智院

前町同様之御應御用并火消人足其外町並相勤、増年貢差上可申由相願ハ旨、神谷志摩守
申上ハ間吟味可仕旨、去ル十八日^{年〇寬延元十二月}被仰渡ハ之付、吟味仕儀處、相障儀無御座ハ。尤
小日向町近所智光寺前町人共、^{年〇寬延元十二月}相尋ハ處、差障儀無御座ハ旨申上之ハ。先達^{年〇寬延元十二月}御渡被遊
ハ書付壹通繪圖壹枚返上仕儀以上。

能勢肥後守
——享保撰要類集

巢鴨御駕籠町近所

巢鴨御駕籠町近所 上ケ地ヲ名主ニ預ク。
圖略。

巢鴨 田邊徳右衛門上ケ地 坪數百坪。
東南 垂井鐵五郎。西北 近藤又兵衛。
東北 道。西南 信田六太夫、三宅喜右衛門。
東南 西南 五九間。西北 三三間。

巢鴨御駕籠町近所田邊徳右衛門上ケ地、拙者^{年〇寬延元十二月}御預被成、四方間數坪數右御繪圖之面相
違無御座御預リ申上。爲後日仍如件。

巢鴨御駕籠町近所
徳右衛門

寬延元戊辰年八月廿一日
加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寛延元戊辰年

八月廿一日預。松井中兵衛拜借上ヶ地
一、巢鴨千貳百六拾四坪

巢鴨仲町名主
德右衛門

——屋敷書拔

駒込新屋敷

上ヶ地名主預。

圖略○

駒込新屋敷 松尾忠次郎

坪數三百坪。

東 道。吉本林右衛門。

北西 道。小川十内。

南 道。北西 道。

同 松木直右衛門上ヶ地

坪數三百坪。

東 瀧野新左衛門。

北西 道。(巢鴨通り)。

南 道。北西 道。

駒込新屋敷松尾忠次郎松木直右衛門兩人上ヶ地。拙者に御預ケ被成四方間數坪數。右御

繪圖之面。相違無御座御預り申。爲後日仍如件。

寛延元戊辰年八月廿一日

巢鴨仲町名主
德右衛門

——屋敷書拔

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寛延元戊辰年
八月廿一日預。松木直右衛門上ヶ地
一、駒込新屋敷三百坪

右

同

人○巢鴨仲町名
主德右衛門

——屋敷書拔

駒込

上ヶ地名主預。

圖略○

駒込 右衛門督殿御上ヶ地割残り 坪數千五百坪餘。

東 道。北西 道。小林左次兵衛、西野齋宮、山口久太郎。

南 道。北西 道。

右衛門督様駒込御上ヶ地割残り。拙者に御預ケ被成四方間數坪數。○中御預り申。爲後

日仍如件。

延享五戊辰年三月廿一日

傳通院領名主
庄次郎印

——屋敷書拔

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寛延元戊辰年

同日○三月廿一日預。右衛門督殿御上ヶ地割残り
一、駒込千五百坪餘
○一本抹消

庄次郎

——屋敷書拔

殷昌期

三九三

壽松院門前

町家ヲ再興ス。

拜領地古跡
境內四千拾九坪。

京知恩院末
淨土宗 壽松院

右壽松院境內表門より南之角折廻し門前町屋之候處享保十七子年五月右町屋并塔頭へ懸ヶ坪數百八拾九坪御用地之被召上り表向用心無心元候之付被召上り地面御預ヶ地之被成下り様牧野越中守通寺社勤役中相願元文三年六月願之通り御預地之相成其儘空地之預り罷在り處當辰元四月十五日町奉行能勢肥後守御役所へ壽松院被呼出馬場讚岐守御普請奉行加藤備後守水谷信濃守立會之候境內角之有之明キ地預り罷在り右明キ地先年境內并門前町屋跡之付此度御返し被下り旨被申渡り間如古來門前町屋相建度旨願出り之付能勢肥後守へ被承合有之處酒井雅樂頭殿依御差圖壽松院へ元地御返被下り之付古來之通り町屋相建不苦旨被申聞り由依之壽松院へ如古來門前町屋相建り様被申渡寺社方帳面張紙仕り由寺社奉行連印之斷手紙を以て申越り依之延享五戊辰年六月十四日申上御帳面張紙仕り。

拜領地古跡寺社帳

金龍寺門前

起立ス。貸家作事許可ノコト、上文之ヲ記ス。

金龍寺略

門前 此地ハ寛延元年乞ニ因テ十年ヲ限り表門ノ左右ニ商家ヲ建ル事ヲ許サレ町奉行ノ支配ニ屬ス。右方表間數四十四間半、左ハ十一間半ナリ。

府内誌殘編

金龍寺門前

略上 門前町屋之儀之、寛延元辰年八月廿八日寺社御奉行大岡越前守様御掛り之候願之通被仰付り依り金龍寺門前之町名相唱り。

一、町内東西之方拾四間、北之方七間半、南北之方四拾七間、但、下水并道幅共、尤寺地相除一、町内之字森下之唱り。

府内備考

正慶寺門前

一部起立。

正慶寺門前

略上 門ノ北之方町屋之、延享五辰年寺社御奉行大岡越前守様御願被申上、願之通被仰付、家作仕り由、尤此方拾ヶ年季門前之御座り。

府内備考

本所三笠町

本所三笠町

岡本養右衛門上ヶ地 坪數百拾坪。

東 御米藏手代組屋敷。北 花田甚右衛門。

南 明地。西 七間。北 拾五間。尺。

殷昌期

本所三笠町岡本養右衛門上地、拙者に御預け被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

寬延元戊辰年十一月三日

吉岡町名主
清

藏印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。

右立合相改預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寬延元戊辰年

十月三日預。岡本養右衛門上ケ地
一、本所三笠町百拾坪
○一本抹消。

吉岡町名主

清

預地

——屋敷書拔

附記、一
鳥問屋取極

〔附記、一〕 鳥問屋取極

一、在々御留場之を盜鳥致し者有之、江戸表に差出、致商買ひ之付、水鳥問屋六人岡鳥問屋八人相極い趣、享保十巳年相觸い處、近來猥ニ相成、江戸表之をも馴合賣捌い故、在々之を盜鳥致差出い者も有之い、享保十巳年相觸い通、左之者共鳥問屋之相極其外之仲買を始、脇店小賣之者共迄、一切鳥賣買停止之い間、急度可相守い、然ル上之、町々名主共遂吟味、書面之外之者鳥商賣、堅爲仕間敷い、左之鳥問屋共之致吟味い答之申付い條、其

旨可相守い、後日之外之相知いり、當人之勿論其所之家主五人組名主迄急度可申付い。

水鳥問屋

瀬戸物町八兵衛店甚兵衛、同町嘉右衛門店喜兵衛、本小田原町一丁目助七店七兵衛、同町七郎兵衛店三郎左衛門、同町彦右衛門店伊兵衛、安針町覺右衛門店彌右衛門。

岡鳥問屋

小石川下富坂町家持利右衛門家主三郎兵衛、本小田原町彦右衛門店半九郎、小石川下富坂町家主佐兵衛、同町家主清兵衛、本小田原町太郎兵衛店又七、北鞘町清兵衛店伊兵衛、瀬戸物町家主長次郎。

巳二〇寬延
年。正月

右御觸、正月廿四日二〇寬延、奈良屋之を寫物、町中連判、同年正月二、九日同所納。

——正寶事錄

〔附記、二〕 大的稽古場其他預

圖略○

市谷加賀屋鋪 小十人方大的稽古場。

東。道。西。道。
南。地。北。地。

東北。六十間。
西南。六十間。

殷 昌 期

三九七

附記、二
大的稽古
場其他預

小十人
大的稽
古場

市谷加賀屋鋪火除ケ場明地之内ニ多、今度小十人方大の稽古場御預ケ被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座御預リ申イ。勿論右稽古迄之儀之ハ故、不依何事、地所ニ懸リハ儀世話仕ハ譯ニ多ク無之旨、奉得其意ハ、爲後日仍如件。

寛延二己巳年正月廿七日

小十人頭安藤正少弼内
上柴 忠 司印
芝山小内兵衛内
山口 冲右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改預之。
富山久右衛門。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。

圖

略。○(朱) 文化五辰年十二月十二日齋藤權八、
秦總太郎、安田新平、古屋金五郎ハ渡。

四谷新宿 小野崎源内上ケ地 坪數百五拾坪。

東 道。御先手組屋敷。
南 明地。北 西 木戸彦右衛門。
南 九間五寸。北 西 九間五寸餘。
南 十六間三尺。北 西 十六間三尺。

四谷新宿尾張殿御上ケ地之内小野崎源内上ケ地、拙者ハ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申イ。爲後日仍如件。

寛延二己巳年正月廿九日

土岐左兵衛同小内屋頭
八木岡冲右衛門印
水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付
立合無之。

八木岡
冲右

右立合相改渡之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寛延二己巳年

正月廿七日預火除場明地之内
一、市谷加賀屋敷 幅長六拾間。

但、小十人大的稽古場ニ渡。

正月廿九日預。小野崎源内上ケ地
一、四谷新宿百五拾坪

文化五辰年十二月十二日齋藤權八、秦總太郎、安田新兵衛、古屋金五郎ハ渡ス。

——屋敷書拔

屋鋪受授

二年己巳○寛延○紀元 二月八日丁亥○丁亥、三
正絲覽。屋鋪地ヲ借受ケタル者有
リ。外ニ是月二○寛延二年紀元 若干屋鋪受授セラル。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷
書拔。相對替御書附書拔。

屋鋪受授事

屋鋪受授 屋鋪受授ノ寛延二年二月ニ在リタル者ヲ擧グ。

圖

遠藤易續

小石川牛天神下 遠藤六郎右衛門 ○易 拜借地 坪數百貳拾七坪。

東 遠藤六郎右衛門。
南 遠藤六郎右衛門。北 西 中村藤左衛門。

東 十間餘。
南 西 十間四尺。

小石川牛天神下諏訪町林泉寺無量寺稱名寺右三ヶ寺上ケ地、今度遠藤六郎右衛門屋敷
殷 昌 期 三九九

地狹ニ付御役勤小内拜借地被御付御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座請取申爲後日仍如件。

寬延二己巳年二月八日

御勘定奉行藏藤六郎右衛門内
池田勇左衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付
立合無之。
右立合相改渡之。

圖略○

根津元御屋敷之内 田代銀次郎上ケ地 坪數五拾坪。

東道。牧野權藏。北西 三浦牛之助。
南 白井左平太。
南北 拾間。

根津元御屋敷之内田代銀治郎上ケ地拙者ニ御預ケ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申爲後日仍如件。

寬延二己巳年二月九日

小普請丹羽近江守組
白井左平 太印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。

圖略○

當八月廿三日御下男普右衛門之渡。

小日向若荷谷 波多野幸右衛門上ケ地 坪數七拾五坪。

東道。早川伊兵衛。
南 西 神谷助七。
東 十壹間四尺。北 西 十間三尺。
南 七間貳尺。

小日向若荷谷波多野幸右衛門上ケ地拙者ニ御預ケ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申爲後日仍如件。

寬延二己巳年二月十一日

小普請青山備前守組
神谷助 七印

水谷信濃守内畠山奎平太。加藤備後守内役人外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。

——屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年

二月八日渡。林泉寺無量壽寺右三ヶ等上ケ地
一 小石川諏訪町百貳拾七坪
二月九日預。田代銀次郎上ケ地
一 根津元御屋敷之内五拾坪
○一本抹消。

御勘定奉行
遠藤六郎右衛門
小普請丹羽近江守組拜借地
白井左平 太印
——屋敷書拔

寬延二己巳年二月十七日

同役來。
御普請奉行。

殷昌期

堀田正亮

堀田相模守○正亮

加納久堅

加納大和守○久堅

加納大和守下屋敷三千四百坪餘
澁谷下懸瀨村
堀田相模守下屋敷之内三千六百坪
南本所石原
堀田相模守
南本所石原
堀田相模守
右願之通屋敷相對替被仰付い間可被得其意い

相對替御書附書拔

廿二日辛丑

○寬延二年(紀元二四〇九)二月〇辛丑三正綜覽

抱屋鋪法規ヲ布達ス。○寬延錄撰要永久錄。寬延二錄正寶事錄。

抱屋鋪法規
事蹟

抱屋鋪法規

寬延錄○寬延二錄撰要永久錄同。

廿二日○寬延二年二月

一、左之御書付伊豫守殿○本多忠統御渡被成い由

一、新規抱屋敷出來い儀之、決い不い相成い

一、御三家諸大名を始惣い御目見以上之分い、由緒無い之いも相互に讓渡い請い様之可致い

但、抱屋敷數二ツ迄い不い苦い、其餘之難成い、唯今迄持來りい分い不い苦い

一、御目見以下并陪臣寺社百姓町人い、御目見以上之面々い讓渡い儀由緒無い之いも可相濟い

可相濟い

御目見以上之面々い讓渡い義、由緒無い之いも可相濟い

御目見以下之面々い讓渡い儀、陪臣百姓い之由緒無い之いも不い苦い、寺社町人い之可爲無用い

但、百姓所持之抱屋敷圍等も有い之い、讓請抱屋敷致い儀不い苦い、百姓所持之畑地ヲ讓請抱屋敷之致い儀い可爲無用い

一、御目見以下陪臣寺社百姓町人、由緒無い之い共相互之讓渡讓請い様之可致い

右之内、

一、武士い町人い之讓渡い儀之、可爲無用い

一、町人い武士い之讓渡い儀い不い苦い

一、百姓所持之抱屋敷を町人い之讓渡い儀之、難成い

一、寺社抱屋敷い、由緒無い之い共讓渡之儀、武家町人之無差別、可相濟い

一、惣い抱屋敷を百姓い之遣い儀之、御目見以上以下何方い願出い共、由緒無い之いも可相濟い

相濟い

一家來所持之抱屋敷町屋敷ヲ主人屋敷之仕い儀、又い主人所持之抱屋鋪町屋敷ヲ家來い之遣い儀、由緒無い之い共可相濟い

一、惣い讓渡い抱屋敷又い外い之讓渡い儀之、年數之無差別、可相濟い

一、町屋敷讓渡い儀、町人い百姓い之難成い

右之通、向後可被相心得い

一、抱屋敷相對替之儀之、向後讓渡讓請之通り相心得、可被取計い

巳○寬延二年二月

正實事録ハ、同布達ノ末ニ、左ノ如ク記ス。

右御觸、三月廿二日〇寛延二年三月喜多村之系寫物、町中連判、同年三月廿五日同所納。

(朱)見出書

享保十一年午九月十二日、惣多百姓地抱屋鋪町並屋敷町屋鋪、筋違ハ者ニ譲リ渡シ、義之、不成儀ニ付、被仰出之儀、被仰渡有之。

并、

抱屋鋪抱地町並屋鋪町屋敷分リ之事、其外新地御奉行様御届筋手前心得之書留寶曆五亥年有之。

惇信院殿御實紀ハ、是年三月朔日ノ條ニ、此ノ令ヲ載ス。

三月朔日〇寛延二年〇中略けふ園莊の制を仰下さる。をよそ新に園墅を買求る事は禁ぜらる。三家をはじめ大名旗本互にゆづりわたすは、ゆかりかしたもゆるさるべし。まかれとも二所の外多くすべからず、但しもとより有來れるはこの限にあらず、見參ゆるされざる御家人并に寺社農商より見參ゆりたる人にゆづりわたすは、ゆかりかくとも免さるべし。見參ゆりたる人より陪臣農家には譲るべし。寺社商賈には譲るへからず、見參ゆるされぬともがら、并に陪臣寺社農商は、互に譲りわたしゆるしからず、農民のかねて垣ゆひまはしたる地は、ゆづり得てより田畑は禁ぜらる。武家より商家へ譲るへからず、市人より武士に譲るべし。農より商には譲るへからず、寺社はゆかりかくとも武家商家の別かく

譲るへし、すべてかゝへをきし別墅を農民に譲る事は免さるへし、家人の地を主人のものとかし、主人の地を家人に與ふるは免さるべし、をのが他より譲りえし地をまた他に譲る時は、年月をふるに及ばず譲るともくるしからず、町屋敷を農に譲る事はあるべからずとかり。

〔附記〕 雜司谷鷹部屋防火

寛延二巳年二月能勢河内守〇頼カ來ル書付

雜司谷御鷹部屋町火消欠付人足之儀申上ハ書付

雜司谷御鷹部屋町火消

- 大塚上町名主 三 十 郎
- 同仰町、同久保町、龍門寺町門前、大鷹寺門前名主 小 兵 衛 門
- 大塚町名主 安 右 衛 門
- 大塚高源院門前、普羽堂町目、四町目迄、東西青柳町名主 吉 十 郎
- 普羽五町目、九町目迄、同櫻木町名主 勝 右 衛 門

右之者共、今度雜司谷御鷹部屋火消被仰付ハ、付、當月〇延享四年三月十日私共方ニ罷越ハ、間、右之者共ハ、火事之節早速欠付ハ、御鷹部屋并ニ御役屋敷共、其外之所も早速消ハ、儀專一ニ心得可申旨、右消口ニ差圖相待消兼ハ、多も無益之儀ニ付、兎角消留ハ、儀專一ニ仕旨、申渡ハ、處、何れも承知仕ハ。

附記
雜司谷鷹
部屋防火

一、右町火消方角先規を見付之場所ニ火事有之節雜司谷之方、欠付人足手當仕置い哉と相尋い處、右被仰付無御座い間、方角ニ出火有之節、不殘方角之方い罷越跡ニ多雜司谷之方出火ニ申いハ、方角ニ出い方ハ欠返し相詰可申由申付、人足九拾壹人之内三拾人宛も相殘雜司谷御應部屋ハ欠付い様ニ心懸ケ六拾壹人ハ方角之方ハ罷出い儀ニ罷成間敷哉と相尋い處、町奉行様ハ被仰渡無之、名主共了簡ニ多ク不罷成儀之由申い。

右之通ニ御座い間、欠付人足九拾壹人之内、御應部屋ハ欠付人足殘置方角ニ出火有之い節、方角之方ハ罷出い様ニ、被仰付被下い様奉願い以上。

巳二〇寛延三月

青木源左衛門

根津六郎右衛門

享保撰要類集

屋鋪預

三月十五日癸亥

寛延二年(紀元二四〇九年)〇癸亥、三正綜覽。

及十六日甲子

寛延二年(紀元二四〇九年)三月〇甲子、三正綜覽。

十八日丙寅

寛延二年(紀元二四〇九年)三月〇丙寅、三正綜覽。

屋鋪預有リ。

屋鋪渡預繪圖。證文。屋敷書拔。圖

屋鋪預事蹟

屋鋪預 寛延二年三月左ノ屋鋪預有リ。

圖略。當八月九日(〇寛延二年)加藤時右衛門ハ渡。

赤坂寺町 諸住善次郎上ケ地

坪數七拾貳坪。

東 道。飯田次郎八、山口治助。北 西 藤波勝右衛門。
 南 五間。飯田幸右衛門上ケ地。西北 川上次郎右衛門。
 西 四間四尺。東北 德田甚兵衛上ケ地。
 南 十五間。北 十五間壹尺。東北 稻葉丹後守。

赤坂寺町諸住善次郎上ケ地、拙者ハ御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預り申い爲後日仍如件。

飯田次郎

寛延二己巳年三月十五日

飯田次郎 八印

水谷信濃守内島山奎平太。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無レ之。

右立合相改渡レ之。

圖略

澁谷 平山直右衛門上ケ地 坪數百貳拾八坪。
 東南 飯田幸右衛門上ケ地。西北 德田甚兵衛上ケ地。
 西南 道。東北 稻葉丹後守。
 同 飯田幸右衛門上ケ地 坪數百貳拾坪。
 東南 後藤七郎右衛門上ケ地。西北 平山直右衛門上ケ地。
 西南 道。東北 稻葉丹後守。
 同 後藤七郎右衛門上ケ地 坪數百三拾貳坪。
 東南 椎名源之丞上ケ地。西北 飯田幸右衛門。
 西南 道。東北 稻葉丹後守。
 同 椎名源之丞上ケ地 坪數百貳拾坪。
 東南 永井平藏。西北 後藤七郎右衛門上ケ地。
 西南 道。東北 稻葉丹後守。

股昌期

右 東南 十三間七寸。西北 十三間三寸。
刑部嘉平次上ヶ地 坪數百貳拾坪。

東南 木本半次郎。西北 永井平藏。
道。稻葉丹後守。

同 東南 西北 十三間七寸。
牧田幸太夫上ヶ地 坪數百拾坪。

東南 大久保龜次郎。西北 御留守居組。
道。

刑部嘉平次上ヶ地之處付箋
東南 西北 十九間。
西南 東北 五間四尺八寸。

寬延三年十月十五日

大御所様御馬御口之者山本徳右衛門に七拾坪相渡申候。
天明六年十月廿三日

御膳所御臺所人永井八五郎に百七拾四坪餘切渡申候。

澁谷平山直右衛門飯田幸右衛門後藤七郎右衛門椎名源之助刑部嘉平次牧田幸太夫右
六人引替上ヶ地并平山直右衛門預り徳田甚兵衛上ヶ地共拙者共御預被成四方間數
坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

寬延二己巳年三月十六日

御留守居士屋兵部少輔同心
山本勝右衛門印
澁谷宮益町名主
與右衛門印
加藤備後守内關音右衛門水谷信濃守内畠山奎平太。

山本勝右
與右

右立合相改預之。

圖略○

本郷丸山 須賀谷忠藏上ヶ地 坪數百拾八坪五合。

東道。西飯島次郎兵衛。
南道。北飯島次郎兵衛。

東 十間餘。西 十間餘。
南 十三間二尺。北 十間餘。

本郷丸山阿部伊勢守殿上ヶ地之内須賀谷忠藏殿上ヶ地伴友之助御預ヶ被成四方間
數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

寬延二己巳年三月十八日

小普請組大岡忠四郎支配伴友之助内
大曾根何右衛門印
加藤備後守内山本七郎兵衛水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。
——屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年

三月十六日預。平山直右衛門、飯田幸右衛門、後藤七郎右衛門、椎名源之助、刑部嘉平次、牧田幸太夫上ヶ地。
澁谷稻葉丹後守上ヶ地七百三拾坪。

寬延三年十月七拾坪山本徳右衛門に渡ス。

天明六年十月百七拾四坪餘小井八五郎に渡ス。

享保二戌年二月百坪江原孫三郎添地ニ渡ス。割殘同日預替。

御留守居士屋兵部少輔同心
山本勝右衛門

殷昌期

四〇九

伴友之助

三月十八日預須賀谷忠藏上ヶ地
一本郷丸山阿部伊勢守上ヶ地之内百拾八坪五合

四一〇
澁谷宮益町名主
與右衛門
小普請大阿忠四郎支配
伴友之
屋敷書拔

附記
簀川明神
社修復勸
化

〔附記〕 簀川明神社修復勸化

廿二日 三月〇寬延二年

一、左之通御書付相模守殿○堀田正亮 信濃守殿○小出英持 御渡被成由依田平次郎被申觸由

武州足立郡宮本郷一宮簀川明神社
神主 武笠掃部

右一宮簀川明神社頭就大破爲修復料御寄附之品有之其上爲助力御府内武家寺社町方并武藏一國家別之、一宮之札相賦り、勸化御免被成下、御當地之儀ハ當巳二〇寬延ノ四月ノ來午三〇寬延ノ四月迄、神主社家之者共相廻り、札賦之可致勸化間志次第寄進可致ハ武藏在々之儀之當巳二〇寬延ノ九月ノ來午三〇寬延ノ九月迄、神主之者共寺社奉行連印之勸化狀持參、御料私領寺社領在所巡行、家別之札相賦、勸化物之儀ハ物之多少之よクハ、何之品成とモ、志次第帳面ニ相記シ、其品取集ハ儀ハ其所之名主ニ相頼置名主用事ニ付御當地ハ出ハ節御料之御代官私領之領主地頭ハ差出し夫々御當地勸化所上野黒門前廣小路西側屋張屋長兵衛店迄相届ハ様御料ハ御代官私領ハ領主地頭ハ可申渡ハ。三月二〇寬延
右之通可被相觸ハ。

寬延錄

屋鋪受授

四月六日癸未九〇寬延二年紀元二四〇 屋鋪預有リ。外ニ多數ノ屋鋪受授是月二〇寬延二年紀元二四〇 行ハル。〇屋鋪預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。寬政呈請。

屋鋪受授事蹟

屋鋪受授 寬延二年四月幾多ノ屋鋪受授有リ。左ニ列舉ス。

圖略。當八月廿七日〇寬延二年、櫻井林右衛門添地ニ渡。

北本所 近藤十之丞上ヶ地 坪數百拾貳坪五合。

東 道。 山本儀助、櫻井林右衛門。 北 西 山本儀助、鈴木四郎左衛門。

南 東 七間壹尺六寸。 北 西 六間壹尺八寸。

南 六間五寸十間一尺。 北 西 十六間貳尺。

北本所二之橋近所近藤十之丞上ヶ地、拙者ハ御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預申ハ爲後日仍如件。

山口甚五郎

御本丸表御臺所人
山口甚五郎印

寬延二己巳年四月六日

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付

立合無レ之。

右立合相改預レ之。

圖略。〇(朱)當八月廿五日野口儀左衛門ハ渡。

麻布谷町 中川平之右衛門上ヶ地 坪數貳百坪。

南 東 道。 富澤惣左衛門。 北 西 道。 松田丈助。

殷昌期

森定救

東北 十六間貳尺。西 十六間三尺。

麻布谷町中川平之右衛門上ヶ地、森彌五郎○定御預被成、四方間數坪數右御繪圖之面、相違無御座御預申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月八日

小普請組筒井内監支那森彌五郎内
西郡 儀左衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改預レ之。

圖略○

澁谷 杉山吉左衛門上ヶ地 坪數百三拾九坪。

東南 牧野幸太夫上地。西北 奥留安次郎。

東北 道野幸太夫上地。西南 明地。

澁谷稻葉丹後守上ヶ地之内杉山吉左衛門上ヶ地、拙者ハ御預被成、四方間數坪數右御繪圖之面、相違無御座御預申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月八日

土屋兵部少輔組同心
山本 勝右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無レ之。
右立合相改預レ之。

圖略○

山本勝右

山中廣亮

神田橋外小川町 山中新八郎○廣添地 坪數貳百坪。

東南 神尾若狭守。西 道。大江松卓上ヶ地割殘リ。

東北 山中新八郎。南 六間四尺餘。

神田橋外小川町大江松卓上ヶ地之内、今度願之通山中新八郎添地拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月十三日

奥御右筆組頭山中新八郎内
增 澤 與 市印

鈴木嘉橋。關音右衛門。
水谷信濃守渡レ之。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

飯野又右

牛込山伏町 飯野又右衛門屋鋪 坪數貳百坪。

東南 黑柳定七、村田兵左衛門。西 大和田利左衛門。

南 小川久兵衛、笹本半六。北 道。九間三尺六寸。

牛込山伏町木原忠助上ヶ地、今度願之通飯野又右衛門屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定枕之通、相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月十五日

御廣敷御用達飯野又右衛門内
武田 藤九郎印

加藤備後守渡レ之。
山本七郎兵衛。畠山李平太。

殷昌期

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
吾孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

四谷天龍寺前 黑鉄之者善六。善太郎。作右衛門。又兵衛。四人屋鋪 坪數貳百三拾貳坪。

東 樋口十助。 西 丸山市兵衛。三科平右衛門。吉田左兵衛。
南 道。 北 伊東喜三郎。
東 十九間。貳尺。 西 二十三間。
南 拾壹間。貳尺。 北 十壹間。三尺。

四谷天龍寺前根本善左衛門上夕地。今度願之通拙者共銘々屋敷拜領任。御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月十五日

百々幸太夫組黑鉄之者 善六 六印

善太郎 印

作右衛門 印

五兵衛 印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山奎平太。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
吾孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

四谷南伊賀町 鈴木十郎右衛門屋鋪 坪數九拾八坪。

東 伊賀之者。 西 山口貞右衛門。
南 進藤忠右衛門。 北 道。

鈴木十郎

黑鉄之者 四人

相澤又市

圖略○

四谷 相澤又市屋鋪 坪數九拾六坪。

東 道。 西 若林與兵衛。
南 谷田院。 北 松山惣八郎。
東 十五間。三尺六寸。 西 十五間。三尺六寸。
南 十五間。貳尺餘。 北 十壹間。貳尺。

四谷南伊賀町天王横町從前々武士地之。多其以後火除ヶ場明地之罷成。今度願之通拙者屋鋪拜領任。御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月十六日

御廣鋪伊賀者 相澤 又市 印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

殷昌期

松山惣八

圖略○

四谷南伊賀町 松山惣八郎屋敷 坪數九拾六坪。

東 道。若林與兵衛。
南 相澤又市。北 道。

東 九間貳尺四寸餘。
南 十壹間貳尺四寸餘。北 西 九間貳尺四寸。
西 十間壹尺。

四谷南伊賀町天王横町從前々武士地之多其以後火除場明地之罷成所今度願之通拙者屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寬延二己巳年四月十六日

御廣鋪伊賀者 松山惣八郎印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

山口貞右

圖略○

四谷南伊賀町 山口貞右衛門屋鋪 坪數九拾八坪。

東 伊賀之者。飯田幸右衛門。
南 鈴木十郎右衛門。北 道。

東 四間貳尺八寸餘。
南 貳十間。北 西 四間貳尺八寸。
西 貳十間。

四谷南伊賀町火除ヶ場明地之内今度願之通拙者屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寬延二己巳年四月十六日

小普請方伊賀之者 山口貞右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

松山庄藏

圖略○

四谷伊賀町 松山庄藏屋敷 坪數九拾八坪。

東 伊賀者。進藤忠右衛門。
南 齋藤平助。北 西 道。

東 四間三尺四寸餘。
南 貳十壹間貳尺四寸餘。北 西 四間三尺四寸。
西 貳十壹間四尺。

四谷伊賀町火除ヶ場明地之内今度願之通拙者屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申為後日仍如件。

寬延二己巳年四月十六日

御廣敷伊賀者 松山庄藏印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橘。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。
清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

齋藤平助

圖略○

四谷伊賀町 齋藤平助屋鋪 坪數九拾八坪。

東 伊賀者。松山道藏。
南 伊賀者。北 西 山莊藏。

東 五間。
南 貳十一間一尺五寸。北 西 四間三尺。
西 貳十一間貳尺。

般昌期

四谷伊賀町火除ヶ場明地之内、今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寛延二己巳年四月十六日

御廣敷伊賀者 齋藤平助印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。

清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

進藤忠右

圖略○

四谷南伊賀町 進藤忠右衛門屋鋪 坪數九拾八坪。

東 伊賀者。道。鈴木十郎右衛門。

南 松山庄藏。北 西 鈴木十郎右衛門。

東 四間三尺壹寸餘。北 西 四間三尺壹寸。

南 四間三尺壹寸餘。北 西 四間三尺壹寸。

四谷南伊賀町火除ヶ場明地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寛延二己巳年四月十六日

御廣敷伊賀者 進藤忠右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。

清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

若林與兵

圖略○

四谷南伊賀町 若林與兵衛屋敷 坪數九拾六坪。

東 相澤又市。松山惣八郎。西 伊賀者。

南 谷田院。北 西 伊賀者。

東 八間壹尺餘。北 西 七間四尺。

四谷南伊賀町天王横町前々、武土地之、其以後火除ヶ場明地之罷成、以處、今度願之通、拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寛延二己巳年四月十六日

御廣敷伊賀者 若林與兵衛印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。

清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

四谷南伊賀町 御掃除之者五郎兵衛屋敷 坪數五拾七坪。

東 御掃除之者源四郎。西 伊賀者町屋。

南 四間三尺餘。北 西 伊賀者町屋。

東 四間三尺餘。北 西 伊賀者町屋。

同 御掃除之者源四郎屋敷 坪數五拾七坪。

東 御掃除之者傳六。北 西 伊賀者町屋。

南 四間三尺餘。北 西 伊賀者町屋。

同 御掃除之者傳六屋敷 坪數五拾七坪。

南 四間三尺餘。北 西 伊賀者町屋。

東道御掃除之者作十郎、御掃除之者文次郎。北西伊賀者町屋。源四郎。

作十郎

同御掃除之者作十郎屋敷。坪數五拾七坪。

東道。北西御掃除之者傳六郎。

文次郎

同御掃除之者文次郎屋敷。坪數五拾七坪。

東道。御掃除之者作十郎。北西伊賀者町屋。傳六。

東道。北西御掃除之者文次郎。

四谷南伊賀町火除ヶ場明地之内、今度願之通拙者共銘々屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

○綴込不明

文次郎印

豐田藤兵衛組御掃除之者
源四郎印
塚越九左衛門組御掃除之者
五郎兵衛印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。

清水藤藏。善孫子助五郎。平野善右衛門。

右立合相改渡之。

圖略

山本喜六郎

巢鴨 山本喜六郎屋敷。坪數貳百坪。

東道。南西割残り。北西後藤淺之丞。

東道。南西十三間。貳尺。

巢鴨御駕籠町松尾忠次郎上ヶ地之内、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

月光院様附火之番
山本喜六郎印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山奎平太。

上野彌太夫。安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略。寬延三年十月十八日、逸見太左衛門に渡又。

巢鴨 松尾忠次郎上ヶ地割殘。坪數百坪。

東道。南西吉本林右衛門。北西後藤淺之丞。

東道。南西六間。四尺餘。

巢鴨御駕籠町松尾忠次郎上ヶ地割殘拙者、御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座、御預り申、爲後日仍如件。

殷昌期

山本喜六郎

東京市史稿

寛延二己巳年四月十七日

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山平太。
右立合相改預之。

月光院様附火之番
山本喜六郎印

松前順廣

圖略○

高田馬場下横町 松前隼人廣順添地 坪數八拾八坪。

東南 松前隼人。西南 感通寺。

東北 道。寶性寺。西北 三十壹間四尺。

高田馬場下横町古道折廻地面。今度願之通松前隼人添地拜領任。御渡し被成。四方間數坪。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年四月十八日

御目付松前隼人内
砂川宇右衛門印

水谷信濃守渡之。

鈴木嘉橋。關音右衛門。

中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。平野善太郎。

圖略○

淺草元三十三間堂 御掃除之者彦右衛門源右衛門兩人屋敷 坪數百貳拾坪。

東南 明地。西 道。小野喜平治。

南 矢島軍藏。北 野喜平治。

彦右源

淺草元三十三間堂田口五左衛門上ヶ地。今度願之通拙者兩人屋鋪拜領任。御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年四月十八日

豊田藤兵衛組御掃除之者

彦右衛門印
源右衛門印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無之。

上野彌太夫。中村清兵衛。清水喜兵衛。吾孫子助五郎。

圖略○

南本所林町 柴田政次郎勝屋敷 坪數三百八拾坪。

東 道。西 石川作之進永預ヶ地。

南 大河内善兵衛。北 道。

東 十九間貳尺。西 十九間。

南 十九間五尺。北 十九間。

南本所林町水野七郎右衛門上ヶ地。今度願之通柴田政次郎屋敷拜領任。御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

御小姓組花房近江守組柴田政次郎内
山口折右衛門印

加藤備後守渡之。

山本七郎兵衛。畠山平太。

上野彌太夫。中村清兵衛。清水藤藏。吾孫子助五郎。

圖略○

股昌期

四二三

長田理右

麻布新馬場 長田理右衛門屋敷 坪數百坪。

東馬喰拜借地。北西田中次郎八郎。

南東馬場。北西田中次郎八郎。

田中次郎兵

同 田中次郎兵衛屋敷 坪數七拾坪。

南東馬場。北西金子十右衛門。

南東馬場。北西金子十右衛門。

金子十右

同 金子十右衛門屋敷 坪數七拾坪。

南東馬場。北西小堀新助。

南東馬場。北西小堀新助。

小堀新助

同 小堀新助屋敷 坪數七拾坪。

南東馬場。北西松山九右衛門。

南東馬場。北西松山九右衛門。

松山九右

同 松山九右衛門屋敷 坪數七拾坪。

南東馬場。北西石井傳藏。

南東馬場。北西石井傳藏。

石井傳藏

同 石井傳藏屋敷 坪數七拾坪。

麻布新馬場火除ヶ場明地之内、今度願之通拙者共銘々屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年四月十九日

東松山九右衛門。北西道。田中久八。

南東馬場。北西道。田中久八。

南東馬場。北西道。田中久八。

南東馬場。北西道。田中久八。

長田理右衛門印
同所小人
田中次郎八郎印
同所同斷
金子十右衛門印
同所乘物昇
小堀新助印
同所下男
松山九右衛門印
同所同斷
石井傳藏印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内關音右衛門。

上野彌太夫。安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。

吾孫子助五郎。平野善右衛門。

右立合相改渡之。

圖略○

麻布新馬場 田中久八屋鋪 坪數七拾坪。

南東石井傳藏。北西梅澤清吉。

股昌期

梅澤清吉

東 六間三尺。餘。西 七間三尺。
 南 十間三尺。餘。北 十間三尺。
 同 梅澤清吉屋敷 坪數七拾坪。
 東 田中久八。西 明地。
 南 馬場。北 道。
 東 西 十七間。
 南 北 十七間。

麻布新馬場火除ヶ場明地之内、今度願之通拙者共銘々屋鋪拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。
 寬延二己巳年四月十九日 御廣敷御下男 田中 久 八印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内關音右衛門。

上野彌太夫。安川善太夫。服部七右衛門。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年
 四月八日渡。杉山吉左衛門上ヶ地
 一 澁谷稻葉丹後守上ヶ屋敷之内百三拾九坪
 四月十六日渡。大江松卓上ヶ地之内
 一 神田橋外貳百坪
 但、爲添地渡。
 四月十五日渡。木原忠助上ヶ地
 一 半込山伏町貳百坪
 御留守居士屋兵部少輔同心
 山本 勝右衛門
 奥御右筆組頭
 山中 新八郎
 御廣敷御用達
 飯野 又右衛門

百々幸太夫組
 之者
 四人分

同日渡。根本善左衛門上ヶ地
 一 四谷天龍寺前貳百參拾貳坪
 但、四人分屋敷大繩之勿渡。

四月十六日渡。火除場用地之内
 一 四谷南伊賀町九拾八坪
 同日渡。同斷
 一 同所天王横町九拾六坪
 同日渡。同斷
 一 同所九拾六坪
 同日渡。同斷
 一 四谷伊賀町九拾八坪
 四月十六日渡。火除場明地之内
 一 四谷伊賀町九拾八坪
 同日渡。同斷
 一 同所九拾八坪
 同日渡。同斷
 一 同所天王横町九拾六坪
 同日渡。火除明地之内
 一 四谷南伊賀町五拾七坪宛

同日渡。同斷
 一 同所五拾七坪宛

四月十六日渡。火除場明地之内
 一 四谷南伊賀町九拾八坪
 四月十七日渡。松尾忠次郎上ヶ地
 一 巢鴨御駕籠町貳百坪
 四月十八日渡。古道折廻し
 一 高田馬場横町八拾八坪

御廣敷伊賀者
 鈴木 十郎兵衛
 同 相澤 又市
 同 松山 惣八郎
 同 松山 庄藏
 御廣敷伊賀者
 齋藤 平助
 同 進藤 忠右衛門
 同 若林 與兵衛
 服部甚五兵衛組御掃除之者
 作 十郎
 文 次郎
 傳 六郎
 豐田藤兵衛組同(御掃除之者)
 源 四郎
 塚越九左衛門組同
 五郎 兵衛
 小菅調方伊賀者
 山口 貞右衛門
 月光院深附火之番
 山本 喜六郎
 御目付
 松前 隼人

但屋敷折廻し古道添地之渡ス。
同日渡。田口五左衛門上ケ地
一 淺草元三拾三間堂百貳拾坪

四月十八日渡。水野七郎右衛門上ケ地
一 南本所林町三百八拾坪
四月十九日渡。火除場明地之内
一 麻布新馬場百坪
同日渡。同斷
一 同所七拾坪宛

同日渡。同斷
一 同所七拾坪
四月十九日渡。火除場明地之内
一 麻布七拾坪宛

同日渡。同斷
一 同所七拾坪宛

寛延二己巳年四月十日

右近將監殿○松平

御普請奉行江

豊田藤兵衛組御掃除之者
彦 右衛門

源 右衛門

御小姓組花房近江守組
柴田政次郎

蓮淨院殿伊賀之者
長田理右衛門

同小十人
田中次郎八郎

金子十右衛門

同乘物昇
小堀新助

蓮淨院殿下男
松山九右衛門

石井傳藏

御廣敷下男
田中久八

梅澤清吉

屋敷書拔

岡部一徳

長井正宏

井戸正房

青木宣幸

今堀當能

山口權之

永田政白

福田久之丞

増山政美

齋藤正富

明樂茂昭

永井直茂

長井助十郎拜領屋敷
小川町雉子橋通四百四拾八坪餘

岡部庄九郎拜領屋敷
本所横堀千坪

青木政之助拜領屋敷
南本所貳百坪

井戸半五郎拜領屋敷
北本所石原四百五拾三坪

山口權之助拜領屋敷
柳原元誓願寺前九拾壹坪

今堀傳五郎拜領屋敷
北本所百七拾九坪

福田久之丞拜領屋敷
下谷長者町三百坪

永田十左衛門拜領屋敷
本所北割下水貳百坪

右願之通屋敷相對替被仰付の間可被得其意江

増山養甫政美始名元市

寛延二己巳年四月十五日於神田佐久間町三丁目町屋鋪願之通被下置

正富○平助

寛延二己巳年四月十六日拜領屋敷九十八坪四谷南伊賀町之被下置江

初代 茂昭○源之助

寛延二己巳年四月松嶋町之町屋敷願之通拜領仕江

直茂○松次郎

般 昌 期

御小堀戸
岡部庄九郎○一徳

小普請組松下加兵衛支一○正宏

長井助十郎○正宏

西丸小十人諏訪勘兵衛組○正房

井戸半五郎○正房

小普請組土屋兵部少輔組○宣幸

青木政之助○宣幸

御膳所組頭
今堀傳五郎○當能

御膳所御臺所人
山口權之助○當能

刑部卿殿郡奉行
永田十左衛門○政白

御天守番
福田久之丞○政白

相對替御書附書拔

寛延二巳年四月神田橋外屋敷被下之、天明七未年七月四方替、願之通三番町土屋勝四郎屋敷被下之。

附記、一

〔附記、一〕 追放者家屋鋪

寛政呈譜

同〇寛延二年四月廿日

奈良屋市右衛門殿年番名主に被申渡

一、江戸十里四方追放之者或者江戸拂之相成い者所持之家屋敷、御取上無之例、最初御取上無之いゝ其後譯有之被召上い例、此兩様書上い様被申渡い。

同〇寛延二年四月廿四日

返答書左之通相認同所へ差出い。

所拂江戸十里四方追放被仰付い者家屋鋪所持仕い譯委細御守之付私共組合承合い處、左之通之御座い。

一、江戸拂

北紺屋町

朔

通壹丁目

人

右松朔享保十四酉年大岡越前守様御懸り之ゝ、江戸拂之被仰付、松朔他所之罷在いゝ、二ヶ所共所持仕、享保十九寅年病死仕、悴半兵衛譲り受、二ヶ所共所持仕い。

芝口金六町家持

夫

右小太夫儀、享保十四酉年大岡越前守様御懸り之ゝ、所拂被仰付、小太夫他所之罷在所持仕い處、享保十七子年右家屋敷賣拂申い。

一、江戸拂

山城町家持

庄 右 衛 門

右庄右衛門義元、文四未年石河土佐守様御懸り之ゝ、江戸拂被仰付、其後右屋敷悴名題之仕所持いゝい處、延享四卯年右二ヶ所共賣拂申い。

一、江戸拂

元飯田町家持

半 右 衛 門

右半右衛門義寛、保三亥年江戸拂被仰付、他所之罷在いゝ、右家屋所持仕い處、延享三寅年賣拂申い。

一、江戸拂

海邊大工町家持

庄 右 衛 門

右庄右門義寛、延元辰年肥後守様御掛之ゝ、江戸拂被仰付、其後悴三郎右衛門名題之仕、致所持罷在い。

一、江戸拂

船松町一丁目家持

忠 兵 衛

佃島ニ一ヶ所、深川大和町ニ一ヶ所、同所扇町一ヶ所、

四ヶ所家屋敷所持仕候。

右忠兵衛儀、寛延元辰年十一月讃岐守様御掛之ゝ、江戸拂被仰付、右屋敷之ハ御構無之、悴忠次郎名題之改いも有之、未改不申も御座い。

一、江戸十里四方御追放

西久保新下谷町家持

嘉 兵 衛

右嘉兵衛義寛、延元辰年十一月肥後守様御掛之ゝ御追放被仰付、家屋敷御構無之御座

いへ共、先達多家賃金借用仕置い之付、同月〇寛延元年十一月家賃金借主方の家屋敷相渡申
い。

右之通御座い。此外之を可有御座い哉、急之相尋い之付、先右之通之御座い。已上。
寛延二巳年四月
年番 主 共

正寶事録

婚姻制

〔附記、二〕 婚姻制

晦日〇寛延二年四月〇中略

一、左之御書付、宮内少輔殿忠恒〇松平御渡し被成い由、八木十三郎被相觸い。

縁組願不差出、内々之を引取置婚姻相調い上之を、追多縁組願い儀有之由い。左様之
之有之間敷事い間、向後猥之無之様之、可相心得い。右之通、向々可被達い。

四月二〇寛延二年

寛延録

屋鋪預

〔附記、三〕 屋鋪預

圖略〇

三田元御屋敷之内 木村五郎兵衛上ヶ地 坪數六拾坪。

東 今吉安次郎。 西 道。
南 今善左衛門。 北 八木澤金左衛門。

東 五間三尺餘。
南北 十間五尺餘。

三田元御屋敷之内 木村五郎兵衛上ヶ地、拙者之御預ヶ被成、四方間數坪數右御繪圖之面

吉見安次郎

相違無御座御預り申い爲後日、仍如件。

寛延二巳年五月十五日

小普請酒井越中守組
吉見安次郎印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

家督相續制

〔附記、四〕 家督相續制

廿八日〇寛延二年五月〇中略

一、左之御書付伯耆守殿正珍〇木多御渡し被成い由、石河土佐守朝正被相觸い。

母出奔いし行衛不相知、其子部屋住之を罷在、縦幼少之を、右之譯不存い共家督相
續之儀之難成い。尤他に養子之遣い儀も難成旨先達多相達しい。就夫母繼母之いハ
、其子家督相續并他に養子遣い儀不苦い。

右之通寄々可被達い。

五月二〇寛延二年

寛延録

築地橋修理

〔附記、五〕 築地橋修理

寛延二年

一、六月朔日、築地橋一〇安藝殿橋と云御修復出來御届公儀御役人見分相濟。

殷昌期

四三三

侯爵淺野家回答

附記、六
屋鋪預

〔附記、六〕

屋鋪預

圖當〇寛延二年十二月廿六日御小人吉田理右衛門手島幸右衛門
兩人に渡。

三田元御屋敷之内 鈴木大次郎上地 坪數百三拾坪。

東 道。三澤惠之助。西 道。關清右衛門。

南 十間、五間壹尺五寸。北 西 道、關清右衛門。九間。四間五尺、八間三尺。

三田元御屋敷之内鈴木大次郎上ヶ地關清右衛門に御預ヶ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

寛延二己巳年六月八日

御林奉行關清右衛門内
加藤 逸 八印

關清右

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内外御用ニ付立合無之。
右立合相改預之。

圖當〇寛延二年十二月廿五日井田九藏に渡。

南本所二ツ目 内藤甚五左衛門屋敷 坪數貳百拾坪。

東 北 道。几源之丞。西 關甚右衛門。北 太田源之丞、菅沼民部。

南 十七間、三間。北 西 十四間、四尺、三間、貳尺。五間、三尺、七間。

南本所二ツ目内藤甚五左衛門上ヶ地關甚右衛門に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

關甚右

寛延二己巳年六月十一日

佐野次郎太郎組小十人關甚右衛門内
横山 彌 覺印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改預之。

屋鋪渡預繪圖證文

附記、七
處罰

〔附記、七〕

處罰

廿一日〇寛延二年六月〇中略。

一、於評定所、左之通神尾伊賀守能勢肥後守八木十三郎立合、伊賀守肥後守申渡之。

切腹。

同斷。

澤島。

澤島揚島ニ而致病死候ニ付、親類高野市郎左衛門、鈴木喜兵衛申聞置。

重キ退放。

澤島十五歳迄親類馬場讃岐守組同心古川

江戸拂。

澤島。

殷 昌 期

漆奉行
粕谷 金 太夫 巳五十八
勘野 喜 六郎 巳四十六
粕谷 金 太夫 巳四十六
粕谷 三 郎 巳二十五
表火之番
鈴木 只右衛門 巳五十六
田安御臺所人
平川 六右衛門 巳六十六
高山友右衛門 巳六十六
高山 勝 五郎 巳八
粕谷 金 太夫 家來
武 藤 金 助 巳廿一
品川新宿町新九郎事 巳廿一
谷 源 巳四十七
四三五

舞近藤卯之助の預ケ押込。

構無之。

同。

江戸十里四方退放。

死罪。

輕キ退放。

同斷。

構無之。

四三六
粕谷金太夫妻

西丸御小姓組松平下野守組 巳四十六

近藤 卯之助 巳廿七

西丸小十人諏訪勤兵衛組 巳廿七

牛田 權次郎 巳廿六

駒込淺香町二丁目横町淨徳寺隱居 巳廿六

倫 阿 巳廿六

小石川指ヶ谷町次郎兵衛店 巳七十三

治 兵衛 巳七十三

神田明神下同町長右衛門店 巳四十七

惣 左衛門 巳四十七

小石川富坂町甚左衛門店 巳五十三

平 兵衛 巳五十三

小日向三軒町家主 巳五十七

長 兵衛 巳五十七

寛延二録

廿一日○寛延二年六月漆奉行粕谷金太夫某に死をたまふ。これ市人の子新九郎といへるを
おのか後つぎとなさんとて、金を其親より借うけ、さて新九郎家をいて奔りし後、その
金をはたられしかば、又處士の子三郎助といふを實子といひなし、また金をむさぼり
しこと發覺し、三郎助某は遠流せらる。勘定勘野喜六郎死をたまふ。これも金太夫某か
養子の事にかゝはり、又をのが子伊之助といへるが死せしをもきこえず、處士の子
をひそかに養ひ、金むさぼりし事あらはれてとがめありしかり。この外此ことに座し
てとがめらるゝ者どもあり。

惇信院殿御實紀

附記、八
濟松寺内
大猷院殿
再造

〔附記、八〕

濟松寺内大猷院殿再造

此月○寛延二年六月牛込濟松寺境地の大猷院殿こたび再造にて、銀二百枚をたまふ。

惇信院殿御實紀

續談海

屋鋪受授

七月六日壬子○寛延二年紀元二四〇奏者番兼寺社奉行酒井忠休○山城守西
城若年寄ニ任ジ、前若年寄三浦義理○志摩守ト用邸ヲ換フ。外ニ是月○寛延二
元二四〇屋鋪若干ノ受授有リ。○寛延二
九年七月屋鋪若干寛延二年七月受授セラル。

屋鋪受授

六日○寛延二年
七月〇中略

一、於芙蓉之間有合之面々、酒井山城守○忠儀、大納言様○徳川家治、若年寄被仰付、其旨可
相心得、旨、伯耆守○木多正珍、被仰渡、い。

三浦志摩守屋敷被下、於奥被仰渡。

酒井山城守○忠休

殷昌期

四三七

屋鋪受授事

酒井忠休

酒井山城守屋敷被下、於芙蓉之間被仰渡。

右之通屋敷入替被仰付○中。

一、酒井山城守殿御儀、石見守殿々御名御改メハ旨、御目付衆被申開○中。

酒井石見守忠休初主殿。織部。山城守。

同○寛延二年七月六日家治公御附西丸若年寄被仰付、同日○寛延二年七月六日。外櫻田居屋敷家作

共差上、大手前三浦志摩守屋鋪家作共被下置○。

圖○當○寛延二年十二月廿五日杉源左衛門被渡ス。

小石川馬場近所 粕屋金太夫上ケ地 坪數貳百五拾坪。

東 御徒組屋敷。西 粕谷金太夫御預り上地。

南 石丸政五郎。北 粕谷金太夫御預り上地。

東 貳十六間五尺。西 貳十五間貳尺。

南 十五間三尺。北 四間一尺。坪數貳拾坪。

同 粕屋金太夫御預り上ケ地 坪數貳拾坪。

東 御徒組屋敷。西 粕谷金太夫上ケ地。北 西 道。

南 四間一尺。北 貳間一尺。

小石川馬場近所粕屋金太夫上ケ地并同人預り上地共、石丸政五郎○有ハ御預ケ被成、四

方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ハ爲後日仍如件。

寛延二己巳年七月十八日
新御番加藤佐兵衛組石丸政五郎内
土屋只右衛門印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付
立合無之。
右立合相改預之。

圖○

權田原 久松左七郎屋鋪 坪數三百六拾坪。内、建家長屋土藏共
百三拾五坪餘。

東 村松四兵衛。西 山本長兵衛、小田切喜八、吉川清六。

東南 十五間。西北 十八間。

西南 貳十貳間。東北 貳十壹間三尺。

雉子橋御門外久松左七郎拜領屋鋪御用ニ付差上ケ、爲代地權田原菅沼彌三郎上り屋鋪

家作共拜領仕御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土

藏共御目錄を以相改相違無御座請取申ハ、尤只今迄之雉子橋拜領屋敷建家之儀々、不殘

被下置ハ爲後日仍如件。

小菅請組川勝左京支配久松左七郎内
安西清左衛門印

寛延二己巳年七月廿一日

加藤備後守渡之。
山本七郎兵衛。

宇野文次郎、安川善太夫、富山久右衛門、服部勘太郎、平野善右衛門。

權田原菅沼彌三郎上り屋敷建家立具疊目錄

一門扉 但、錠有共 三枚。

殷昌期

一戸 但、半戸共。 四十七本。

一障子 但、小障子。 壹本。

一襖 壹本。

一臺 拾貳疊。

右之通相改相違無御座請取申以上。

巳〇寛延二年 七月廿一日

久松左七郎内 安西清左衛門印

權田原菅沼彌三郎上ケ屋鋪建家立具疊目錄

一門扉 但、鉸、有、共。 三枚。

一戸 但、半戸共。 四十七本。

一障子 但、小障子。 壹本。

一襖 壹本。

一臺 拾貳疊。

右之通相違無御座以上。

巳〇寛延二年 七月廿一日

建部傳右衛門内 松岡清八郎印
建部荒次郎内 小林彌忠太郎印

圖略〇 寛延三年五月廿六日秋元圓藏ニ渡ス。

小日向 平松新右衛門上ケ地 坪數百拾坪。

比留清左

東道。 遠山忠次郎。 北西 落合五左衛門。

南 五間三尺。 西 五間三尺。

小日向中之橋通平松新右衛門上ケ地比留清左衛門之御預ケ被成四方間數坪數右御繪

圖之面相違無御座御預り申爲後日仍如件。

寛延二己巳年七月廿三日

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付

立合無之。 右立合相改預之。

屋鋪渡預繪圖證文

寛延二己巳年

七月廿一日渡菅沼彌三郎上ケ屋敷

一、權田原三百六拾坪

但、雉子橋御門外屋敷御用ニ付差上爲代地渡建家立具疊長屋土藏共。

屋敷書拔

附記、一 處罰

〔附記、一〕 處罰

十九日〇寛延二年 七月〇中略

申渡之覺

切腹。

同。

股 昌 期

小普請組松下加兵衛支配 小島源左衛門
小普請土屋兵部少輔組 小宮山源次郎
小普請組田彌十郎支配比留清左衛門内 平方 淺右衛門印

四四一

同。

死罪。

於其所磔。

死罪。

還島。

同。

同。

同。

同。

同。

輕キ追放。

名主役取上ケ、過料五貫文

過料三貫文。

四四二

小普請組筒井内藏支配

小宮山新右衛門

森川求馬妻

同人家來

山中定右衛門

同人家來

大御番遠藤備前守

森川求馬

小普請土屋兵部少輔

小宮山佐太郎

島源左衛門子

小島長十郎

一ツ橋庭奉行

三橋庄三郎

松島町名主

丸右衛門

元大坂町中村壽仙

卯兵衛

果鴨原町名主

次郎兵衛

信州上神林村名主

馬之助

同所組頭

元右衛門

同所組頭

茂右衛門

又五郎

構無之。

同斷。

同斷。

急度叱リ、姉舞町醫師林道喜と渡ス。

右之於評定所、大目付能勢因幡守町奉行馬場讚岐守○尙御目付土屋長三郎立合、因幡

守讚岐守申渡ス、尤爲檢使長三郎罷越ス。

十九日○寛延二小普請小島源左衛門某小宮山源次郎某同族新右衛門某之死をたま

ひ、大番森川求馬某源次郎某か子佐太郎某源左衛門某か子長十郎某遠流せらる。これ

は源左衛門某、さきにをのか弟乙次郎家をいて奔りしをそのまゝになし、おほやけに

もきこえ上ず、新右衛門等と相かたらひ、いつはりて處士の子を其弟とこしらへ、金む

さぼりとりて、森川新太郎某が養子とかし、求馬と名のらせ家つがせ、其後また故なき

ものゝ子をおのが弟として源次郎か養子とかし、佐太郎と名のらせ、これらの罪發覺

せし事共たづね問れしに、さまゝ偽をかまへし事共明らかになるによりてなり。ま

寛延録二〇録同。

た求馬が妻は死刑につく。これは家人と姦通し家を奔りいで、碓氷關を忍び越し事あるによれり。其他これに係りて罪せらるゝ者そこばくあり。

惇信院殿御實紀

一、去年^{元〇寛延}中、大御番遠藤備前守組森川求馬妻出奔仕、御届申上、事濟^{〇寛}の處當夏^二年。信濃國之右妻罷在^〇段、松平何某知行所^〇注進、則先方^〇江戸へ來ル。直^〇揚り屋へ參り、御僉儀有^〇之。然處、右妻出產男子致出生^〇山親類森川久右衛門に御預^〇ケ成右一件之内、求馬元養子之參^〇由之付、實方^〇御僉儀也。實方兄父子共揚^〇り屋へ參^〇。七月十九日^〇。御仕置被^〇仰渡^〇。

牢死^〇の候。

大御番遠藤備前守組
森川求馬

其方儀、實父^{松平九郎左衛門手代之由}内藤彦右衛門取扱^〇之。ま^〇りせ、小島源左衛門弟之偽、筋目も無^〇之者之倅之^〇。森川新太郎方^〇の駕養子之罷越、跡式相續致^〇。大切之^〇二條大坂在番罷登^〇義、掠公儀^〇に仕方、重々不届^〇之付、遠島被^〇仰付者也。

小普請組松下加兵衛支配
小島源左衛門

其方儀、筋目を無^〇之内藤彦右衛門倅を實弟と偽、兼^〇親類書載置、森川新太郎方へ駕養子之遣^〇シ、彦右衛門^〇の禮金廿兩取^〇。又^〇先達^〇親類書載置、筋目無^〇之浪人玉置嘉藤次^〇ヲ右弟之取^〇拵、小島山源次郎方^〇の養子之遣^〇シ、嘉藤次^〇の禮金三十兩取^〇其上實弟乙次郎^〇義、去年^{元〇}。出奔并^〇次男源七郎三男乙三郎兩人共、先年相果^〇の處、支配頭^〇を不相届^〇。

親類書之其儘書載置、乙次郎評定所^〇の呼出^〇節、乙次郎源七郎同道伊勢^〇の參宮仕^〇の旨相僞^〇の儀、數年心懸^〇不埒^〇成親類書を支配頭^〇の差出^〇、掠公儀、御後闇^〇仕形、重々不届^〇之付、切腹被^〇仰付者也。

小普請組土屋民部少輔組小宮山佐太郎養父隠居
小宮山源次郎

其方儀、筋目を無^〇之浪人玉置嘉藤次を小島源左衛門弟之由、偽^〇取拵、養子之相願、嘉藤次^〇の持參金百廿五兩取^〇段、掠公儀^〇に仕形、重々不届^〇之付、切腹被^〇仰付者也。

小普請組土屋兵部少輔組
小宮山佐太郎

其方儀、筋目を無^〇之浪人之身分^〇之を金子差出^〇小嶋源左衛門弟之由、偽^〇之義、取拵、小宮山源次郎方^〇の養子罷越、跡式致^〇相續^〇段、掠公儀^〇に仕形、重々不届^〇之付、遠嶋被^〇仰付者也。

小普請組筒井内藤支配
小宮山新右衛門

其方儀、筋目を無^〇之浪人玉置嘉藤次を小島源左衛門弟と偽^〇り、取拵、持參金差出^〇小宮山源次郎方へ養子之取^〇組、相談^〇之相加^〇り願出^〇之致、取次^〇其上持參金之内、拾兩源次郎^〇の配分、貫請^〇段、掠公儀^〇に仕形、重々不届^〇之付、切腹被^〇仰付者也。

小普請組松下加兵衛支配
小島源左衛門惣領
小嶋長十郎

其方儀、親源左衛門筋目も無^〇之者共を兩人迄、弟と偽^〇禮金取^〇之養子之遣^〇の儀、拵罷在^〇の上、伯父乙次郎去年致^〇出奔^〇を隠^〇し置、弟源太郎乙三郎義、九年已前致^〇病死^〇を押し隠^〇置^〇の義、共^〇掠公儀、御後闇^〇義^〇の得^〇之源左衛門取計^〇の共強^〇差留^〇相談^〇爲^〇相止^〇又^〇之可相

屈義も早速支配頭にも爲相屈可申筈之ハ處其分ニ差置ハ段、不届之ハ依之遠島被仰付者也。

大御番遠藤備前守組森川求馬妻

其方義森川新太郎實娘之ヲ求馬儀ハ智養子之ヲ得共、婚姻整不申共、求馬妻之ハ處之、去春^{〇寛延元年}ハ召仕侍山中定右衛門ト致密通、刺求馬を嫌クハ、始終一所ニ難居存、何方へ成共連退吳ハ様ニ、定右衛門ヲ頼、去年^{〇寛延元年}十月廿六日之夜召仕下女ひさを召連致出奔、定右衛門案内ニまろセ、碓氷御關所にも不相掛、御法度相背、山越致シ、信州ハ罷越影を隠シ居ハ義共重々不届ニ付死罪被仰付者也。

右於評定所天目付能勢因幡守町奉行馬場讃岐守御目付土屋長三郎立合申渡之。^{〇下略}

續談海

附記二 神田明神修理

此月^{〇寛延二年七月}神田明神の社修理料として、神主芝崎大藏ハ金二百兩賜ハる。

惇信院殿御實紀

神田上水工費組合負擔

八月朔日丁丑^{〇寛延二年(紀元二四〇九年)〇丁丑、三正綜覽。}神田上水工費ノ公費支辨ヲ止メ、之ヲ組合負擔ト爲ス。^{〇享保撰要類集。正實事錄。}

神田上水工費組合負擔

神田上水工費組合負擔 左ノ如シ。

寛延二己巳年七月二十日板倉佐渡守殿^{〇勝}ハ上ル。

神田上水通櫻木町潛下水上木樋割合之義ニ付奉伺書付。

能勢肥後守^{〇額}

神田上水通護國寺門前櫻木町潛下水上白堀之所此度木樋ニ仕直ハ付、上水假樋并下水廻し堀等之御入用落札金高

一、金三百五拾兩拾三匁四分

但、神田上水掛り石高四百萬石餘ニ割合、高百石ニ付五分三厘餘。

^(朱)水戸殿刑部卿殿之モ神田上水掛り高四百萬石餘之内ニテ御座ハ。

内

金貳拾六兩餘

一ツ橋 御春屋 御普請方 定 小屋

右壹ヶ所ハ拾萬石宛都合三拾萬石之出銀。

^(朱)一金七兩餘

但、玉川御組合金千四百九拾萬石ニ割合、金高百石ニ付壹分四厘餘。

傳奏屋敷。西評定所。御座。

右壹ヶ所ハ拾萬石宛都合三拾萬石之割合。

右之通玉川トモ格別、神田上水掛リハ場所狭ク、石高少クハ故公儀御出銀多く御座ハ。間前書ニ申上ハ御春屋御作事方定小屋小普請方定小屋三ヶ所ニテ拾萬石之割合を

以、御出銀有之の様可仕候哉左候得、此度之御出銀八兩餘之相成申候。

右凡積り之御座候。武家知行高小給之御家人御切米高等、玉川御組合之通、悉く相改可申候間、御出銀之此上之相減可申候。

一、玉川上水之所々御組合之御普請割合之御出銀有之候得共、神田上水之古來より御組合無御座、御入用にて御普請有之候付、右之譯吟味仕候得共、様子相知不申候。右之通御組合之御座候、此上大造之御普請御座候節、御入用も多く相掛り申候儀之御座候間、此度御組合普請之仕、可然奉存候。依之奉伺候。以上。

巳二〇年^{寛延}七月

能勢肥後守

寛保二巳年七月廿日板倉佐渡守殿の上ル。

神田上水請來候武家并町方共石高凡積り之書付

能勢肥後守

神田上水請來候武家知行高并町方間數凡高知行高一、貳百六十三萬五千五百石餘。

但、小給之御家人御切米高具之不相知候間除申候。追々相改、右之高に差加候可申候。町方小間一、貳萬千六百間餘。

此石高百八萬六百石餘。

但、小間貳間百石之積り。

高合三百七拾壹萬四千石餘。

外

三拾万石

都合四百万四千石餘。

一ツ橋内御春屋御 定小屋

右之通御座候。此外小給之御家人并組屋鋪相除申候。追々御切米高相改前書之知行高之内に差加可申候。以上。

巳二〇年^{寛延}七月

能勢肥後守

寛延二巳年八月朔日板倉備後守殿の上ル。

神田上水此度御組合之相成候之付所々通達之義奉伺候書付

書面伺之通、此度御組合普請之相成候之付、御三家方にて御城附に申達御兩卿にて家老中迄相達并諸大名にて留守居之もの呼出申達、其外万石以下頭支配有之面々候も、私御役所へ可申達旨被仰渡奉候。

巳二〇年^{寛延}八月

能勢肥後守

先達奉伺候神田上水、古來御組合無御座、御入用之御普請有之候之付、此上大造之御普請御座候節、御入用を多相立申候義之御座候間、此度御組合普請之仕、可然奉存候段、伺候處、伺之通御組合普請可仕旨、被仰渡候。右之付御組合之義申達候義、御三家

般昌期

四四九

方にて御城附に申達、兩卿にて家老中迄相達、其外諸大名にて留守居之もの呼出し可申達、其外万石以下頭支配有之面々にも、私御役所を申達の様可仕哉、此段奉伺以上。

八月朔日 〇寛延二年

能勢肥後守

寛延三年十二月廿二日堀田相模守殿(〇正亮) 〇勝満の上ル。

同年〇寛延三年十二月 晦日左之通致承附佐渡守殿の上ル。

神田上水御組合普請割合出銀之義之付奉伺書付

伺之通可申付旨被仰渡、奉畏い。

午三〇寛延三年 十二月晦日

能勢肥後守

神田上水通去秋〇寛延二年 中御組合普請之相成い處、右組合場之内之本屋敷有之、玉川御組合場之内、中屋敷下屋敷等有之いも御座い前々より玉川御組合場之内之本屋敷中屋敷下屋敷等有之い得之、普請出銀本屋敷等知行本高之割合致出銀中屋敷下屋敷之半高之割合致出銀い間、神田上水御組合場普請出銀を右之通本屋敷い知行本高之り出銀割合仕、中屋敷い知行半高之割合出銀可仕哉、奉伺以上。

午三〇寛延三年 十一月

能勢肥後守

享保撰要類集

神田上水水銀 寛延二巳年十月ヨリ十二、能勢肥後守様 御留守様

神田上水通り大洗堰ヨリ神田橋内外公儀御入用御普請場、伺之上當七月晦日 〇寛延二年

被仰渡、自今御組合普請之相成、向後御出銀有之い。

内藤家懷舊叢書〇高

巳二〇寛延二年 十一月五日

喜多村彦右衛門殿神田上水受い町々月行事名主に被申渡。

申渡

一、神田上水大洗堰より三河町一丁目河岸迄石垣并木樋等、從古來公儀御入用を以御修復有之い得共、當七月晦日 〇寛延二年 已來、玉川之通御組合普請之相成い間、自今新規修復共町方い小間二間之付高百石之積割合出銀有之事之い、尤武家方にも此度右之趣申渡い條、相心得可申事。

巳二〇寛延二年 十一月五日

右之趣可申渡旨、能勢肥後守様被仰渡い間、可被存此旨い已上。

正寶事録

二日 戊寅 〇寛延二年(紀元二四〇九) 屋鋪預有り。外ニ是月 二〇寛延二年(紀元二四〇九年) 八月。若干

ノ屋鋪受授行ハル。〇屋鋪預繪圖證文、屋敷書拔。

屋鋪受授 寛延二年八月受授セラレタル屋鋪ヲ列擧ス。

圖略。當十二月廿五日(寛延二年)御下男文次郎に渡ス。

小石川 三宅彌八上ヶ地 坪數七拾坪餘。

東 後藤彌左衛門。西 後藤喜太郎。

南 橋本茂右衛門。北 道。

東 十四間三尺。西 十四間五尺。

南 十四間三尺。北 五間壹尺。

殷昌期

四五二

屋鋪受授

屋鋪受授事蹟

後藤彌左

小石川阿部伊勢守殿上ヶ地之内三宅彌八郎上ヶ地拙者に御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件
寛延二己巳年八月二日
圖田利左衛門正田庄九郎大藏又兵衛支配
後藤彌左衛門印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改預之。

圖略○

厩添地

清水御門外 村松四兵衛御預り御厩添地 坪數四百坪。

東南 村松四兵衛御預り御厩 西北 中村五郎左衛門。

西南 道。東南 三十五間貳尺。東北 石垣(御堀)。

清水御門外久松左七郎上ヶ地今度村松四兵衛御預り御厩添地御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定枕之通相違無御座請取申ひ爲後日仍如件。

寛延二己巳年八月三日
村松四兵衛内
清水佐左衛門印

加藤備後守渡之。
關音右衛門。畠山奎平太。

宇野文次郎。富山久右衛門。安川善太夫。清水喜兵衛。吾孫子助五郎。

圖略○

巢鴨火之番町 小宮山佐太郎上ヶ地 坪數百三坪。

井戸良堅

巢鴨火之番町小宮山佐太郎上ヶ地井戸半十郎良堅に御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ爲後日仍如件。

寛延二己巳年八月四日

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内關音右衛門。

宇野文次郎。富山久右衛門。安川善太夫。服部七右衛門。

清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○寛延三年八月廿五日貳百坪内藤十左衛門に渡御殘同人に預。

巢鴨 小島源左衛門上ヶ地 坪數四百坪。

東北 萬年六三郎。西南 道。山崎彦太郎。香山庄三郎。

西北 道。東南 七十七間三尺。

巢鴨五軒町小島源左衛門上ヶ地三宅權之助に御預ヶ被成四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座御預申ひ爲後日仍如件。

寛延二己巳年八月四日

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内關音右衛門。

右立合相改預之。

小普請組松井内藏支配三宅權之助内
藤田丈左衛門印

三宅權之助

股 昌 期

四五三

圖略○當○寬延二年十二月廿五日山本五郎八、加藤又兵衛、二葉治左衛門、水越茂右衛門、山村安右衛門、右五人に渡ス。

巢鴨大原町 小宮山新右衛門上ケ地 坪數五百坪。

東 道。田忠次郎。西 長田善太夫。
南 百性町屋。

東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西

巢鴨大原町小宮山新右衛門上ケ地、前田新六郎○光に御預被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預り申ひ、爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月四日

小普請高方若狭守組前田新六郎内
川井忠右衛門印

前田光定

水谷信濃守内役人鈴木嘉橋。加藤備後守内役人關音右衛門。
右立合相改預之。

圖略○當○寬延二年十二月廿五日内藤次郎右衛門に渡。

大塚久保町 森川求馬上ケ地 坪數三百三拾坪。

東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西

東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西

大塚久保町森川求馬上ケ地、米倉一學○正に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面相違無御座御預り申ひ、爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月四日

新御番高田忠右衛門組米倉一學内
牧野皆右衛門印

米倉正峰

水谷信濃守内役人鈴木嘉橋。加藤備後守内役人關音右衛門。
右立合相改預之。

右立合相改預之。

圖略○當○寬延二年十二月廿五日勝田道助に渡ス。

小石川龍慶橋 勘野喜六郎上ケ地 坪數百四拾貳坪。内、森家長屋土藏。共三拾四坪餘。

東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西

東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西
東 南 北 西

小石川龍慶橋勘野喜六郎上ケ屋敷建家共、土井備前守○利に御預ケ被成、四方間數坪數、御繪圖之面、并建家立具長屋土藏植木等迄、御目錄を以相改、相違無御座御預り申ひ、爲後日仍如件。

日仍如件。

寬延二己巳年八月五日

土井備前守内
大生甚兵衛印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改預之。

小石川龍慶橋勘野喜六郎上ケ屋敷建家立具植木目錄

一、門大戸 俱、久、三附。 壹 本。

一、戸 但、半戸共。 拾六 本。

一、障子 但、半障子共。 拾五 本。

一、襖 貳 本。

一、植木 大小。 貳拾三 本。

殷昌期

土井利清

右之通立合相改相違無御座以上。

已二〇寬延八月五日

土井備前守内 大生甚兵衛印

加藤時右

圖略○

赤坂寺町 加藤時右衛門屋敷 坪數七拾貳坪。

東 道。飯田次郎八山口次助。西 藤波勝右衛門。川上次郎右衛門。

南 五間。北 西 四間四尺。南 十五間。北 西 十五間壹尺。

赤坂寺町諸住善次郎上ヶ地今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申上爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月九日

吹上御廣敷番之頭支配御下男組頭

加藤時右衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内外御用ニ付立合無之。

中村半次清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

三田元御屋鋪之内 山本甚兵衛屋鋪 坪數六拾坪。

東 今見安次郎。西 道。八木澤金左衛門。

南 吉見安次郎。北 西 八木澤金左衛門。

三田元御屋鋪之内木村五郎兵衛上ヶ地今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申上爲後日仍如件。

山本甚兵

寬延二己巳年八月九日

小普請方改下役 山本甚兵衛印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付立合無之。

中村半治。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

小石川 切支丹屋鋪脇渡邊清八屋敷 坪數百貳拾五坪。

東 道。關口次郎左衛門。西 齋藤八十郎。御先手組屋敷。

南 十三間。北 西 八間五尺五寸。東 十壹間五尺五寸。北 西 十貳間。

小石川切支丹屋鋪脇竹田金八郎上ヶ地今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申上爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月十八日

御勘定所詰御普請役元締 渡邊清八印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。

安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

根津元御屋敷之内 御下男庄助屋鋪 坪數五拾坪。

東 道。牧野權菴。西 三浦午之助。白井左平太。

南 牧野權菴。北 西 三浦午之助。白井左平太。

根津元御屋敷之内田代銀次郎上ヶ地今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成四方間數股昌期 四五七

渡邊清八

庄助

坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申_レ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月十八日

御廣鋪番之頭支配御下男

助印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無_レ之。

安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

小石川 諸星半六郎屋鋪 坪數百拾八坪。

東道。西飯島治郎兵衛。

南東。十三間餘。北西。十間餘。

小石川阿部伊勢守上ヶ地之内須賀谷忠藏上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申_レ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月十八日

西丸表御所組頭

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無_レ之。

安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

根津元御屋敷之内 鈴木長次郎添地 坪數四拾五坪。

東道。南鈴木長次郎。北西。大谷林司、道。近田岩之助。

南東。七間五尺。北西。七間五尺。

郎鈴木長次

郎諸星半六

根津元御屋敷之内梶田幸澤上ヶ地、今度願之通拙者添地拜領仕御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申_レ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月十八日

蓮淨院殿用部屋書役

鈴木長次郎印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無_レ之。

安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

南本所三ツ目通り 金子三郎右衛門_〇正屋敷 坪數貳百坪。

東山岡幸七。南。新道。北西。割殘り。津輕采女。

南東。拾三間壹尺。南北。五間壹尺。

南本所三ツ目通小出水殿上ヶ地之内、今度願之通金子三郎右衛門屋鋪拜領仕御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申_レ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月二十二日

本所御屋敷預り金子三郎右衛門内

權田市兵衛印

水谷信濃守渡_レ之。

中村半治。清水藤藏。平野善右衛門。

圖略○

南本所三ツ目 小出主水上ヶ地割殘り 坪數七拾貳坪。

東。金子三郎右衛門。北西。石川八十郎。

般昌期

四五九

金子正賀

金子正賀

南本所三ツ目通小出主水殿上ヶ地割残り、金子三郎右衛門正賀の御預ヶ被成四方間數

坪數、右御繪圖之面、相違無御座、御預リ申為後日仍如件。

寛延二己巳年八月廿二日

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改預之。

木所御用屋敷預リ金子三郎右衛門内
權田市兵衛印

圖略〇

牛込御門外 舟河原橋小屋場。

東北 道。舟河原橋、江戸川。西南 道。御堀。

西北 西南 十四間三尺。東南 貳十七間。

牛込御門外舟河原橋掛ヶ直之付、小屋場地、面御渡し被成四方間數御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申為後日仍如件。

寛延二己巳年八月廿二日

水戸殿内 山岸太兵衛印
加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改渡之。

圖略〇

舟河原橋
小屋場

永田直恒

神田橋外小川町 永田文十郎直恒屋敷 坪數貳百四拾坪。

南東 神尾若狭守。西 道。石丸主計。

南西 七十間五尺餘。

神田橋外小川町大江松卓殿上ヶ地割残り、今度願之通永田文十郎屋敷拜領仕、御渡し被成四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申為後日仍如件。

寛延二己巳年八月廿三日

水谷信濃守渡之。
鈴木嘉橋。

安川善太夫。服部七右衛門。善孫子介五郎。平野善右衛門。

圖略〇

小石川 善右衛門屋鋪 坪數七拾五坪。

東 道。明照寺。西 早川伊兵衛。

南 七十間三尺。北 六十間三尺。

小石川若荷谷波多野幸右衛門上ヶ地、今度願之通拙者屋鋪拜領仕、御渡し被成四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申為後日仍如件。

寛延二己巳年八月廿三日

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付立合無之。

御旗番之頭支配御下男
善右衛門印
安川善太夫。服部七右衛門。善孫子助五郎。平野善右衛門。

圖略○

三田 板倉修理上ヶ地割殘 坪數百坪餘

東西 南北 四方ノ指針ナシ四隣及間數等省之。

三田板倉修理上ヶ地割殘拙者ノ御預被成四方間數坪數右御繪圖之通り相違無御座御預り申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿五日

御本丸御掃除之者
青木勘藏印

加藤備後守内山本七郎兵衛水谷信濃守内鈴木嘉橋
右立合相改預之。

圖略○

三田 佐久間長左衛門仍信屋鋪 坪數五百坪。

東 細川越中守。西 道。笹本藤八郎。

南 道明地。北 細川越中守。

三田板倉修理上ヶ地今度願之通佐久間長左衛門屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿五日

御書院番石川備中守組佐久間長左衛門内
和藤田藏印

加藤備後守渡之。

藤田太兵衛印

仍佐久間信

青木勘藏

山本七郎兵衛鈴木嘉橋。
中村半治安川善太夫服部七右衛門平野善右衛門。

圖略○

麻布谷町 野口儀左衛門屋敷 坪數貳百坪。

東 富澤惣左衛門。西 松田丈助。

南 道。北 道。

麻布谷町中川平兵右衛門上ヶ地今度願之通拙者屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿五日

月光院御侍
野口儀左衛門印

加藤備後守内山本七郎兵衛水谷信濃守内鈴木嘉橋。

中村半治安川善太夫服部七右衛門平野善右衛門。

圖略○

巢鴨 水上美濃守正興下屋鋪 坪數貳千坪。

東 藤堂和泉守百姓地。西 割殘リ。

南 道。北 道。

刑部卿殿巢鴨御上ヶ地之内今度願之通水上美濃守下屋鋪拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿六日

大御所御側水士美濃守内
鹽田幸右衛門印

殷昌期

四六三

野口儀左

水上興正

水谷信濃守渡之。
山本七郎兵衛。關音右衛門。

宇野又次郎。中村清兵衛。富山久右衛門。
中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。清水

圖略○

櫻井貴氏

北本所二之橋通

櫻井林右衛門○貴

添地

坪數百拾貳坪。

東道。

小林五兵衛。山本儀助。櫻井林右衛門。

北西 鈴木四郎左衛門。
山口甚五郎。

南 六間壹尺八寸餘。
西 七間壹尺六寸。
北 十六間貳尺。

北本所二之橋通近藤十兵衛上ヶ地。今度願之通。櫻井林右衛門添地拜領仕。御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定枕之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿七日

加藤備後守渡之。

中村清兵衛。服部七右衛門。平野善右衛門。

御聽所御鑒所頭櫻井林右衛門内
鈴木幸太夫印

中山顯成

圖略○
寬延三年十月十八日御普請方之者新八郎渡。

根津元御屋敷之内

中山平左衛門○顯

拜借地

坪數七拾坪。

東北

道。中山平左衛門。西南 割残り。
東南 大下水。

東北 西南 三九間三尺餘。
西北 東南 三九間三尺餘。

根津元御屋敷之内。伊佐次郎吉上ヶ地之内。今度願之通。中山平左衛門當分拜借御渡し被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。御定枕之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿七日

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

右立合相改渡之。

御聽所御鑒所頭中山平左衛門内
吉澤富右衛門印

圖略○

根津元御屋敷之内

伊佐次郎吉上ヶ地割殘

坪數百貳拾五坪。

東南

道。中山平左衛門拜借地。

西北 道。
西南 道。

東南 西南 十九間三尺。
東北 西北 十九間三尺餘。

根津元御屋敷之内。伊佐次郎吉上ヶ地割殘。中山平左衛門○顯。御預ヶ被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年八月廿七日

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

右立合相改預之。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年

八月三日渡。久松佐七郎上ヶ地

御馬預

一、雉子橋御門外四百坪

村松四兵衛

俱、御厩爲添地。渡。

小普請組松下加兵衛支配

八月四日預。小宮山左太郎上ヶ地

井戸半十郎

一、巢鴨火之番町百三坪

小普請方改役下役預地

八月九日渡。木村五郎兵衛上ヶ地

山本甚兵衛

一、三田元御屋敷之内六拾坪

四六五

般 昌 期

中山顯成

東京市史稿

- 八月九日渡。諸住善次郎上ヶ地
- 一、赤坂寺町七拾坪
- 八月十八日渡。竹田金八郎上ヶ地
- 一、小石川切支丹屋敷脇百貳拾五坪
- 同日渡。梶田幸澤上ヶ地
- 一、根津元御屋敷之内四拾五坪
- 同日渡。阿部伊勢守上ヶ地之内須賀谷忠藏上ヶ地
- 一、小石川百拾八坪
- 同日渡。田代銀次郎上ヶ地
- 一、根津元御屋敷之内五拾坪
- 八月廿二日渡。小出主水上ヶ地之内
- 一、南本所三ツ目通貳百坪
- 八月廿三日渡。大江松原上ヶ地割殘
- 一、神田橋外貳百四拾坪
- 同日渡。波多野幸右衛門上ヶ地
- 一、小日向若荷谷七拾五坪
- 八月廿五日渡。板倉修理上ヶ地
- 一、三田五百坪
- 同日渡。中川平三右衛門上ヶ地
- 一、麻布谷町貳百坪
- 八月廿五日預。板倉修理上ヶ地割殘
- 一、三田百坪餘
- 八月廿六日渡。刑部卿上ヶ地之内
- 一、巢鴨貳千坪
- 八月廿七日渡。近藤十之丞上ヶ地
- 一、北本所二ノ橋通百拾貳坪

- 四六六
- 御下男組頭 加藤時右衛門
 - 御普請役元 渡邊清八
 - 蓮淨院殿用部屋書役 鈴木長次郎
 - 西丸表御臺所組頭 諸星半六郎
 - 御下男 庄
 - 木所御用屋敷預り 金子三郎右衛門
 - 大御番遠藤藤備前守組 永田文十郎
 - 御下男 善右衛門
 - 御書院番石川備中守組 佐久間長左衛門
 - 月光院様御侍 野口儀左衛門
 - 御掃除之者 青木勘藏
 - 大御所御側衆 水上美濃守
 - 御膳所御臺所頭 櫻井林右衛門

一、屋敷書拔

寬延二巳年八月七日

相模守殿御渡被成。

御普請奉行。

加藤正景

詰番 加藤備後守景正

平岡道武
杉浦良昭
鈴木茂正
橋本良邦
山本幾右
塩村平治郎

杉浦猪兵衛御屋敷
麻布白銀御殿跡四百四拾壹坪
平岡又左衛門御屋敷
永田町加納遠江守上ヶ地貳百貳拾五坪
橋本佐市御屋敷
四番町三百坪
鈴木彦八郎御屋敷
四谷内藤宿三百六拾五坪
鹽村平治郎御屋敷
青山長者丸百五拾坪
山本幾右衛門御屋敷
大久保松平出雲守上ヶ地百坪

西丸新御番神保四郎右衛門組
平岡又左衛門御屋敷
右衛門督殿近習番
杉浦猪兵衛御屋敷
刑部卿殿用人
鈴木彦八郎御屋敷
刑部卿殿近習番松平於義丸附人
橋本良邦御屋敷
山本幾右衛門御屋敷
小普請酒井越中守
鹽村平治郎

右願之通屋敷相對替被仰付。間得其意例之通可被致。

相對替御書附書拔

正賀吉太郎。淺右衛門。三郎右衛門。

寬延二巳年八月七日南本所三ツ目通りニ多小出主水上ヶ地貳百坪屋敷地被下旨松平

宮内少輔。傳之一。

信仍。佐久間。

寬延二巳年八月八日三田魚籃下板倉修理揚地五百坪餘拜領仕。

茂正。小四郎。彦八郎。

一、寬延二巳年八月八日四谷内藤宿新屋敷。表四番町松平於義丸附橋本左一屋敷。

相對替願之通被仰付。

寬政呈譜

附記、一

利金

殷昌期

四六七

寬延二巳年八月七日松平右近將監殿元〇武御渡御書付

淺草御藏前札差共爲助成料用立金子一兩之付一ヶ月銀一分五厘ツ、引取義可爲伺之通い。

一、唯今迄御切米之節之至用立金子之員數等、札差共より伺いて被申付筋之いへ共、向後之儀ハ、右之筋不及貧着若札差共如何之筋之承い節ハ、答申付い様之、可被心得い事。

享保撰要類集

附記二
官歴録上

〔附記二〕 官歴録上

十一日〇寬延二年
八月〇中略

一、左之通小出信濃守殿被御渡い旨向々い神尾市左衛門被申聞い。

一、悴勤い幼少之未御日見御番入願等不任いて、其譯書出可申い。悴無之亦、自分御番勤年數御役勤年數之譯書出し、尤悴無之譯書出し可申い。右之付差急申い義故、明日〇寬延二年
八月十二日、中、早々御銘々御頭々御書出可被成候。

御書付

何御役
何之誰

一、御日見以下〇或之何之番何年相勤夫〇御日見以上何之役被仰付御役替之品當御役何年相勤都合御日見以上之御役何年相勤い譯。

何之誰
何實養子惣領
之
也何誰

一、何年何月幾日御日見仕い譯。

一、何年何月幾日頃或之御支配方〇御番入願書付差出い譯。

一、藝術流儀并師匠姓名何勤并浪人〇之譯御見分等〇右之内何之藝見分請可申之譯。

一、父遠國御役等〇之〇俸御當地之罷在い哉、又之父一所之御役所之罷在い哉之譯。

八月〇寬延二年

中山常左衛門
神尾市左衛門

—寬延録

大風水

十三日己丑

〇寬延二年紀元二四〇九
年八月〇己丑三正綜覽

江戸大風雨、江戸川神田川漲溢シ、隅

田川亦増水ス。牛込

〇市内
牛込區。小石川

〇市内小
石川區。被害殊ニ甚シク、橋梁多ク流

失ス。〇變災
篇參照。

大風水事蹟

大風水 變災篇ニ詳記スレハ、今略ス。

巳〇寬延二年八月十三日

一、當夏〇寬延二年八月〇寬延二年雨繁〇七月〇寬延二年無晴間當月〇寬延二年之至、彌降續い處、今日〇寬延二年

三月〇卯之刻〇北風之〇大嵐往來も絶い程之有之處、牛込小日向邊出水、小石川下谷淺

草邊迄溢出、器財薪材木等〇さましく押流、江戸川上之橋中之橋下之橋龍慶橋舟河原橋

殷昌期

四六九

右不殘流失、小石川御門橋并水道橋別條無之、同所神田上水懸り樋流失、昌平橋流失、但し、北方之ろ四間程殘、筋違橋滯之間橋杭一側流失、和泉橋流失、但し橋臺際之ろ少し殘新し、橋流失、淺草橋滯之間橋杭一側流失、柳橋右同斷、右流水兩國橋の流懸危い之付、本所方御與力北吉田政右衛門殿南仁杉幸右衛門殿兩國橋の御詰兼、御定之町人足一ヶ所、五人ツ、唯今兩國橋迄相詰可申旨、左之町々の御觸之付、米澤町三丁目、吉川町、横山町一丁目、二丁目、三丁目、下柳原同朋町、通旅籠町、馬喰町、東湊町、一丁目、二丁目、目川口町、靈岸町、同所銀町、同四日市町、同濱町、同鹽町、大川端町、南新堀一丁目、二丁目、靈岸橋受負地北新堀町、箱崎町、一丁目、二丁目、堀江町、同六軒町、甚右衛門町、元大坂町、難波町、住吉町、高砂町、堺町、葺屋町、新乗物町、新材木町、新和泉町、新大阪町、田所町、長谷川町、彌兵衛町、元濱町、富澤町、通油町、右町々々人足差出、鯨舟二艘、水練之者水防川並、鳶入交懸り物綱を付、陸之ろ町人足之引セ、取除、又ハ流懸り物之乗移り、御手當之防道具をは、夜明し切流し、芥留杭抜き流いを、水練之者水の飛込、杭の綱を付、悉く引付、働言語之難演、尤大川出水之ろ無之、得共、水勢早く、流物夥敷、松材薪等、水色も不見、程流來い處、人足共働を以、兩國橋無別條、芥留杭抜き流い分も引揚、流失無之、能勢肥後守様馬場讚岐守様御舟手駒井能登守様、兩國橋の御出、西橋番所の御詰被成、水防方御下知被成時々様子御城の度々御注進被成、人足共情出い之付、酒給させい様、肥後守様被仰付、御入用之ろ酒壹樽御調、兩國橋於廣小路、樽之鑑を打拔、處之者致世話給させい。

一、大川出水之程も見えい之付、爲用心、本所中ノ郷、淺草駒形町の町人足爲詰い様、肥後守様被仰渡、追々町々の御觸之付、南茅場町、本材木町八丁分、川瀬石町、小網町三丁分、村松町、若松町、久松町、横山同朋町、橋町三丁目、橋本町四丁分、江川町、久右衛門町、神田富松町、豊島町三丁分、右町々人足、中ノ郷の相詰、淺草平右衛門町、茅町二丁分、瓦町、天王町、猿屋町、三好町、黒船町、諏訪町、駒形町、並木町、田原町三丁分、花川戸町、聖天町、右町々駒形町の相詰い御船手方々も、水防御用意、御船六挺立、ちよろ三艘、御徒目付方、御小人目付衆被付添、兩國橋の被相詰い處、神田川水勢夕方段々和らきい之付、同夜四時比、御三人様共々御歸被成、本所方御與力方夜中御詰い之處、子刻頃高瀬船二人乗之ろ、神田川を流出、兩國橋の流懸り致破船、水主兩人之内一人役船之者共相助ヶ、一人并雜物の御舟手ちよろ之ろ被相助い、右高瀬舟半分崩掛、兩國橋の懸り拔兼いを綱を付引拔申い。

一、小日向水道町邊、水四五尺上り、同所古川町邊七尺程水上り、同所松枝町邊九尺程水上り、其外關口水道町半込改代町同所水道町邊、江戸川通築地邊、右ニ準水上り、尤流家家敷も所々之有之い。

未ッ同○寛延二 二十四日
年八月。

一、神田川水勢和らきい之付、御舟手被出い衆、昨夜八月十三日。八時過引被戻、町人足共も、今朝八月十四日。六時過引戻、水防人足役船水練之者共計相殘い。尤今朝八月十四日。大川之水平生と見合、五寸程高、神田川水勢ハ彌和らきい處、今八月十四日。晝大川水勢早く

被成い。

一、此度大川通出水之付、流來取揚い船橋杭行桁板丸太、御拂之成い間、入札望之者ハ來月年〇寛延二湖日ハ兩國橋新大橋廣小路ハ參り見分之上、同年〇寛延二日四時、本所一ツ目鯨舟鞘番所ハ入札持參致い様之、町中不殘可被相觸い已上。

八月廿八日二〇寛延二

町年密

人

同二〇寛延二九月十四日

一、右出水之付人足差出い町々名主共、奈良屋ハ被呼、人足一人之付銀二匁ツ、之積を以、賃銀被下い旨之、則被相渡い之付、則同日九〇寛延二兩御番所様ハ御禮申上い。

同年〇寛延二九月廿六日

一、肥後守様御番所之、出水御出役之御方、御褒美御拜領、并本所道役八郎兵衛、同吉兵衛、米澤町名主喜左衛門、右三人ハ金貳百疋ツ、被下置、中之郷名主庄八ハ鳥目貳貫文被下置、其外兩國橋水防役、鯨舟水主、兩國橋役舟小頭、同所増役小頭、同役之者、同所東西橋番受負人、右之者共ハ、御褒美鳥目被下置い旨、米澤町同役ハ承之い。

正寶事錄

一、八月十三日二〇寛延二小日向筋小石川筋出水いハ、所々橋損シい。

一、昌平橋、筋違橋、淺草橋、破損之付、御修復出來迄、往來留い。○柳原和泉橋、同斷之付、假橋懸ル。

一、江戸川、船河原橋、同龍慶橋、同中之橋、同大橋、小日向水道町ハ古川町ハ渡ル橋、小石川

小笠原信濃守松平内匠頭境大下水橋、同傳通院裏門前大下水橋、神田川新し橋、淺草柳橋、小日向江戸川中堤境矢來際關口ハ渡ル橋。

右橋々、此度出水之付流失并破損有之、往來無之、一兩日過段々假橋等出來致しい。

續談海

廿三日八〇寛延二

八月〇中略

一、左之御書付神尾市左衛門被相觸い。

今度出水之付、居宅床ハ上水付い萬石以下地方取之分、御切米取之分ハ、高百石之付金拾兩之積を以、拜借被仰付い旨、御勘定奉行承合、可被請取い。尤當暮二〇寛延二之物成并御切米を以、可有返納い。

右之通可被相達い。

八月二〇寛延二

廿六日九〇寛延二

九月〇中略

山吹之間

町奉行 能勢 肥後守一〇頼 馬場 讚岐守〇尚
小普請奉行 駒井 能登守正〇壽

右之先比出水之砌、場所ハ罷出、出精い之付、兩國橋流失不仕い。依之御言葉之御褒美被成下い之旨、御老中御列座、相模守殿正〇堀田被仰渡い。若年寄衆侍座。

殷昌期

四七五

〔附記一〕 増上寺黒本尊殿舎修理

十五日 八〇寛延二年

略。

御白書院 略。中

三束二卷。

十六日 九〇寛延二年

略。

芙蓉之間

時服二。

右之黒本尊宮殿御用相勤い之付被下之。

御右筆部屋縁類

銀七枚。

右同斷之付被下之。

躑躅之間

銀七枚。

右同斷之付被下之。

焼火之間

銀三枚ツ。

寛延録

黒本尊宮殿御造營之御禮。
増上寺 大僧正

御作事奉行
服部大和守貞保

御大工頭
福田久左衛門

御作事下奉行
櫻井勘右衛門

御被官
河邊又八郎

清水 忠右衛門
御徒假役
長崎 市右衛門

勘定役
今井 孫兵衛

繪師
狩野 春賀

大工棟梁
辻内 豊後

鋸方
高井 土佐

漆師方
阿彌 出雲

木挽方
太田 播磨

櫻井 金三郎

寛延二録 〇寛延
録同。

右同斷之付被下之旨、板倉佐渡守殿清被仰渡い。

十五日 八〇寛延二年 増上寺大増正連察、こたび黒本尊の殿舎造營を謝したまふ。

十六日 九〇寛延二年 作事奉行服部大和守保貞、黒本尊堂造營つかさどりしをもて、時服

賜はる。屬吏賜もの差あり。 惇信院殿御實紀

〔附記二〕 寺社境内町人町支配

寛延二巳年八月廿四日大岡越前守相申談此通り極ル。

寺社境内商人見せ物芝居等之町人、寺社方御支配之可有御座哉。

一、寺社門前之勿論、境内之亦も、町屋住居之町人店借り浪人町醫師道心者等迄、町方支

殿 昌 期

四七七

附記二
寺社境内
町人町支配

配之可有御座哉之事

享保撰要類集

屋鋪受授

九月二日丁未○寬延二年紀元二四〇借地受授有リ。外ニ屋鋪若干是月○

延二年紀元二四〇受授セラレ。屋鋪波預繪圖證文。屋敷書拔。寬延錄。寬延二錄。

屋鋪受授事

屋鋪受授 寬延二年九月若干屋鋪ノ受授有リ。

圖略

神山三郎

北本所河岸地 神山三郎左衛門拜借地 坪數八拾五坪。

東 河川。北 西 河道。南 河岸。北 西 河岸。

東 九間三尺。北 西 九間二尺。南 九間壹尺。北 西 九間。

北本所神山三郎左衛門屋鋪前河岸地、今度願之通家作地ニ拜借任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年九月二日

御代官神山三郎左衛門内 早野新藏印

水谷信濃守内畠山全平太。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

安川善太夫。清水藤藏。吾孫子助五郎。

圖略。當〇寬延二年十二月廿六日與山甚助之渡ス。

權田原 久能專八拜借上ケ地 坪數三拾坪。

東 明地。前田岩之助。北 西 道。松井喜四郎。南 六間。五尺。北 西 四間。五尺。

東 六間。五尺。北 西 四間。五尺。南 四間。五尺。北 西 四間。五尺。

權田原元御屋敷御長屋跡久野專八拜借上ケ地、拙者に御預ケ被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、相違無御座御預リ申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年九月十二日

吹上奥御小人 水上淺右衛門印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改預之。

圖略

本多 央

筋違橋御門内 本多長門守○忠屋鋪 坪數三千七百四拾七坪。内、建家長屋土藏共。千三百六十七坪程。

東 道。北 西 道。松平伊賀守。南 道。北 西 道。松平伊賀守。

東 百拾貳間。北 西 九十六間三尺。南 五間。北 西 六十三間三尺。

淺草鳥越本多長門守屋鋪家作共差上筋違御門内土井岩之助殿上ケ屋鋪家作共御引替拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、并建家立具疊長屋土藏植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年九月十九日

本多長門守内 小林郷左衛門印

加藤備後守渡之。

殷 昌 期

鈴木嘉橋。畠山全平太。

宇野又次郎。中村清兵衛。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。清水喜兵衛。吾孫子助五郎。平野吉右衛門。

筋違橋御門内土井岩之助殿上々屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一門扉 但、錠、鑰、有、共。 六枚
- 一戸 但、半、戸、共。 四百五十五本
- 一障子 但、半、障、子、共。 三百五十七本
- 一襖 但、小、襖、共。 八十九本
- 一疊 但、半、疊、共。 五百五十三疊
- 一梯子 大小。 拾三挺
- 一植木 大小。 品々
- 一庭石 大小。 品々

右之通立合相改間違無御座請取申上。

已〇寛延二年九月十九日

木多長門守内 小林郷左衛門印

圖略

淺草鳥越

土井岩之助。利屋鋪。南。道。西。川。浦。肥。前。守。

坪數三千八百三拾坪。

内、建、家、長、屋、土、藏、共、千、百、三、拾、八、坪、程。

土井利貞

東 三十八間五尺、四十四間。 西 七十六間二尺、二十間五尺。

筋違橋御門内土井岩之助屋鋪家作共差上、淺草鳥越本多長門守殿上々屋鋪家作并無年貢抱地共御引替拜領任、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、建家立具疊長屋土藏植木石等迄、御帳面を以相改、相違無御座請取申上、爲後日仍如件。
寛延二己巳年九月廿五日
加藤備後守渡レ之。
土井岩之助内 眞鍋彦五郎印

山本七郎兵衛。關音右衛門。鈴木嘉橋。畠山全平太。

宇野又次郎。中村清兵衛。富山久右衛門。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。清水藤藏。吾孫子助五郎。平野善右衛門。

淺草鳥越本多長門守上々屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一門扉 但、錠、鑰、有、共。 五枚
- 一戸 但、半、戸、共。 五百貳十四本
- 一障子 但、半、障、子、共。 貳百九十九本
- 一襖 但、小、襖、共。 百四十九本
- 一疊 但、半、疊。 五百七十八疊
- 一階子 大小。 六挺
- 一植木 大小。 品々
- 一庭石 大小。 品々

右立合相改相違無御座請取申以上。

巳〇寛延二年 九月廿五日

土井岩之助内
眞鍋彦五郎印
屋鋪渡預繪圖證文

寛延二己巳年

九月二日渡。自分屋敷前河岸地

一、北本所八拾五坪

九月十九日渡。土井岩之助上ケ屋敷

一、筋違御門内三千七百四拾七坪

但、浅草鳥越奥屋敷家作共差上、岩之助屋敷家作共引替拜領之付渡

九月廿五日渡。本多長門守上ケ屋敷

一、浅草鳥越三千八百三拾坪

但、筋違御門内屋敷家作共差上、長門守屋敷家作共引替拜領之付渡

御代官
神山三郎左衛門
本多長門守
拜借地

九日〇寛延二年

九月〇中略

芙蓉之間

本多長門守屋敷被下之。

土井岩之助屋敷被下之。

右之通屋敷入替被仰付の旨、相模守殿正亮被仰渡い。

名代三浦玄蕃頭
土井岩之助
本多長門守

寛延録〇寛延二録同

一、寛延二己巳年九月九日三浦玄蕃頭義今日就御禮日登城仕い處、土井岩之助御用有之

屋敷書拔

附記二
日除船數
制限緩和

い間爲名代居残い様、大目付申達有之、相残い處、本多長門守鳥越居屋敷家作共隣抱地添被下之、唯今迄之筋違内居屋敷可差上旨、被仰渡い。

〔附記一〕 日除船數制限緩和

一、貳挺立三挺立之日除船三拾艘、川船爲御用、正徳三己巳年差免い所、舟數無數御用差支

之相成、其上却る紛敷義も有之い、之付、右之日除船七十艘去々卯年〇延享四年差免都合百

艘之積い得共、右員數之外之も猶又望ミ存い者ハ、川船方鶴武左衛門方ハ相願い義ハ、

勝手次第之事之い。

右之通可相心得い。以上。

巳〇寛延二年 九月

右之通被仰渡い間、町中不殘入念、可被相觸い。已上。

町年密
三

正實事録

〔附記二〕 拜領町屋鋪町費課否諮問

巳〇寛延二年 九月十九日

奈良屋市右衛門殿年番名主ハ被申渡い。

一、町々有之い上ケ屋鋪明地之御家人拜領屋鋪被成、地代店賃一切上り不申いも、

町役諸入用、右拜領人ハ差出い哉、又之町内之其地面分之相除諸入用を割合い例も

股 昌 期

四八三

附記二
拜領町屋
鋪町費課
否諮問

有之哉、有無之義來ル廿二日○寛延二年九月迄之、年番を書出可申旨、被申渡○寛延二年九月。

右之付組合之相尋○寛延二年九月廿二日上、今日○寛延二年九月廿二日惣年番寄合、例相調へ○寛延二年九月廿二日處、麻布網代町之内之上り屋鋪有之明地之を拜領屋敷之相成○寛延二年九月廿二日處、地代店賃等も上り不申○寛延二年九月廿二日故、町役諸入用右拜領屋敷○寛延二年九月廿二日の相懸ケ不申公役銀計右御拜領人○寛延二年九月廿二日を被差出○寛延二年九月廿二日の旨、網代町名主宗十郎方を書出○寛延二年九月廿二日の付、右之儀相認、尤右之外○寛延二年九月廿二日の例無御座明○寛延二年九月廿二日キ地之を町役諸入用却る御拜領人○寛延二年九月廿二日を被差出○寛延二年九月廿二日の段返答、右即日奈良屋○寛延二年九月廿二日に差出申○寛延二年九月廿二日。

〔附記三〕

拜領拜借町屋鋪錄上

正實事錄

巳二〇寛延 九月晦日

喜多村彦右衛門殿左之兩様惣名主○寛延二年九月に被申渡

一、惣多町屋鋪を拜領致御用等受負罷在○寛延二年九月の分、不殘書上、何之何月誰殿被仰渡○寛延二年九月いと申義、委細可相認事。

一、地面計を拜借致右助成○寛延二年九月の受負致し罷在○寛延二年九月の分も、右之准可書出事。

一、右屋鋪間數沽券書入并上り○寛延二年九月の迄、誰所持之屋鋪を名書加可申事。

右之通町屋敷有之分、委細書付、名主月行事致印形、來月○寛延二年九月五日迄之持參可有之○寛延二年九月、尤無之町々○寛延二年九月の其斷書可被差出○寛延二年九月以上。

巳二〇寛延 九月

附記三、
上町屋鋪錄

名主中

巳二〇寛延 十月十七日

喜多村彦右衛門殿年番名主○寛延二年十月に被申渡

一、先達を申渡し拜借屋敷并拜借地之外、地代店賃等取立相納○寛延二年十月の分も、不殘間數坪數沽券等書付誰上り屋鋪之を、地代店賃何方に相納○寛延二年十月いと申義、委細之書付、來ル廿日迄可被差出○寛延二年十月。此旨不殘様可被申繼○寛延二年十月以上。

巳二〇寛延 十月

年番名主中

正實事錄

屋鋪渡預

十月十一日丙戌○寛延二年(紀元二四〇九年)丙戌(三正綜覽)。市谷加賀屋鋪明地○市内。ヲ植木置場ニ貸附ス。外ニ是月○寛延二年(紀元二四〇九年)十月。屋鋪ノ渡預若干有リ。○屋鋪渡預 繪圖證文。屋

敷書

屋鋪渡預 寛延二年十月若干屋鋪ノ渡預有リ。

圖略

植木置場

市谷加賀屋敷御明地之内 御用植木場 坪數百坪

東道。西明地。北染物干場。拾間四方。

市谷加賀屋鋪御明地之内之を御用御植木十三ヶ月之間植置申度旨御願申上○願之處、願之

股昌期

通被仰渡、右地面御繪圖之通、御渡被成、請取申、來午^{三〇}寬延之十月中、右御地面差上可申、
為後日仍如件。

寬延貳己巳年十月十一日

植木屋

三右衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付
立合無之。

右立合相改渡之。

圖略○

橋普請小屋場

麻布廣尼 橋組合普請小屋場。

東 橋、川。 西 道。
南 北 森川兵部少輔。

東北 三間。
西北 十壹間。

麻布廣尼橋組合掛直シ小屋場御渡し被成、四方間數、右御繪圖之面、御定杭之通相違無御
座請取申、為後日仍如件。

寬延二己巳年十月十四日

伊達江守内

信田 奎左衛門印

牧野清兵衛内

藤澤 仁右衛門印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。
右立合相改渡之。

圖略○

橋懸直シ小屋場

小石川 組合橋懸ケ直シ小屋場。

東 道。 西 道。 大 下 水。
南 北

東 三間。 西 五間。 南 四間。 北 五間。 東 五尺。 西 五尺。 南 五尺。 北 五尺。

小石川春日町西之方組合橋此度石橋ニ致、付、右小屋場地面御渡し被成、四方間數、右
御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、為後日仍如件。

寬延貳己巳年十月十五日

小笠原信濃守内

阿部 曾右衛門印

松平内匠頭内

下山 重太郎印

加藤備後守内山本七郎兵衛。水谷信濃守内畠山奎平太。
右立合相改渡之。

圖略○

巢鴨 高力若狹守行。下屋敷。坪數貳千坪。

東 道。 西 道。 南 道。 北 道。 東 上 美 濃 守 下 屋 敷。 割 殘 り 地。
西 上 美 濃 守 下 屋 敷。 割 殘 り 地。

東 北 三 十 七 間。 西 南 三 十 七 間。 東 南 三 十 七 間。 西 北 三 十 七 間。 東 一 尺 餘。 西 一 尺 餘。

刑部卿殿巢鴨御上ヶ地之内、此度願之通高力若狹守下屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數
坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申、為後日仍如件。

寬延二己巳年十月廿七日

御留守居高力若狹守内

後藤 三郎左衛門印

水谷信濃守渡之。

殷 昌 期

鈴木嘉橋。畠山奎平太。山本七郎兵衛。關音右衛門。

棟梁拾人。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年

十月十一日渡。市谷加賀屋敷明地之内百坪。

但御用植木置場之渡ス。

十月廿七日渡。南部御殿御土ヶ畑之内

一、巢鴨貳千坪

但、下屋敷之渡。

植木屋
三右衛門
御留守居
高力若狹守

屋敷書拔

附記
木戸番屋
轉移

〔附記〕

木戸番屋轉移

乍恐以書付御訴訟申上

一、鈴木町月行事久藏、松川町月行事源七申上、私共兩町境之有來、木戸番屋破損仕
い之付、此度鈴木町側、引直、新規之普請仕、并木戸矢來共、修復仕度奉存、依之繪圖面
を以御訴訟申上、願之通被爲、仰付被下置、い、難有奉存、い以上。

寬延二年巳十月廿三日

鈴木町月行事
久藏
五人組
三郎右衛門
名主
源七
松川町月行事
源七

御奉行所様

右之通御月番能勢肥後守様、御訴訟申上、い得之、御見分被下、い。

差上申一札之事

一、私共町境之横五尺、竖六尺之番屋壹ヶ所、只今迄松川町側之有、之、い處、破損仕、い之付、
此度鈴木町之側、右番所引直し、元間敷之通普請仕、木戸矢來共、修復仕度旨、今日
廿三日。繪圖面を以御訴訟申上、い得之、御見分被下、則私共立合、御改御座、い處、繪圖面之
通、間敷相違無御座、い、尤相障、い義も無御座、い間願之通被、仰付被下置、い、早速普請
之取掛り、出來仕、い、其節御訴可申上、い爲後日、仍如件。

寬延二年巳十二月廿三日

鈴木町月行事
久藏
五人組
三郎右衛門
名主
源七
松川町月行事
源七
五人組
嘉兵衛
名主
新右衛門
見分人
岡田源兵衛

御番所

右之通證文出來同月○寬延二年十月廿七日肥後守様御内寄合に被召出願之通被仰付同
○寬延二年十一月十六日出來

十一月十三日戊午○寬延二年(紀元二四〇九年)〇戊午(正綜覽)屋鋪預有リ。外ニ是月○寬延二年(紀元二四〇九年)〇十一月

屋鋪受授
屋鋪受授事

屋鋪ノ受授セラレタル者若干。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。寬延錄。

圖略

大久保天神前 小澤半七郎上ケ地 坪數九拾壹坪。

東道。西道。北道。稻屋新次郎。
南道。西道。北道。稻葉岩松。

大久保天神前小澤半七郎上ケ地。拙者共の御預被成。四方間數坪數。右御繪圖之面。相違無御座御預申。爲後日仍如件。

寬延二己巳年十一月十三日

稻葉石松
粕谷新次郎

小普請酒井越中守組
稻葉石松印
法心院殿伊賀者
粕谷新次郎印
加藤備後守内關音右衛門。水谷美濃守内役人外御用ニ付立合無之。

右立合相改預之。

圖略

小日向 組合大橋掛ケ直シ小屋場。

東道。西道。北道。江戸川。
南道。西道。北道。三間。三尺。

小日向大橋組合掛直シ付小屋場地。面御渡し被成。四方間數。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。仍如件。

寬延二己巳年十一月廿二日

久世出雲守内
山崎彌五右衛門印
菅恒右衛門
大久保直之丞内
小林八左衛門

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内關音右衛門。右立合相改渡之。

圖略

神田橋御門内 酒井左衛門尉○忠屋敷 坪數五千六百坪。内、貳千貳百拾三坪。建築家長屋土藏共。

東道。西道。北道。酒井雅樂頭、秋元但馬守。
南道。西道。北道。酒井雅樂頭、秋元但馬守。

神田橋御門内松平因幡守殿上ケ屋敷。建家共。今度酒井左衛門尉拜領仕御渡し被成。四方

般昌期

小日向大橋掛ケ直
小屋場

酒井忠奇

間敷坪數右御繪圖之面御定杭之通并建家立具疊植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申い爲後日仍如件。

寬延二己巳年十一月廿六日

酒井左衛門尉内
依田八右衛門印

水谷信濃守渡レ之。

鈴木嘉橋。畠山奎平太。山本七郎兵衛。關音右衛門。
棟梁給人。

神田橋御門内松平因幡守上ケ屋鋪立具疊植木石目錄

- 一、門扉 但、么、_三共。 拾貳枚。
- 一、戸 但、半戸共。 千百六本。
- 一、襖 但、小襖共。 百七十九本。
- 一、障子 但、半障子共。 五百六十壹本。
- 一、疊 但、半疊共。 九百七十八疊。
- 一、階子 但 百三挺。
- 一、植木 大小。 品々。
- 一、石 大小。 品々。

右之通相違無御座請取申い以上。

已〇寬延 十一月廿六日

酒井左衛門尉内
依田八右衛門印

圖略〇

愛宕下 大岡越前守^{〇忠}下屋鋪 坪數千三百八拾坪。

東南 大島内藏助峰尾小右衛門。西北 宇津大學。

西南 道。東南 五十九間。西北 五十九間。

小名木川通り扇子橋大岡越前守下屋鋪差上愛宕下宇津大學殿上ケ地御引替拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申い爲後日仍如件。

寬延二己巳年十一月廿八日

大岡越前守内
加藤兵作印
久野十藏印

水谷信濃守渡レ之。

鈴木嘉橋。畠山奎平太。山本七郎兵衛。關音右衛門。
宇野文次郎。富山久右衛門。安川善太夫。服部七右衛門。上野彌十郎。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年
十一月十三日預。小澤半七郎上ケ地
一、大久保天神前九拾壹坪

十一月廿六日渡。松平因幡守上ケ屋敷
一、神田橋御門内五千六百坪

但、建家立具疊植木石共。
十一月廿八日渡。宇津大學上ケ地
一、愛宕下千三百八拾八坪

小普請酒井越中守組
稻葉石松
法心院殿伊賀者
新次郎
酒井左衛門尉

般昌期

大岡越前守
四九三

但、小名木川通扇橋下屋敷差上引替拜領之付渡

廿一日○寛延二年十一月

屋敷書拔

酒井左衛門尉

右之當時御役相勤居屋敷殊之外手狭之付、神田橋之内松平因幡守屋敷家作共之添地之被下之旨、於與被仰渡い。

御白書院縁頼

大久保忠興

大久保出羽守○忠
名代 石川内膳正 興

右之小川町屋敷井添地家作共之可差上い、下屋敷之内之居屋敷之可被致い、御金五千兩被下置、翼鴨刑部卿殿上ヶ地之内之、小川町屋敷井添地之坪敷之通り被下之旨、御老中御列座、伯耆守殿正珍被仰渡い。

芙蓉之間

土屋篤直

土屋能登守○篤

松平輝高

松平因幡守○輝
名代 木庄和泉守 高

小川町大久保出羽守屋敷家作共之被下之、添地之分ハ御預ヶ被成候。大名小路屋敷家作共之可差上候。大名小路土屋能登守屋敷家作共之被下之、神田橋内居屋敷家作共之可差上候。愛宕下字津大學屋敷之内千三百八拾八坪下屋敷之被下之、本所扇橋屋敷可差上旨。

大岡越前守○忠
租

右之通御老中御列座、伯耆守殿被仰渡い。

宇津教達

宇津大學○教

右之愛宕下居屋敷之内千三百八十八坪可差上い、代地之被下間敷い、銀五拾枚被下之旨、小出信濃守殿○英於御宅被仰渡い。
——寛延録

教達 富之助、宇津大學。

井田良幹

良幹○九藏
○井田

寛延二己巳年十一月、本所六間堀拜領屋敷地貳百拾坪拜領仕い。——寛政呈譜

一、寛延二年十一月廿一日上屋敷狭小なりとて、神田橋内松平右京亮屋敷井家作を賜はる○五千五百八十八坪。——伯爵酒井家回答

屋鋪受授

十二月朔日乙亥○寛延二年紀元二四〇九年乙亥、三正綜覽。屋鋪渡有リ。外ニ是月○寛延二年紀元二四〇九年

屋鋪受授事

十二月屋鋪ノ受授セラル、者少ナカラズ。○屋鋪渡預繪圖證文。屋敷書拔。相對替御書附書拔。

土屋篤直

屋鋪受授 屋鋪受授ノ寛延二年十二月ニ行ハレタル者若干有リ。左ニ列叙ス。

小川町 土屋能登守○篤屋鋪 坪敷七千貳百八拾八坪九合。内、建家長屋土藏共、四、千七拾八坪程。

東南 道。西南 道。土屋能登守預ヶ地。西北 道。

東南 九十七間三尺。西南 百貳十五間三尺。東北 七拾間三尺。東北 六十三間貳尺。

大名小路土屋能登守、屋鋪就御用家作共差上、爲代地小川町大久保出羽守殿上ヶ屋鋪建

股 昌 期

家共拜領任、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面、御定杭之通、并建家疊立具植木石等迄、御帳面を以相改相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月朔日

土屋能登守内

荒木 彌市兵衛印

原田 源左衛門印

水谷信濃守渡之。

鈴木嘉橋。畠山奎平太。山本七郎兵衛。關音右衛門。

宇野又次郎。富山久右衛門。安川善太夫。服部七右衛門。上野彌十郎。

小川町大久保出羽守上ヶ屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一 門 扉 拾三枚。但、鏡盤有。
- 一 戸 共 貳千百六十本。但、半戸共。
- 一 障 子 九百十貳本。但、半障子共。
- 一 襖 共 貳百六十五本。但、半襖共。
- 一 疊 共 千四百七十四疊。但、半疊共。
- 一 階 子 貳百拾六挺。大小。
- 一 石 手 水 鉢 壹ツ。大小。
- 一 植 木 品々。大小。
- 一 庭 石 品々。大小。

右之通相改相違無御座請取申、以上。

已二〇寛延 十二月朔日

土屋能登守内

荒木 彌市兵衛印

原田 源左衛門印

土屋篤直

圖略○

小川町 土屋能登守真〇預り地 坪數三千三百七拾坪壹合。

東 道。西 道。土屋能登守。

南 道。北 道。土屋能登守。

小川町大久保出羽守殿上ヶ屋鋪之内添地之分、此度土屋能登守御預ヶ地之被仰付、之付、四方間數坪數右御繪圖之面相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月朔日

土屋能登守内

荒木 彌市兵衛印

原田 源左衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋、畠山奎平太。加藤備後守内山本七郎兵衛、關音右衛門。

富山久右衛門。中村半治。安川善太夫。服部七右衛門。吾孫子介五郎。

上野彌十郎。

圖略○

松平輝高

大名小路 松平因幡守高〇屋鋪 坪數七千八百八拾坪。内、建家長屋土藏共

股 昌 期

四九七

東松平丹波守。西道。
南松平大炊頭。北道。

東西六十三間。北一百三十三間。南六十三間。東六十三間。西六十三間。

神田橋御門内松平因幡守屋鋪就御用家作共差上爲代地大名小路土屋能登守殿上ケ屋敷家作共拜領任御渡し被成四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通并建家立具疊植木石等迄御帳面を以相改相違無御座請取申爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月三日

松平因幡守内 石島彌市右衛門印

水谷信濃守渡レ之。

大名小路土屋能登守上ケ屋鋪建家立具疊植木石目錄

- 一 門 扉 但、錠、鑰、有、共。拾壹枚。
- 一 戸 但、半、戸、共。七百四十五本。
- 一 障 子 但、半、障、子、共。七百六十四本。
- 一 襖 子 但、小、襖、共。貳百六十三本。
- 一 疊 但、半、疊、共。千三百七十三疊。
- 一 階 子 大小。八拾壹枚。
- 一 石 手 水 鉢 大小。貳ツ。
- 一 植 木 大小。品々。
- 一 庭 石 大小。品々。

右之通相改相違無御座請取申以上。

已〇寛延 十二月三日

松平因幡守内 石島彌市右衛門印

能興行場

筋違橋御門外 觀世太夫能興行場 坪數五千五百九拾坪。

東 七十七間三尺。西 四十五間三尺。
南 六十四間四尺。北 六十七間三尺。

此度能興行仕之付筋違橋御門外明地并三方折廻シ道内御入此度願之通能興行場之御渡し被成四方間數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申尤有來矢來其儘片付置能興行相仕廻以後如元之矢來取付ケ掃除等仕右御地面差上可申爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月三日

觀世太夫名代

日吉傳兵衛印
彌名藤七印
日吉太兵衛印

水谷信濃守内鈴木嘉橋、畠山奎平太。加藤備後守内山本七郎兵衛、關音右衛門。右立合相改渡レ之。

大久保忠興

東京市史稿

巢鴨 大久保出羽守興^{○忠}屋鋪 坪數壹萬六百六坪。

東道。北西 刺殘り地。藤堂和泉守、水上美の守下屋敷、高力若狹守。

南 八十間、五尺、四十六間、西 百六間、北 四十六間、東 四十四間、五十間、

小川町大久保出羽守屋敷并添地建家共就御用差上ケ、爲代地巢鴨刑部卿殿御上ケ地割残り之内ニテ、添地共元坪之通、出羽守屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申^ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月九日

大久保出羽守内 田村幸左衛門印

水谷信濃守渡^レ之。

鈴木嘉橋、昌山奎平太、山本七郎兵衛、關音右衛門。

圖略[○]當[○]寬延二年十二月廿五日勝田道助^ハ渡^ス。宇野文次郎、中村清兵衛、富山久右衛門、中村半治、清水藤藏、上野彌十郎。

小石川龍慶橋 勘野嘉六郎上ケ地 坪數百四拾貳坪。

東北 飯塚半十郎、西南 森山三郎五郎、西北 道、東南 根來五左衛門。

東北 七間、西南 貳十間、東 七間、西 壹尺。

森山實久

小石川龍慶橋勘野嘉六郎上ケ地、森山三郎五郎^{○實}久^{○實}ハ御預ケ被成、四方間數坪數、右繪圖之面、相違無御座御預^リ申^ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月十八日

御廣敷番之頭森山三郎五郎内 荒井斧右衛門印

加藤備後守内關音右衛門、水谷信濃守内外御用ニ付立合無^レ之、右立合相改預^レ之。

圖略[○]

小堀政方

深川小松町 小堀土佐守方^{○政}下屋鋪 坪數千三百八十坪餘。

東 入堀、北 道、明地、大學太郎右衛門。

南 四十四間、貳尺五寸、北 四十八間、西 三十四間、東 貳尺。

同 小堀土佐守下屋鋪 坪數五百四拾坪餘。

東 伊賀之者町屋、北 西 御船手組屋敷。

南 五十間、北 西 五十間、東 五十間。

貳口合千九百貳拾坪餘。

深川小松町佃島網之者網干場拜借上ケ地并南之方入堀向澁谷山城守殿預^リ上地共、今度願之通小堀土佐守下屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座請取申^ハ爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月廿一日

大御所様御側衆小堀土佐守内 吉岡左司 磨印

水谷信濃守渡^レ之。

圖略[○]

文五郎

小石川 御下男文五郎屋鋪 坪數七拾坪。

殷 昌 期

東 後藤彌左衛門。北西 後藤喜太郎。
南 橋本茂右衛門。北西 道。後藤喜太郎。
東 十四間三尺。北西 十四間五尺。
南 十四間三尺。北西 十四間五尺。

小石川阿部伊勢守殿上ヶ地之内三宅彌八郎上ヶ地今度願之通拙者屋敷拜領仕、御渡之、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。
寬延二己巳年十二月廿五日
西丸御廣敷番之頭支配御下男
文 五郎 郎印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内役人外御用ニ付立合無之。
右立合相改渡レ之。

中村半治。安川善太夫。吾孫子助五郎。

圖略○

仁木蕃政

深川 仁木藤右衛門政○番 屋鋪 坪數四百拾六坪。

東 伊奈傳兵衛。北西 百性地。
南 山名惣三郎。北西 道。百性地。
東 十四間五寸。北西 十四間四尺五寸。

深川小名木川海邊新田水野六左衛門上ヶ地并山本宗信上ヶ地割残り共今度願之通仁木藤右衛門屋敷拜領仕、御渡之、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月廿五日

水谷信濃守渡レ之。

大御番御選民部少輔組仁木藤右衛門内
別府治部藏印

鈴木嘉橋。

中村清兵衛。清水藤藏。平野善右衛門。上野強十郎。

圖略○

内藤正武

大塚久保町 内藤次郎右衛門武○正 屋鋪 坪數三百三拾坪。

東 道。北西 米倉一學。
南 道。北西 道。米倉一學。
東 十三間五尺。北西 十三間三尺餘。

大塚久保町森川求馬上ヶ地今度願之通内藤次郎右衛門屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。
寬延二己巳年十二月廿五日
大御番水野肥前守組内藤次郎右衛門内
池田要右衛門印

水谷信濃守渡レ之。

鈴木茂兵衛印

崑山奎平太。

宇野文次郎。富山久右衛門。服部長右衛門。

圖略○

杉重義

小石川 杉源左衛門義○重 屋敷 坪數貳百七拾坪。

東 御徒組屋鋪。北西 御徒組屋鋪。
南 石丸政次郎。北西 御徒組屋鋪。
東 十三間五尺。北西 三十間四尺。
南 十五間三尺。北西 二十間一尺。

小石川馬場近所粕屋金太夫上ヶ地并預り上ヶ地共今度願之通杉源左衛門屋敷拜領仕、
殷 昌 期 五〇三

御渡し被成四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。
寬延二己巳年十二月廿五日

新御番加藤左兵衛組杉源左衛門内
白井十右衛門印

加藤備後守渡之。
關音右衛門。

安川善太夫。中村半治。吾孫子助五郎。

圖略〇

小石川龍慶橋 勝田道助屋鋪 坪數百四拾貳坪。

東 根來五左衛門。西 飯塚半十郎。

南 森山三郎五郎。北 道。

小石川龍慶橋勘野喜六郎上ヶ地、今度願之通勝田道助屋敷拜領仕、御渡し被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月廿五日

御作事下奉行勝田道助内
杉村庄司印

加藤備後守渡之。
關音右衛門。

中村半治。安川善太夫。吾孫子助五郎。

圖略〇

南本所二ツ目 井田九藏^{〇良}屋鋪 坪數貳百拾坪。

東 北 關甚右衛門。西 太田源之丞、菅沼民部。

南 几源之丞。

井田良幹

南本所二ツ目内藤甚五左衛門上ヶ地、今度願之通井田九藏屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。
寬延二己巳年十二月廿五日

御鳥見井田九藏内
藤川松兵衛印

水谷信濃守渡之。
鈴木嘉橋。

中村清兵衛。清水藤藏。平野善右衛門。上野彌十郎。

圖略〇

牛込御徒町 西郷七左衛門屋鋪 坪數百七拾坪。

東 馬場瀧右衛門。西 御徒。

南 道。北 南藏院。

牛込御徒町火除ヶ明地之内割残り、今度願之通西郷七左衛門屋鋪拜領仕、御渡し被成、四方間敷坪數、右御繪圖之面御定杭之通相違無御座請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月廿五日

富士見御實藏番西郷七左衛門内
戸村仲右衛門印

水谷信濃守渡之。
畠山李平太。

宇野文次郎。富山久右衛門。服部七右衛門。

圖略〇

殷昌期

山村安右
山本五郎
加藤又兵
八葉治左
水越幾右

巢鴨大原町 山村安右衛門、山本五郎、八加藤又兵衛、二葉治左衛門、水越幾右衛門五人
屋鋪 坪數五百坪。

東 法田忠治郎。北 長田善太夫、能勢友之丞。
南 百性町屋。

東 十三間三尺四寸餘。
西 四寸餘。
南 二十間壹尺貳寸餘。
北 貳寸餘。

小石川茗荷谷山村安右衛門、山本五郎、八加藤又兵衛、二葉治左衛門、水越幾右衛門、五人
拜領屋敷差上、巢鴨大原町小宮山新右衛門上ヶ地、今度拙者共願之通、御引替拜領仕、御渡
し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

寬延二己巳年十二月廿五日

御弓矢繼奉行同心
山村安右衛門印

山本五郎 八印

加藤又兵衛 印

二葉治左衛門 印

水越幾右衛門 印

水谷信濃守内畠山奎平太。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

圖略○

宇野文次郎、富山久右衛門、服部長右衛門。

奥山甚助

權田原 奥山甚助屋敷 坪數五拾四坪。

東 松澤喜兵衛。北 松井喜四郎。
南 前田岩之助。西 道。

東 六間五尺餘。北 六間五尺。
南 八間。西 八間。

權田原元御屋鋪之内水越與左衛門久野專八兩人拜借御長屋跡上ヶ地、今度願之通拙者
拜領仕、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日
仍如件。

寬延二己巳年十二月廿六日

吹上御廣敷御下男頭
奥山甚助 印

加藤備後守内關音右衛門、水谷信濃守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

宇野文次郎、富山久右衛門、清水藤藏、上野源十郎。

圖略○

三田十番馬場脇 柳本長九郎添地 坪數七坪。

東 道。西 割残り空地。
南 小林藤助。北 柳本長九郎。

東 壹間貳尺。
西 貳尺餘。
南 五間。北 貳尺餘。

三田十番馬場脇拙者屋鋪續行留り道、今度願之通添地ニ拜領仕、御渡し被成、四方間數坪
數、右御繪圖之面、御定杭之通、相違無御座、請取申、爲後日仍如件。

般 昌 期

寛延二己巳年十二月廿六日

西丸御中間
五〇八

柳本長九郎印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

宇野文治郎。富山久右衛門。上野彌十郎。

圖略○

三田元御屋敷之内 吉田理右衛門手嶋幸右衛門屋敷 坪數百三拾坪。

東南 道。三澤惠之助。西北 道。關清右衛門。

西南 十四間。東北 九間。四間。五尺。八間。三尺。五間。五尺。

三田元御屋敷之内鈴木大次郎上ヶ地。今度願之通拙者共屋敷拜領仕。御渡し被成。四方間數坪敷。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月廿六日

吹上御敷番之頭支配御小人

吉田理右衛門印

手嶋幸右衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

圖略○

麻布新馬場脇 割残り空地 坪數拾坪。

東南 柳本長九郎。西北 町屋。

西南 小林藤助。北西 町屋。

寛延二己巳年十二月廿七日

西丸御中間
五〇九

柳本長九郎印

加藤備後守内關音右衛門。水谷信濃守内鈴木嘉橋。

宇野文治郎。富山久右衛門。上野彌十郎。

圖略○

三田元御屋敷之内 吉田理右衛門手嶋幸右衛門屋敷 坪數百三拾坪。

東南 道。三澤惠之助。西北 道。關清右衛門。

西南 十四間。東北 九間。四間。五尺。八間。三尺。五間。五尺。

三田元御屋敷之内鈴木大次郎上ヶ地。今度願之通拙者共屋敷拜領仕。御渡し被成。四方間數坪敷。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月廿七日

吹上御敷番之頭支配御小人

吉田理右衛門印

手嶋幸右衛門印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内役人外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

圖略○

麻布新馬場脇 割残り空地 坪數拾坪。

東南 柳本長九郎。西北 町屋。

西南 小林藤助。北西 町屋。

麻布新馬場脇割残り空地。拙者御預ケ被成。四方間數坪敷。右御繪圖之面。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月廿七日

御留守居高力若狭守同心

小林藤助印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内外御用ニ付

立合無之。

右立合相改預之。

圖略○

麻布新馬場 小林藤助屋敷 坪數百拾坪。

東南 梅澤清吉。西北 町屋。

南 馬場。北 道。柳本喜九郎。割残り空地。

麻布新馬場脇明地割残り。今度願之通拙者屋鋪拜領仕。御渡し被成。四方間數坪敷。右御繪圖之面。御定杭之通。相違無御座請取申。爲後日仍如件。

寛延二己巳年十二月廿七日

御留守居高力若狭守同心

小林藤助印

水谷信濃守内鈴木嘉橋。加藤備後守内外御用ニ付

立合無之。

右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

寬延二己巳年

十二月朔日渡。大久保出羽守上ヶ屋敷

土屋能登守

一、小川町七千貳百八拾八坪九合

右 同 預地人

但、大名小路屋敷御用之付家作共差上、爲代地渡、建家立具疊植木石共。

同日預斷。

松平因幡守

一、同所三千三百拾七坪

大久保出羽守

但、大久保出羽守上ヶ屋敷之内添地之分、預被御付上ヶ付預。

十二月三日渡。土屋能登守上ヶ屋敷

觀 世 太 夫

一、大名小路七千八百八拾坪

但、神田橋御門内屋敷御用之付家作共差上、爲代地、建家立具疊植木石共渡。

十二月九日渡。刑部御殿御上ヶ地御渡之内

一、巢鴨壹萬六千六百六坪

但、小川町屋敷并添地建家共御用之付差上、爲代地元坪之通渡。

十二月十三日渡。

一、昌平橋外明地

但、能興行場之渡ス。

十二月廿一日渡。佃島之著網干場上ヶ地

一、深川小松町千三百八拾坪餘

但、下屋敷之渡。

同日渡。南之方入堀而鎌谷山城守預上ヶ地

一、同所五百四拾坪餘

但、右同斷。

右貳口合千九百貳拾坪餘

十二月廿五日渡。森川求馬上ヶ地

一、大塚久保町三百三拾坪

同日渡。船屋金太夫上ヶ地并預上ヶ地共

一、小石川馬場近所貳百七拾坪

同日渡。勘野喜一郎上ヶ地

一、小石川龍慶橋百四拾貳坪

同日渡。火除場御地之内御渡

一、半込御徒町百七拾坪

十二月廿五日渡。小宮山新石衛門上ヶ地

一、巢鴨大原町五百坪

但、小石川茗荷谷屋敷差上ヶ爲代地、五人分屋敷大繩之通渡。

同日渡。

一、三田十番馬場脇七坪

但、屋敷續引留り道、願之通添地之渡。

殷 昌 期

十二月廿五日渡。阿部伊勢守上ヶ地之内三宅彌八郎上ヶ地

一、小石川七拾坪

十二月廿五日渡。水野六左衛門上ヶ地并山本宗法上ヶ地御渡

一、深川海邊新田四百拾六坪

十二月廿五日渡。内藤甚五左衛門上ヶ地

一、南本所二ツ目貳百拾坪

十二月廿六日渡。鈴木次郎上ヶ地

一、三田元御屋敷之内百三拾坪

同日渡。

一、三田十番馬場脇七坪

新御番加藤左兵衛組

杉源左衛門

御作事下奉行

勝田道助

富士見御寶藏番

西郷七左衛門

御司矢鑑奉行支配同心

山本五郎八

加藤又兵衛

二葉治左衛門

水越幾右衛門

山村安右衛門

御下男

文五郎

大御番御澤民部少輔組

仁木藤右衛門

御島見

井田九藏

吹上御廣敷番之頭支配御小人

吉田理右衛門

西丸御中

手島幸右衛門

柳本長九郎

西丸御中

手島幸右衛門

柳本長九郎

西丸御中

手島幸右衛門

柳本長九郎

西丸御中

手島幸右衛門

柳本長九郎

東京市史稿
 十二月廿六日渡。水越與左衛門久野專八上ヶ地御長屋跡
 一 權田原元御屋敷之内五拾四坪餘
 十二月廿七日渡。明地御長屋跡
 一 麻布新馬場百拾坪
 同日預。同斷空地
 一 同所拾坪

寬延二巳年十二月廿一日

相模守殿 正亮。田 順阿彌ヲ以御渡シ。寫。

御普請奉行。記。

加藤甚右 窪田宇右 西山昌詮 稻垣種信 神原左兵衛 小宮山昌世 佐久間言宴 松倉高重 長谷川長貞 本多支幸

窪田宇右衛門拜領屋敷
 小日向築地三百坪
 加藤甚右衛門拜領屋敷
 小日向金剛寺坂上五百拾壹坪餘
 稻垣越中守拜領屋敷
 大久保四丁町八百八拾坪
 西山宗助拜領屋敷
 本郷御茶水五百坪
 小宮山左衛門拜領屋敷
 牛込御門之内八百三拾貳坪
 神原左兵衛拜領屋敷
 小石川龍慶橋千貳百坪
 松倉三郎拜領屋敷
 三番町三百五拾坪
 佐久間郷右衛門拜領屋敷
 青山御路次町百九拾壹坪餘
 本多田吉拜領屋敷
 北本所三ツ目通貳百五拾坪
 長谷川源次郎拜領屋敷
 谷中元善光寺前角五百五拾坪餘

五二二
 吹上御廣敷御下男役
 奧山甚助
 御留守居高力若狹守同心
 小林助
 右 同 預地人
 屋敷書拔

御小姓組花房近江守組
 加藤甚右衛門
 大御番堀長門守組
 窪田宇右衛門
 西山御書院番柴田丹後守組
 西山昌助
 小普請公下加兵衛支配
 稻垣種信
 西丸御書院番大岡土佐守組
 神原左兵衛
 小普請組奥田八郎左衛門支配
 小宮山進
 御勘定組頭
 佐久間郷右衛門
 小普請組田采女支配
 松倉言宴
 小十八安藤端正少納言
 長谷川源次郎
 小普請組川勝左京支配
 本多支幸

大原彦四郎 神原三郎 飯島國忠 藤沼勝就 駒井邦佳 相澤半之丞 杉本國寬 村田彌吉 後藤彦助 山田幸右 大塚勝五郎 西尾市太夫

神原三郎左衛門拜領屋敷
 筋違橋外貳百九拾三坪
 大原彦四郎拜領屋敷
 本所石原百五拾坪
 藤沼太郎兵衛拜領屋敷
 南本所三ツ目三百坪
 飯島八郎左衛門拜領屋敷
 牛込山伏町三百五拾坪餘
 相澤半之丞拜領屋敷
 權田原元北御屋敷之内貳百四拾九坪餘
 駒井十郎拜領屋敷
 本所石原貳百五拾坪
 村田彌吉拜領屋敷
 麻布新屋敷脇三百坪餘
 杉本源太郎拜領屋敷
 元誓願寺前百八拾坪餘
 山田幸右衛門拜領屋敷
 青山淺香町百六拾坪
 後藤彦助拜領屋敷
 赤坂一ツ木町貳百貳拾坪
 西尾市太夫拜領屋敷
 四谷南寺町百貳拾八坪
 大塚勝五郎拜領屋敷
 深川平野町百五拾坪

右願之通屋敷相對替被仰付。御間得其意例之通可被致。

言宴 佐久間郷右衛門。知名重次郎。

相對替御書附書拔

寬延二巳年十二月廿二日青山御路頭町續屋敷百九十壹坪餘。市ヶ谷御門内三番町松倉彦三郎屋鋪三百五十坪。相對替願之通被仰付。旨堀田相模守殿御書付を以被仰

屋鋪届出制
其他申明

廿四日戊戌○寛延二年(紀元二四〇九)十二月〇戊戌三正綜覽。屋鋪届出ニ關スル申令有リ。同時ニ下乗制從者制ヲ申明ス。○寛延二錄。寛延二錄。實紀。

屋鋪届出制
其他申明事
蹟

屋鋪届出制其他申明

寛延二錄。寛延二錄之ヲ廿八日ニ繫ク。今惇信院殿御實紀ニ從フ。

廿八日○寛延二年十一月〇中略。

一、左之御書付三通、酒井左衛門尉殿○忠、松平右近將監殿○武、御渡被成い。

屋敷違變并名改次日家督等之儀、屋敷改い可相届旨、享保四年相觸い通、右之趣向後共度々屋敷改い可相届い。

右之趣向々い可被相觸い。

一、諸大名下乗場所之儀、前々後違狼ニ相成いニ付、向後ニ國持大名さりとといふとも、大手之方ニ張番所東之角限り、内櫻田之方ニ張番所向御堀端東之角を限り、被致下乗可然い。

右享保三戌年相觸い通、彌此旨相心得い様可被達い。

十二月○寛延二年。

下馬より下乗橋迄召連人數之覺

一、四品及拾万石以上并ニ國持之嫡子侍六人、草履取壹人、狹箱持貳人、陸尺四人、雨天之節ニ傘持壹人、節ニ傘持壹人。

一、壹万石以上より侍或ニ五人、或ニ四人、應分限、此内を以可被列い。草履取挾箱持壹人、陸尺四人、雨天之節ニ傘持壹人。

下乗か内い召連い人數之覺

一、四品及拾万石以上并國持之嫡子侍三人。

一、壹万石以上之嫡子共侍貳人、幼少之面々ニ外ニ介添壹人、可爲勝手次第い。右草履取壹人、狹箱持壹人、但、狹箱之中、之御門外ニ可被殘い。雨天之節ニ傘持壹人。

一、諸番頭諸物頭布衣以上之御役人并中奥所小性衆三千石以上之寄合、侍貳人、草履取壹人、狹箱持壹人、雨天之節ニ傘持壹人。

一、三千石以下之寄合布衣以下御役人中奥御番衆惣御番衆、侍壹人、草履取壹人、狹箱持壹人、雨天之節ニ傘持壹人。

一、醫師、侍壹人、草履取壹人、藥箱持壹人、雨天之節ハ傘持壹人。

一、御城部屋無之面々ニ、狹箱中之御門外ニ可被殘い事。

但、御役人ニ、可爲只今迄之通事。

一、江戸中往還之節、供廻り小勢ニ可被列い。縦國持さりとといふとも、騎馬一騎、二騎、供鎧二本、三本ニ過へから、惣躰又その等輕可被列事。

一、九千石、五千石迄、侍七人、八人。

一、四千石、三千石迄、侍六人、七人。

一、貳千石より千石迄侍四人より三人。○此ノ次
一行脱款

一、貳百石同壹人より貳人。

一、三千石より四千石迄押足輕壹人。

一、三千石以下を、押足輕無用。

但、番頭并芙蓉間御役人を押壹人。

一、輕キ輩、長柄傘無用なるへき事。

一、陪臣之輩召連ひ供之者、右人數ニ准シ、彌小勢之可被申付ひ。

右之趣、急度可被相觸ひ、惣躰供之者、風俗目立不申ひ様作法宜可申付ひ。五之片付、通り

之障り之不罷成ひ様之可申付ひ。

一、御城内外召連ひ供廻り等、從先年猥之成ひ之間、享保三戌年被仰出ひ通、彌相守可被

申ひ。以上。

十二月〇寛延
二年

寛延錄〇寛延
録同

廿四日〇寛延二年十
二月〇中略また令せられしは、およそ賜邸をうつしかへ、またはをのが名をあらため、あるは家つぎし事など、其折々に屋敷改に申つかはすべし。また令せらるゝは、城門にて轎降る處、近ころ法にたがふ輩もあれば、此後は國持を始め、大手は張番所東の角を限り、内櫻田の方は張番所前堀の東角をかぎりとするべし。又下馬より下乗までの從者のかずは、四位十萬石以上并に國持の嫡子は侍六人、草履持一人、狹箱持二人、轎夫四人、雨日

には傘もち一人、一萬石以上は侍五人か四人、その分限にかなひて具し、草履持一人、狹箱持一人、轎夫四人、雨日はかさもち一人なり、また下乗の轎より内は、四位十萬石以上をよひ國持嫡子は侍三人、一萬石以上并に嫡子は侍二人、幼稚のやからは別に付添一人具するも心にまかすへし、草履持一人、狹箱持一人なるべし。まかし狹箱は中の門にとゞめ置べし、雨日はかさもち一人、諸番頭をはじめ、布衣以上、中奥小性、三千石以上の寄合、侍二人、草履持一人、狹箱持一人、雨日はかさ持一人、三千石以下寄合、布衣以上、中奥番士をはじめ、諸番の士までは侍一人、ざうり持一人、狹箱持一人、雨日は傘持一人、醫員は侍一人、草履持一人、藥籠持一人、傘持一人、すべて城中に直廬なき者は、狹箱中門外にとゞむべし、有司はこのかぎりにあらず、府内往來する時は、從者をはぶくべし、たとひ國持たりとも騎馬は一騎か二騎、從者のやりは二本三本にかぎるべし、九千石より五千石までは侍七人か八人、四千石より三千石までは侍六人か七人、二千石より千石までは侍四人か五人、九百石より三百石までは侍二人か三人、二百石より下は一人か二人、五千石以上は押の足輕二人、三千石より四千石までは壹人、其以下は押足輕を禁ぜらる、されど番頭芙蓉間伺候の有司は、このかぎりにあらず、祿少き者は長柄傘もたす事とゞめらる、陪臣の從者もこの制に准じ、いよゝすくなかるへしとなり。をよそ從者のさま質素を旨とし、たがひに道を譲り、妨げならさるやうあるへしとなり。これらの事、享保年中令せられしを、重ねてふれられしなり。

——惇信院殿御實紀

社寺地異動

是年二〇寬延二年(紀元二四〇九年)社寺地異動若干有り。地子古跡。寺社帳。御朱印。社帳。屋鋪。預繪。除地古跡。寺社帳。古跡。寺社帳。屋鋪。預繪。除地古跡。

社寺地異動

帳。御朱印。拜領地。古跡。寺社帳。
社寺地異動 寬延二年若干社寺地ニ異動ヲ見ル。

三田稻荷社

三田稻荷社 社地ニ貸家ヲ建ツ。
三田稻荷社地五百五拾七坪。

根津權現神主
伊吹左門支配

右左門相願い者、稻荷社及大破い之付、修復爲助成、社地明地六ヶ所、坪數三百五拾壹坪之地面、當巳年二〇寬延二年より來る卯年九〇寶曆九年迄、中年拾ヶ年季、町人共へ借地之致度旨、願出い之付、見分之者、差遣、社地被遂、吟味、近所武士方へも相尋い處、右社地之家、作出來いる爲、相障儀無い之、新規之借地、其上坪數多い之付、伺之上願之通り、被申付候、且又有來表門社地内へ壹間引込、相建、表門跡へ有來一之鳥居引出し、有來二之鳥居坂上石段之内へ引直、本社拜殿之脇西之方へ、新規之御供所、梁間三間、桁行四間半、本社へ通路之廊下附、東之方有來木戸門續之、新規之九尺之木戸門明ヶ、裏門之致度旨、相願い之付、吟味之上願之通、被申付、借地之儀、町屋ヶ間敷、作事見世商等之勿論、紛敷者、差置申間敷候、由、年季之内之を返地之者、有い之、早速可相届旨、證文被申付、寺社方帳面張紙仕い由、寺社奉行連印之斷手紙を以て申越い。依之寬延二己巳年七月四日申上、御帳面張紙仕候。

寬延二己巳年八月廿二日大岡越前守の書付を以、永坂三田稻荷社地十年季家作願之通申

付い由申來い。繪圖を諸繪圖之内に入置。

根津權現神主
伊吹左内

右抱麻布永坂三田稻荷社地之内三百五拾壹坪之地所、此度別紙繪圖之通、當巳年二〇寬延二年來ル卯年九〇寶曆九年迄、中年十年季家作之儀、願出い之付、御老中に伺之上願之通、申付い。町人致住居い之付、申達い。

八月廿二日二〇寬延二年

享保撰要類集

澁谷氷川明神社

澁谷氷川明神社 境内藥師堂ヲ改建ス。

山王觀理院末
澁谷氷川明神別當
天台宗 寶泉寺

除地社地 六千八百四拾坪

内、五百貳拾貳坪。但、廣六間、堅八拾七間。

右寶泉寺相願い者、境内在來い梁間貳間、桁行貳間半、壹間と壹間九尺之三間半折廻し之下屋四尺貳間之向拜、此坪數合拾貳坪五合八勺之藥師堂爲、火除門外同社地内道之際へ引移、堂梁間貳間之桁行三間、拜殿九尺三間半、壹間と九尺之向拜附、此坪數合拾貳坪七合五勺、作事建直申度旨、願出い之付、見分之者、差遣、被遂、吟味、隣寺所之ものへも被相尋い處、社地内除地之儀、得之、何之相障無之旨、證文差出い之付、願之通り、被申付、寺社方帳面張紙仕い由、大岡越前守の方より印形之斷手紙を以て申越い。私共場所見分仕い處、相違之儀無御座い。依之寬延二己巳年五月十六日申上、御帳面張紙仕い。

股 昌 期

五一九

南臺寺

南臺寺 門模様替

拜領地 境内五百六拾坪

上總國廣如寺末
曹洞宗 南臺寺

地子古跡寺社帳

右南臺寺願出の者唯今迄有來の表門客殿見通シ惡鋪の付此度北の方の九尺引直シ、有來の表門之通明キ七尺兩開キ北の方三尺之潜付冠木門之作事仕度旨相願の付見分之者差遣シ被遂吟味隣寺近所を被相尋の處何之相障儀無之出願之通門引直シ被申付寺社方帳面張紙仕の由青山因幡守^{〇正}方の印形之斷手紙を以申越の依之寬延二巳年六月三日申上御帳面張紙仕の

拜領寺社帳

西光寺

西光寺 門開設

古跡年實地 物坪數六百七拾坪

白金
淨土宗 西光寺

右西光寺相願の者東之方有來表門一方口の近邊出火之節退の場所不勝手之付難儀仕の間境内東之方竹垣惣圍並ニ南境より三間置高サ六尺横五尺木戸門竹戸兩扉之致新規之用心口壹ヶ所明ヶ平生之鍵おろし置申度旨願出の付見分之者差遣被遂吟味隣寺へ被相尋の處障儀無之旨證文差出の間願之通被申付寺社方帳面張紙仕の由稻葉丹後守^{〇正}方より印形之斷手紙を以て申越の依之寬延二巳年四月廿九日申上御帳面張紙仕の

地子古跡寺社帳

長昌寺

長昌寺 門前町家ヲ撤シテ地藏堂ヲ建ツ

古跡年實地 境内坪數貳百五拾坪

越生龍證寺末
曹洞宗 長昌寺

内門前町屋壹間小間東之方貳間南之方九尺
右相願の者當寺古來より在來の地藏願主有之堂建立致度得共境内場所無御座の間先規より之門前町屋相潰其跡へ貳間四方之地藏堂建立致度の依之町並諸役等差免の様願出の付町並諸役等之儀馬場讚岐守方へ被承合の所差免のるを相障儀無之旨申來の由猶又見分之者差遣し遂吟味隣寺並ニ名主へ被相尋の處障儀無之旨證文差出し相違無之の付願之通被差免寺社方帳面張紙仕の由青山因幡守^{〇正}方より印形之斷手紙を以て申越の私共場所見分仕の所相違之儀無御座の依之寬延二巳年十一月廿四日申上御帳面張紙仕の

地子古跡寺社帳

法雲寺

法雲寺 地所ノ寄進ヲ受ケ建物ヲ模様替ス

年實地 境内四百三拾坪

安藝廣島國前寺末
日蓮宗 法雲寺

外五拾坪此度願の寄進地
右法雲寺相願の者前通町屋之る客殿鎮守堂庫裏物置等在家建込先年類焼之節火防難成の付墓所少々廣め客殿鎮守堂庫裏物置を引下け前通り明けの火防等宜旨然る所且方之内万屋傳七と申者法雲寺境内後之方地續きて屋鋪所持の付右之内五拾坪寄進可仕由右地面墓所之仕度旨願出の付見分之者差遣の處前通り町屋建込有之儀

五二一

殷昌期

紛無之由、尤隣寺並ニ町内之者被遂吟味、い處障儀無之傳七儀舟橋安左衛門支配所之付、
是又被相尋い處相障儀無之由、窺之上願之通被申付、有來境内四百三拾坪と、此度寄進地
五拾坪と不紛様之仕寄進地へ之作事不仕、年貢自今法雲寺可差出旨、證文被申付、寺社方
帳面張紙仕い由、寺社奉所連印之斷手紙を以て申越い私共場所見分仕い處相違之儀無
御座い依之寬延二己巳年正月十八日申上、御帳面張紙仕い。——地子古跡寺社帳

等覺寺

等覺寺 貸地ヲ繼續ス。

除地 境内五千九十六坪餘

東叡山末
天宗等

覺寺

内、百貳拾八坪 清隆寺ニ貸地。

右等覺寺願出候者、隣寺清隆寺境内手狭之付、借地致度由之付、除地境内五千九十六坪餘
之内百貳拾八坪、寛永十五年寅年以來十年季之相定借し來候之付、元文四年十二月〆當
巳年〇寛延迄、中年十年季之借し置申候處、當巳年二〇寛延迄之九年、限明ケ候之付、唯今迄
之通來、午年三〇寛延〆來ル辰年一〇寶曆迄、中年十年季又々貸し續申度由、願出候故、被遂吟
味、障儀無之之付、願之通被指免候由、青山因幡守〇正方〆印形之斷手紙ヲ以申越候、依之
寬延二己巳年十二月十六日申上、御帳面張紙仕候。——除地古跡寺社帳

淨泉寺

淨泉寺 地所貸繼。

古跡 境内千四百拾九坪。

國府台、綱寧寺末
曹洞宗 淨泉寺

寺

内、七百六十八坪 年餘貸地。

右淨泉寺相願候者、境内西之方三十一坪之所、去ル末年〇元文〆當巳二〇寛延十二月迄、中
年十年季貸置候處、年季明ケ候間、當巳年二〇寛延〆來ル卯年九〇寶曆迄、中年十年季貸續度
旨相願候付、見分之者差遣し被遂吟味相違無之付、願之通被申付、寺社方帳面張紙仕候由、
稻葉丹後守〇正方〆印形之斷手紙ヲ以申越候、依之寬延二己巳年十二月廿九日申上、御
帳面張紙仕い。——除地古跡寺社帳

天徳院

天徳院 貸地續繼。

拜領地 境内貳千九百貳拾五坪

駒込吉祥寺末
曹洞宗 天徳院

院

内、拾六坪五合 清隆寺へ貸地。

右天徳院願出い之隣寺清隆寺境内手狭之付、貸地致し度由之付、拜領地境内貳千九百貳
拾五坪之内、拾六坪五合、寛永十五年寅年以來拾年季之相定貸し來りい之付、去る元文四
未年十二月より當巳年二〇寛延迄、申年拾年季之貸し置申い處、當巳年二〇寛延迄之九年、限
い之付、唯今迄之通り來、午年三〇寛延〆より來る辰年一〇寶曆迄、申年拾年季之又々借し續申
度由、願出い故、被遂吟味障儀無之之付、願之通り指免い由、青山因幡守〇正方〆印形
之斷手紙を以て申越い依之寬延二己巳年十二月十六日申上、御帳面張紙仕い。——古跡寺社帳

感通寺

感通寺 新ニ木戸門ヲ開ク。

同斷
法華宗 感通寺

寺

一、當地拾三年。

五二三

一、寺内千三百貳拾貳坪。
内、九百拾四坪 年貢地。

惣坪數千三百貳拾貳坪。

内、四百八坪 拜領地。

九百拾四坪 持添年貢地。

右感通寺相願の者、有來表門一方口之、近邊出火之節退場不勝手之付、難儀故境内表通南境より拾壹間置惣圍より八尺引込、高サ八尺五寸横八尺貳寸兩扉貫キ打付、右之方扉之内潜り付、木戸門壹ヶ所、新規之明ヶ、右之門之兩脇三尺宛之板塀付之、作事仕度旨願出の之付、見分之者差遣し、被遂吟味、近隣へも被相尋ひ處、障儀無御座の旨願之通被申付、寺社方帳面張紙仕由、稻葉丹後守益〇正方より印形之斷手紙を以て申越ひ、依之寛延二己巳年十月九日申上、御帳面張紙仕候。

林泉寺外二寺 代地轉移。

圖略。

護國寺後林泉寺代地 坪數六拾壹坪。

東 新道。寺代地。 西 道。
南 無量寺代地。 北 三木清左衛門。

東 七間一尺。餘。
南 八間四尺餘。

同 無量寺代地 坪數三拾六坪。

東 稱名寺代地。 西 林泉寺代地。
南 新道。 北 三木清左衛門。

東 七間一尺。
南 五間八寸。

同 稱名寺代地 坪數三拾坪。

東 千種傳次郎上地。 西 無量寺代地。
南 新道。 北 三木清左衛門。

東 七間一尺二寸。 西 七間一尺七寸。
南 四間四尺二寸。 北 三間四尺七寸。

若荷谷林泉寺、築土八幡別當無量寺、小日向水端稱名寺、右三ヶ寺、寺地之内先年御用之付被召上代地、小石川諏訪町之、被下置の處、此度右之地所御用之付被召上、爲代地、護國寺後小川惣左衛門上ヶ地、新道ヲ附元坪之通拜領任、御渡し被成、四方間數坪數、右御繪圖之面御定杭之通、相違無御座、銘々請取申ひ、爲後日仍如件。

寛延二己巳年二月十一日

禪宗 林泉寺印

築土八幡別當 無量寺印

一向宗 稱名寺印

水谷信濃守内畠山杵平太。

加藤備後守内關音右衛門。

右立合相改渡之。

屋鋪渡預繪圖證文

林泉寺外二寺